

授業科目名： 英語音声学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ムーア ジェフリー マシュー
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
英語の発音の研究および教育に必要な音声学の基本的知識を学ぶ。特に調音のメカニズムと聴解力向上にも役立つ音声過程について詳しく検討する。また、IPAを使用した発音の表記法を習得する。 さらに、英語の歴史的変遷と国際共通語としての英語の実態について理解する。			
授業の概要			
英語の音韻構造について、主に調音音声学と音響音声学の視点から講義と演習を行う。音声学の基礎から始め、人間の調音器官の解説、分節音の分類方法と名称、発音記号（IPA）を使った表記法、同時調音や同化現象などの調音過程、ストレスやイントネーションなどの韻律要素について下記の授業計画に沿って学ぶ。			
授業計画			
第1回： 音声学の基礎：調音、音響、知覚、研究方法、英語の歴史的変遷			
第2回： 調音器官の構造と名称について			
第3回： 国際発音記号（IPA）を用いた表記法について、国際共通語としての英語			
第4回： 英語・日本語・中国語の音韻の構造の比較			
第5回： 英語の音類：母音/子音、口音/鼻音、阻害音/共鳴音・接近音、有声音/無声音などについて			
第6回： 英語の母音(1)：単母音について			
第7回： 英語の母音(2)：長母音と二重母音について			
第8回： 復習、演習、中間テスト			
第9回： 英語の子音(1)：阻害音について			
第10回：英語の子音(2)：共鳴音について			
第11回：英語の韻律(1)：強勢（ストレス）の構造と機能について			
第12回：英語の韻律(2)：音調（イントネーション）の構造と機能について			
第13回：調音過程(1)：同時調音、同化、異化などについて			
第14回：調音過程(2)：挿入、消去などについて			
第15回：復習、演習、期末テストの予習			
期末テスト			

テキスト	
川原繁人（2018）『ビジュアル音声学』三省堂	
参考書・参考資料等	
Dacci from 英語物語，リチャード川口（2019）『発音記号キャラ辞典』角川書店	
学生に対する評価	
アンケート：1回1点、合計15点	
提出物：	25点
中間テスト：	30点
期末テスト：	30点
合計：	100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英文法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 渡慶次正則・中村浩一郎 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 英語を正しく使う際に必要な英文法の要点を理解し、苦手な項目あるいは理解が不十分だった項目に対しても理解を深める。さらに、英語の歴史的変遷と国際共通語としての英語の実態について理解する。			
授業の概要 本科目は対面講義では講義形式を主体とし、指名による受講生の発表も含む。 英語を読み、聞き、書き、話し、発表する際に必要な英文法の知識を身につけ、丸暗記ではなく「実践的な英文法」の概要を示す。具体的にはテキストの英文法項目を解説しその内容を理解した上で、問題を解きながら要点理解度を把握する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：英文法項目の診断テスト、Unit 1,2,3,4＝現在時制、 現在進行形（概要）、英語の歴史的変遷（中村） 第2回：Unit 5,6,7,8＝過去形、過去進行形、現在完了形、現在完了形と過去形（中村） 第3回：Unit 9,10,11,12＝現在完了形、現在完了進行形、接続詞と副詞と時制との関連（中村） 第4回：Unit 13,14,15,16,17＝現在完了形と過去形、過去完了(進行)形、used to （中村） 第5回：Unit 18,19＝未来を表すbe -ing, 現在形、be going to 未来形（中村） 第6回：Unit20,21,22,23,24＝Will, be going to, will be doing, will have done 助動詞+自制（中村） 第7回：Unit 25,26,27,28,29＝Can,could, be able to, must, may,might 助動詞（中村） 第8回：中間テスト、Unit 30,31,32,33,＝Have to, must, should, I'd better, it's time 助動詞他、 国際共通語としての英語（中村） 第9回：Unit 34, 35, 36,37,38,39＝Would, Can.Could you?, if and wish :仮定法（渡慶次） 第10回：Unit 40,41,42,43,44, 49,50＝受動態、法助動詞と付加疑問文（渡慶次） 第11回：Unit 51,52,53,54＝動詞＋-ing形、動詞＋to不定詞Part 1 （渡慶次） 第12回：Unit 55,56,57,58,59＝動詞＋-ing形、動詞＋to不定詞Part 2 （渡慶次） 第13回：Unit 60,61,62,63,64,65,66＝動詞+前置詞＋-ing形、ingの慣用表現 （渡慶次） 第14回：Unit 90,91,92,93,94,95＝関係節（渡慶次）			

第15回：Unit 96,109,110,117⇒ing形と-ed形を取る形容詞、接続詞 （渡慶次）
 期末テスト

テキスト

Murphy, Raymond with William R. Smalzer and Joseph Chapple (2018) 『Grammar in Use Intermediate』 Fourth Edition, Cambridge University Press,

参考書・参考資料等

Michael Swan (2016) 『Practical English Usage』 Fourth Edition, Oxford University Press.

学生に対する評価

授業への参加、発表：20点

中間テスト 30点

期末テスト：50点

合計：100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 言語学概論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村 浩一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 (1) ヒトが母語を獲得する仕組みについて理解する。 (2) ヒトが音を発する仕組みについて理解する。 (3) アクセント、イントネーション、音調など文を発する際の音韻的効果について理解する。 (4) 単語を校正する仕組みについて理解すると共に、新語形成の仕組みについても理解する。 (5) 文はただ線形順序で並んでいるのではなく、階層を成していることを理解し、日本語、英語、イタリア語、中国語など世界の言語の構造上の相違点、類似点について理解を深める。			
授業の概要 本科目は講義・演習（グループワークも含む）科目である。 本科目は講義形式で行うが、受講者が授業へ積極的に参加できるよう、毎回配布するコメントシートへ疑問、質問を記入することを奨励し、それに対する回答を次回の授業で提示する また、グループ／ペアでのディスカッションも必要に応じて行う。 「ヒトがなぜ言語を使いこなせるか？」という基本的な問いかけから出発し、コミュニケーションの手段ではなく「研究対象」としての言語を扱う研究分野である言語学の基本概念を解説し、言語現象をどう解明するかを講義する。 具体的には、理論言語学の中核をなす以下の分野を取り上げる。 ヒトがどのように母語を獲得するかを扱う第1言語獲得論、発生のメカニズムを探る音声学 イントネーション、音調など音に関する現象を扱う音韻論、単語が成り立つ仕組みを分析する形態論・語形成、言語の構造を分析し、その整然たる姿を精査する統語論である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：言語研究とはどのようなものか＝授業の概要説明 第2回：第1言語獲得 Part 1 言語獲得の生得性 第3回：第1言語獲得 Part 2 言語獲得の言語間差異 第4回：音声学：言語の発音、発声、音象徴 第5回：音韻論 Part 1：文、単語のアクセント 第6回：音韻論 Part 2：強勢、イントネーション、音調 第7回：語形成・形態論：単語の構造、新語形成規則			

第8回：第7回までの問題点再確認と中間テスト

第9回：統語論 Part 1文の容認性に関するネイティブ・スピーカーの直観

第10回：統語論Part 2 選択制限と下位範疇化

第11回：統語論Part 3 意味解釈の曖昧性と統語構造

第12回：統語論Part 4 文に対する構造分析の基本

第13回：比較対照統語論 Part 1：言語の語族

第14回：比較対照統語論 Part 2：日英比較対照Part 1-構造分析

第15回：比較対照統語論 Part 3日英比較対照 Part 2-意味解釈と構造

期末テスト

テキスト

使用しない。毎回プリントを配布すると共に、必要に応じてインターネットサイト、資料などを紹介する。

参考書・参考資料等

柴谷方良・田守育宏・影山太郎(1981)『言語の構造?統語・意味篇』くろしお出版

西原哲雄編(2017)『朝倉日英対照言語学シリーズ1 言語学入門』朝倉書店

学生に対する評価

授業中の発言・質問、コメントシートの質問・コメント：10点

中間テスト：45点

期末テスト：45点

合計：100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 英語学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員：中村 浩一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
（1）英語という言葉の成り立ちと歴史について理解し、更に英語を含むインド・ヨーロッパ語の成り立ちについての理解を深める。 （2）英語の発音について理解し、音に関する規則を理解する。 （3）英単語の仕組みを理解し、語形成規則を理解する。 （4）英語の文構造を理解し曖昧性のある文を階層構造上表記する方法論などを身につける。 （5）英単語、文の意味について理解を深め、法助動詞の歴史的変遷について、更にはプロトタイプ、メタファーに関する理解を深める。 （6）含意、前提など、文という単位を超える概念について理解し、表面には出てこない意味をどう捉えるか、更に「フェイス」という概念について理解する。			
授業の概要			
本科目は講義形式で行うが、受講者が授業に積極的に参加できるよう、毎回配布するコメントシートへ疑問、質問を記入することを奨励し、それに対する回答を次回の授業時に提示すると共に、グループディスカッションも講義中に適宜行う。 理論言語学の枠組みの中で、英語を研究対象として捉えた研究分野である「英語学」を構成する理論について概観し、英語についての現象を理論的に分析する方法論を紹介する。 具体的には、英語の歴史を扱う英語史、英語の発音について分析する音声学、音を構成する仕組みについて分析する音韻論、英単語の仕組みを扱う語形成・形態論、英文の構造について分析する統語論、単語から文章の意味や法助動詞、更にはプロトタイプ、メタファーなどについて分析する意味論、文のまとまりである談話、Face Threatening Act (FTA)などを取り扱う語用論について概説する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：英語学とはどのような分野なのか、と英語史の概説 第2回：英語史：中英語から現代英語へ：語順の固定、母音大推移、屈折の消失 第3回：音声学：IPA、母音・子音の発音、音節構造 第4回：音韻論 Part 1：生成音韻論、自然音韻論 第5回：音韻論 Part 2：自然音韻論、語彙音韻論、音韻論と統語論のインターフェース 第6回：形態論 Part 1：派生と屈折、接頭辞・接尾辞			

第7回：形態論Part 2：語の右側主要部、阻止、逆成、異分析 第8回：前半のまとめと中間テスト 第9回：意味論 Part 1：意味関係、意味に関する理論 第10回：意味論 Part 2：形式意味論、概念意味論、認知意味論 第11回：語用論 Part 1：発話行為理論、会話仮説理論 第12回：語用論Part 2：ポライトネス理論、関連性理論 第13回：統語論part 1 言語に関する直観、句構造規則、X'理論 第14回：統語論 Part 2 英語の統語構造：VP, NP, AP, PP 第15回：統語論 Part 3 英語の統語構造：IP, CP、日本語の統語構造 期末テスト
テキスト 西原哲雄・高橋潔・中村浩一郎(21014)『現代言語理論の概説』鷹書房弓プレス
参考書・参考資料等 北川義久・上山あゆみ(2005)『生成文法の考え方』研究社
学生に対する評価 授業中の発言・質問、コメントシートのコメント・質問：10点 中間テスト：45点 期末テスト：45点 合計：100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目： イギリス文学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： メーガン・クックルマン 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
- to introduce students to British culture through a study of major texts - to know and be able to use poetry terms such as rhyme, rhythm, meter, form, etc. - to improve English writing and reading comprehension skills - to develop a respect for language as an aesthetic medium			
授業の概要			
This course covers major texts in British Literature, with a focus on poetry. Texts will be discussed both thematically and formally, with careful attention given to literary language and slang. The course will be conducted entirely in English.			
授業計画			
第1回： Course Introductions. Syllabus and class schedule. Discussion: What is literature and why should we study it?			
第2回： Introduction to Formal Poetry; Housman, “When I was one-and-twenty.” Discussion: aspects of formal poetry, how to discuss English poetry.			
第3回： Reading Quiz and Reading Notes due; Herrick, “To the Virgins, to Make Much of Time”; Discussion: The carpe diem poem			
第4回： Reading Quiz and Reading Notes due; Burns, “A Red, Red Rose.” Discussion: Metaphor, simile, imagery in poetry. English love poetry.			
第5回： Reading Quiz and Reading Notes due; Shakespearean Sonnets (“Shall I Compare Thee...”). Discussion: The sonnet form.			
第6回： Reading Quiz and Reading Notes due; Shakespearean Sonnets (“Shall I Compare Thee...”). Discussion: Finish discussion of the poem.			

第7回 : Reading Quiz and Reading Notes due; Shakespearean Sonnets (“My Mistress’ Eyes...”). Class activity: Drawing the “mistress”

第8回 : Reading Quiz and Reading Notes due; Siegfried Sassoon, “They.” Discussion: World War I Poetry.

第9回 : Reading Quiz and Reading Notes due; William Butler Yeats, “The Second Coming.” Discussion: Irish Poetry.

第10回 : Introduction to Free Verse Poetry; Tempest, *Let Them Eat Chaos*. Discussion: Free verse and spoken word poetry.

第11回 : Reading Quiz and Reading Notes due; Tempest, *Let Them Eat Chaos*. Discussion.

第12回 : Poem Analysis Due; Reading Quiz and Reading Notes due; Tempest, *Let Them Eat Chaos*. Discussion. Finish the poem.

第13回 : Creative Writing Project Introduction: Developing a theme, Finding images and writing metaphors

第14回 : Creative Writing Workshop: Use of rhyme, rhythm

第15回 : Creative Writing Workshop: Peer Review of poems

第16回 : No Final Exam. Creative Writing: Poetry Reading (performance of individual poems); Submit Creative Writing Poem and Journal

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

Reading Quizzes: 20 points

Reading Notes: 20 points

Poem Analysis: 30 points

Creative Writing Project Journal: 30 points

Total: 100 points

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目： イギリス文学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： メーガン・クックルマン
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 著名なテキストの研究を通じて、英国文化を生徒に紹介する 韻、リズム、歩格、形式など、詩の表現を知り、使えるようになる 英語のライティングとリーディングの理解力を高める 美的媒体として言語を尊重する姿勢を養う			
授業の概要 このコースでは、詩を中心に英国文学の著名なテキストを扱います。テキストをテーマ別、形式別に論じ、文学的言語やスラングにも注意を払います。このコースはすべて英語で行われます。			
授業計画 第1回：コースの紹介。シラバスと授業スケジュール。ディスカッション：文学とは何か、なぜ文学を学ばなければならないのか？ 第2回：定型詩入門。Housman著、「When I was one-and-twenty」。ディスカッション：形式詩の側面、英詩をどう論じるか。 第3回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。Herrick著、「To the Virgins, to Make Much of Time」。ディスカッション：カルペ・ディエムの詩 第4回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。Burns著、「A Red, Red Rose」。ディスカッション：詩の中の隠喩、比喩、イメージ。英語の恋愛詩。 第5回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。ソネット集（「Shall I Compare Thee...」）。ディスカッション：ソネット形式。 第6回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。ソネット集（「Shall I Compare Thee...」）。ディスカッション：詩のディスカッションを終了する。 第7回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。ソネット集（「My Mistress' Eyes...			

」)。クラスアクティビティ：「ミストレス(女主人)」の描画

第8回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。Siegfried Sassoon著、「They」。ディスカッション：World War I Poetry（第一次世界大戦の詩）。

第9回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。William Butler Yeats著、「The Second Coming」。ディスカッション：Irish Poetry（アイルランドの詩）。

第10回：自由詩入門。Tempest著、*Let Them Eat Chaos*。ディスカッション：自由詩と話し言葉の詩。

第11回：リーディングクイズとリーディングメモの提出。Tempest著、*Let Them Eat Chaos* ディスカッション。

第12回：詩の分析の提出。リーディングクイズとリーディングメモの提出。Tempest著、*Let Them Eat Chaos*。ディスカッション：詩を終了する。

第13回：クリエイティブ・ライティングプロジェクトの紹介：テーマを膨らませ、イメージを見つけ、比喻を書く

第14回：クリエイティブ・ライティングワークショップ：韻とリズムの使用

第15回：クリエイティブ・ライティングワークショップ：詩の査読

第16回：期末試験なし。クリエイティブ・ライティング：詩のリーディング（個人の詩の成果）、クリエイティブ・ライティングの詩と日記の提出

テキスト

教材は教師が用意します。

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

リーディングクイズ: 20 ポイント

リーディングメモ: 20 ポイント

詩の分析: 30 ポイント

クリエイティブ・ライティングプロジェクト・ジャーナル: 30 ポイント

合計: 100 ポイント

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： アメリカ文学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： メーガン・クックルマン 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 - to improve English reading comprehension and discussion skills - to develop textual analysis and critical thinking skills - to understand and appreciate literary English and American-English slang as used by American authors to gain a broader understanding of past and contemporary American culture through a study of major texts				
授業の概要 This course will take a thematic approach to American Literature, focusing on themes of American identity generally and personal identity specifically. Fiction, poetry, and essays will be examined that reveal conflicting visions of American identity and culture. Attention will be given to contemporary issues in American culture, such as immigration, women’s rights, and contemporary civil protest, including how the literary expressions addressing those issues have changed over time and across cultures.				
授業計画 schedule, English okay 第1回： Course Introduction; Richard Hague, “Directions for Resisting the SAT”—What is Literature? How can literature help us study language and culture? Syllabus and class schedule. Introduction to Online Learning. 第2回： “The Serpent Story” by Salli M. K. Benedict and “Coyotes and the Stro’ro’ka Dancers” by Leslie Marmon Silko—American Indian folk tales 第3回： Paul Bunyan and Babe the Blue Ox—American Folk Tales 第4回： Writing Your Own Folk Tales—Creative Writing project during class;				

Introduction of Creative Writing Portfolio

第5回：**“I Hear America Singing,”** by Walt Whitman and **“I, Too,”** by Langston Hughes—American Transcendentalism, Harlem Renaissance, Evolving conceptions of American identity

第6回：**“The Black Finger”** and **“Tenebris”** by Angelina Weld Grimké and **“Motherhood”** by Georgia Douglas Johnson—Harlem Renaissance poetry; Black women’s poetry

第7回：***Howl***, by Allen Ginsberg—Beats, Revisions to Whitman

第8回：**“Masque of the Red Death”** by Edgar Allen Poe—American Romanticism, American horror, psychological fiction

第9回：**“Masque of the Red Death”** cont’d; Contemporary Lit Report due.

第10回：**“No Speak English,”** by Sandra Cisneros—American fiction, Immigrant fiction, language and identity

第11回：**“Miss Furr and Miss Skeene,”** by Gertrude Stein—Queer literature, Paris literary culture, experimental fiction

第12回：***Sum of Two Mothers*** by Dennis Etzel—Queer literature, contemporary poetry

第13回：**“Upon Seeing Spider-Man on my Way to Work”** and **“Superman’s Funeral”** by Gary Jackson—21st Century Poetry, Masculine identity, Superheroes

第14回：**22 Koyukon Riddles**—Native Alaskan Riddles

第15回：**Portfolio in-class work day and peer review**

第16回：**No Final Exam. Portfolio Discussion Day—Creative Response Portfolio due.**

テキスト

The teacher will provide handouts.

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

- Reading Quizzes: 25 points
 - Reading Notes: 25 points
 - Contemporary Lit Report: 25 points
 - Creative Response Portfolio: 25 points
- Total: 100 points

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： アメリカ文学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： メーガン・クックルマン
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 英語の読解力とディスカッション力を養う 内容分析とクリティカルシンキングの能力を高める 米国人著者が使用した文学英語と米語スラングを理解し、評価する 著名なテキストの研究を通して、過去と現代の米国文化をより広く理解する				
授業の概要 このコースでは、米国文学にテーマ別にアプローチし、一般的な米国のアイデンティティと特に個人のアイデンティティのテーマに焦点を当てます。小説、詩、エッセイを研究し、米国のアイデンティティと文化に関する相反するビジョンを明らかにしていきます。移民、女性の権利、現代の市民運動などの問題を扱う文学表現が、時代や文化を越えてどのように変化してきたかなど、米国文化における現代の問題に注目します。				
授業計画 schedule, English okay 第1回： コースの紹介。 Richard Hague著、「Directions for Resisting the SAT」—文学とは何か?文学は言語と文化の研究にどのように役立つのか? シラバスと授業スケジュール。オンライン学習入門。 第2回： 「The Serpent Story」 Salli M. K. Benedict著、「Coyotes and the Stro'ro'ka Dancers」 Leslie Marmon Silko著 — アメリカ先住民民話 第3回： Paul Bunyan and Babe the Blue Ox — アメリカ民話 第4回： 自分で民話を書いてみよう — 授業中のクリエイティブなライティングプロジェクト、クリエイティブなライティングポートフォリオの紹介 第5回： 「I Hear America Singing (おれにはアメリカの歌声が聴こえる)」 Walt Whitman 著 「I, Too,」 Langston Hughes著—アメリカ超越主義、ハーレムルネサンス、進化するアメリカンアイデンティティの概念				

第6回：「**The Black Finger**」、**「Tenebris」** Angelina Weld Grimké著、**「Motherhood」**
Georgia Douglas Johnson著—ハーレムルネサンスの詩、黒人女性の詩

第7回：『**Howl**（吠える）』 Allen Ginsberg著—ビート、Whitmanのリビジョン

第8回：「**Masque of the Red Death**（赤死病の仮面）」 Edgar Allen Poe著—アメリカンロマン主義、アメリカンホラー、心理小説

第9回：「**Masque of the Red Death**（赤死病の仮面）」 続き： 現代文のレポート提出

第10回：「**No Speak English**」 Sandra Cisneros著— アメリカ小説、移民小説、言語とアイデンティティ

第11回：「**Miss Furr and Miss Skeene**」 Gertrude Stein著 — ゲイ文学、パリ文学、実験小説

第12回：『**Sum of Two Mothers**』 Dennis Etzel著—ゲイ文学、現代詩

第13回：「**Upon Seeing Spider-Man on my Way to Work**」、**「Superman's Funeral」** Gary Jackson著—21世紀の詩、男性のアイデンティティ、スーパーヒーロー

第14回：「**22 Koyukon Riddles**（22のコユコン族の謎）」—アラスカ原住民の謎

第15回：ポートフォリオ授業内のワークデイと査読

第16回：期末試験なし。ポートフォリオディスカッションデー—クリエイティブレスポンスポートフォリオ提出

テキスト

配布資料は教師が用意します。

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

リーディングクイズ: 25 ポイント

リーディングのメモ取り : 25 ポイント

現代文学レポート: 25 ポイント

クリエイティブレスポンスポートフォリオ: 25 ポイント

合計: 100 ポイント

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 高等英語オーラル・ コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 ノーマン・フィーウェル
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
-To develop English proficiency at an adequate level (CEFR B2 or above) for teaching English at the junior high school and high school level. -To improve English speaking skills in interpersonal communication and presentational communication -To develop listening skills with authentic materials in a wide range of topics and situations -To promote reading skills and encourage extensive reading -To develop writing skills with individual and pair assignments -To enhance the overall English ability in the four language skill areas			
授業の概要			
This course will provide students with opportunities to expand fluency at an advanced level in spoken English through the utilization of individual, pair, and group activities. In each class, students will be expected to actively participate in communication activities and maintain an English speaking environment. Although the course will attend to interpersonal communication skills through conversation activities, a portion of coursework will focus on developing presentation skills. In addition, this course will promote an active learning setting in class and utilize ICT applications for after-class assignments. The Google Suite for Education platform will serve as the communication and collaboration medium for after-class assignments--promoting additional opportunities in L2 communication while enhancing ICT knowledge.			

In addition to the oral communication component, listening, reading, and writing activities will be utilized in the course.

The aim of this course is to help students improve their overall English language proficiency to a degree (CEFR B2 or above) that is sufficient enough to teach English at the junior high school and high school levels.

2. 到達目標

-To develop English proficiency at an adequate level (CEFR B2 or above) for teaching English at the junior high school and high school level.

授業計画

- 第1回 : Unit 7, Class introduction, ICT platforms [Google Classroom, Flipgrid]
 第2回 : Unit 7, EF Set Exam 1, vocabulary quiz 35, presentation-discussion 1
 第3回 : Unit 8, interview examination 1, vocabulary quiz 36, presentation-discussion 2
 第4回 : Unit 8, VOA News discussion 1, vocabulary quiz 37, presentation-discussion 3
 第5回 : Unit 9, VOA News discussion 2, vocabulary quiz 38, presentation-discussion 4
 第6回 : Unit 9, interview examination 2, vocabulary quiz 39, presentation-discussion 5
 第7回 : Units 7-9 review, pair presentations, vocabulary quiz 40, presentation-discussion 6
 第8回 : Unit 10, VOA News discussion 3, vocabulary quiz 41, presentation-discussion 7
 第9回 : Unit 10, BBC News discussion 4, vocabulary quiz 42, presentation-discussion 8
 第10回 : Unit 11, interview examination 3, vocabulary quiz 43, presentation-discussion 9
 第11回 : Unit 11, BBC News discussion 5, vocabulary quiz 44, presentation-discussion 10
 第12回 : Unit 12, BBC News discussion 6, vocabulary quiz 45, presentation-discussion 11
 第13回 : Unit 12, interview examination 4, vocabulary quiz 46, presentation-discussion 12
 第14回 : Units 10-12 review, EF Set Exam 2, vocabulary quiz 47, presentation-discussion 13
 第15回 : Units 10-12 quiz, individual presentations, EF Set Exam 2, vocabulary quiz 48, presentation-discussion 14
 第16回 : Final Exam
- *See Oxford University Press 'American Headway Teacher's Site' for details concerning "Scope and Sequence" of each textbook unit and CEFR equivalency.

テキスト

American Headway 3

Oxford University Press, Student edition ISBN-13: 978-0194726115

参考書・参考資料等

講義の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

Class activities 20%

Homework and assignments 40% Tests and quizzes 40%

Total 100%

Class activities:

Dialogues and scenarios

Pair and group communicative tasks

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 高等英語オーラル・ コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 ノーマン・フィーウェル 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 中学校および高校で英語を教えるのに十分なレベル（CEFR B2以上）で英語能力を伸ばす。 対人コミュニケーションとプレゼンテーションコミュニケーションにおける英語を話す能力を向上させる 幅広いトピックや状況で本物の素材を使ってリスニングスキルを磨く 読書スキルを向上させ、広範囲な読書を奨励する 個人とペアの割り当てでライティングスキルを伸ばす 4つの言語スキル分野で全体的な英語能力を高める			
授業の概要 このコースの生徒は上級レベルで、個人、ペア、グループの活動で英語を練習します。 各クラスで、学生は積極的にコミュニケーション活動に参加し、英語を話す環境を維持することが期待されます。 このコースでは、学生もプレゼンテーションを練習します。 さらに、このコースでは授業中の積極的な学習環境を促進し、授業後の課題にICTアプリケーションを活用します。 Google Suite for Educationプラットフォームは、授業後の課題のコミュニケーションとコラボレーションの媒体として機能します。ICTの知識を高めながら、L2コミュニケーションの新たな機会を促進するためです。 このコースでは、生徒は英語を話す、聞く、読む、そして書くことを練習します。 このコースの目的は、中学校および高校レベルで英語を教えるのに十分な程度（CEFR B2以上）になるまで、学生が全体的な英語能力を向上させることを支援することです。 本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める			
2. 到達目標 中学・高校の英語教育に十分なレベル（CEFR B2以上）の英語力を身につける。中学校・高			

等学校での英語教育に適したレベル（CEFR B2以上）の英語力を身につける。

授業計画

- 第1回：クラス紹介、ICTプラットフォーム[Google Classroom、Flipgrid]
- 第2回：第7回EFセット試験1、語彙クイズ35、発表討論1
- 第3回：面接試験1、語彙クイズ36、発表討論2
- 第4回：VOAニュースディスカッション1、ボキャブラリークイズ37、プレゼンテーション
－ ディスカッション3 第5回：9号機、VOAニュースディスカッション2、語彙クイズ38、
プレゼンテーション－ ディスカッション4
- 第6回：面接試験2、語彙クイズ39、発表討論5
- 第7回：ユニット7～9の復習、ペア発表、語彙クイズ40、発表討論6
- 第8回：VOAニュースディスカッション3、語彙クイズ41、プレゼンテーション－ ディスカッショ
ン7
- 第9回：ユニット10、BBCニュースディスカッション4、ボキャブラリークイズ42、プレゼンテーシ
ョン－ ディスカッション8 第10回：ユニット11、面接試験3、語彙クイズ43、発表討論9
- 第11回：ユニット11、BBCニュースディスカッション5、語彙クイズ44、プレゼンテーション－ デ
ィスカッション10 第12回：ユニット12、BBCニュースディスカッション6、語彙クイズ45、
プレゼンテーション－ ディスカッション11 第13回：ユニット12、面接試験4、語彙ク
イズ46、発表討論12
- 第14回：復習、EFセット試験2、語彙クイズ47、発表討論13
- 第15回：ユニット10-12クイズ、個別発表、EFセット試験2、語彙クイズ48、発表討論14
- テスト

*各教科書単位の「範囲と順序」とCEFRの同等性に関する詳細については、オックスフォード大学
出版局の「American Headway Teacher's Site」を参照してください。

テキスト

American Headway 3

Oxford University Press, Student edition ISBN-13: 978-0194726115

参考書・参考資料等

講義の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

クラス活動 20%

宿題と課題 40%

テストとクイズ 40%

合計100%

クラス活動：

対話とシナリオ

ペアとグループのコミュニケーションタスク

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 高等英作文	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： メーガン・クックルマン 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ プリライティング、作文、改訂など、基本的な英語のライティングスキルを向上させる。 ・ 論文、証拠、主張を用いて、明確で簡潔な議論を展開する。 ・ さまざまな状況やさまざまなトピックについて話す、読む、聞く、書くの一般的なコミュニケーションスキルを身に付ける。			
授業の概要			
このコースでは、論述エッセイの探究を通じて、生徒の英語のライティングスキルを伸ばします。生徒はテーマ、形式、そして観客を考慮しながら、最初から最後まで論述を構成することを学びます。授業は完全に英語で行われるため、学生はすべての英語コミュニケーションスキルを身に付けることができます。このクラスはCEFR B-2以上のレベルで実施されます。本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。			
授業計画			
第1回：Course Introduction: Principles of good writing, overview of writing methods, overview of the syllabus.			
コースの紹介: 良いライティングの原則、ライティング方法の概要、シラバスの概要。			
第2回：Introduction to Cause and Effect Essays			
原因結果のエッセイ入門			
- Preparation: Read pp. 90-92; Do p. 92-93, Post-Reading - In Class: Discuss the homework; Group work on sample outlines (p. 95-98)			
準備: 90～92 ページを読み、92～93 ページを行い、ポストリーディングする			
授業: 宿題について論議する、サンプル概要に関するグループワーク (95～98 ページ)			
第3回：Cause and Effect Essay Brainstorming			
エッセイのブレインストーミング			
- Preparation: Do p. 106, Activity 9-10; Do p. 107-108, Activity 11 - In Class: Check homework; Partner discussion of brainstorming; Individual work on clustering; Class work on Connectors (p. 100)			
準備: 106 ページのアクティビティ 9～10 と、107～108 ページのアクティビティ 11 を行う			

授業: 宿題の確認、ブレインストーミングのパートナーディスカッション、クラスタリングの個人ワーク、コネクターのクラスワーク (100 ページ)

第4回 : Cause and Effect Essay Outlining

原因結果のエッセイの概要

- **Preparation:** Do p. 109, Activity 13
- **In Class:** Check homework; Partner discussion of outline; Class work on Introductions and Thesis Statements

準備: 109 ページのアクティビティ 13 を行う

授業: 宿題の確認、概要のパートナーディスカッション、Introductions (導入) と Thesis Statements (主題文)に関するクラスワーク

第5回 : Cause and Effect Essay Drafting

- **Preparation:** Do p. 102, Activity 6
- **In Class:** Check and discuss homework; More practice on Noun Clauses; Class work on Conclusions

準備: 102 ページのアクティビティ 6 を行う

授業: 宿題を確認し議論する、名詞節をより練習する、Conclusions (結論) に関するクラスワーク

第6回 : Cause and Effect Essay Peer review

原因結果のエッセイの査読

- **Preparation:** Type Cause and Effect Essay
- **In Class:** Partner work on peer review

準備: 原因結果のエッセイをタイプする

授業: パートナーワークで査読する

第7回 : Introduction to Argument Essays

論法エッセイ入門

- Cause and Effect Essay due. Submit 2 copies, stapled.
- **In Class:** Discuss pp. 114-115; Begin reading p. 116 Essay

原因結果のエッセイの提出。 2 部をホチキス止めにして提出。

授業: 114~115 ページについて議論する、116 ページのエッセイを読み始める

第8回 : Argument Essay Sample Essay

論法エッセイのサンプルエッセイ

- **Preparation:** Read p. 116; Do p. 117-118, Post-Reading
- **In Class:** Check and discuss homework; Discussion of strong, assertive language in English; Partner work on Thesis Statements (p. 122-123)

準備: 116 ページを読み、117~118 ページを行う、ポストリーディングを行う

授業: 宿題を確認し議論する、英語の強い主張のある言葉について議論する、Thesis Statements に関するペアワーク (122~123 ページ)

第9回 : **Argument Essay, Principles of Argumentation**

論法エッセイ、論証の原則

- **Preparation:** Read p. 123; Do p. 124-125, Activity 5
- **In Class:** Check and discuss homework; Discussion of Counterarguments (p. 126); Group work on p. 126, Activity 6

準備: 123 ページを読み、124~125 ページのアクティビティ 5 を行う

授業: 宿題を確認し議論する、反論の議論 (126 ページ)、126 ページのアクティビティ 6 に関するグループワーク

第10回 : **Argument Essay Brainstorming**

論法エッセイのブレインストーミング

- **Preparation:** Do p. 132, Activity 11
- **In Class:** Check and discuss homework; Discuss Avoiding Faulty Logic (p. 127-128); Partner work on outlining (p. 133)

準備: 132 ページのアクティビティ 11 を行う

授業: 宿題を確認し議論する、誤ったロジックの回避について議論する (127~128 ページ)、概要に関するパートナーワーク (133 ページ)

第11回 : **Argument Essay Outlining**

法エッセイの概要

- **Preparation:** Do p. 133-134, Activity 12
- **In Class:** Check homework; Pair work reviewing outlines; Discussion of plagiarism (p. 130)

準備: 133~134 ページのアクティビティ 12 を行う

授業: 宿題を確認する、ペアワークで概要を見直す、盗用について議論する (130 ページ)

第12回 : **Argument essay peer review**

論法エッセイの査読

- **Preparation:** Type your argument essay
- **In Class:** Partner work on peer review

準備: 自分の論法エッセイをタイプする

授業: パートナーワークで査読する

第13回 : **Introduction to Revision project**

改訂プロジェクト入門

- Argument Essay due. Submit 2 copies, stapled.
- **In Class:** Introduction to Revision project; choose essay to revise

<u>論法エッセイの提出</u>。2 部をホチキス止めにして提出。 授業: 改訂プロジェクト入門、改訂するエッセイを選ぶ 第 1 4 回 : Revision Preparation 改訂の準備 - Preparation: Bring to class the essay you want to revise - In Class: Writing back and grammar checking. 準備: 改訂したいエッセイをクラスに持ってくる 授業: 書き戻しと文法の確認 第 1 5 回 : Revision Drafting 改訂の下書き - Preparation: Finish writing back and grammar checking; Bring a laptop to class if possible. - In Class: Discuss grammar questions with partners and teacher; draft final essay. 準備: 書き戻しと文法確認を終了し、可能であればクラスにノートパソコンを持ってくる 授業: パートナーや教師と文法的な質問を議論し、最終的なエッセイの下書きを作成する No Final Exam. <u>Submit the final essay.</u> 期末試験なし。<u>最終エッセイの提出。</u>
テキスト <i>Great Writing 4: Great Essays.</i> ISBN 978-1-285-75062-0
参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価 原因結果のエッセイ: 25 ポイント 論法エッセイ: 25 ポイント 改訂エッセイ: 25 ポイント 毎日の宿題: 25 ポイント Total: 100 ポイント 合計: 100 ポイント

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目： 高等英語講読	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：半嶺まどか 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語で執筆された洋書やオリジナルリソースから、目的に沿った必要な情報を読み取り、批判的かつ能動的に読む能力の習得を目指す。 (英検準1級～1級程度、CEFR B2～C1 level)			
授業の概要 この講義は、英語講読力の伸長を目指し、学生は、英語での読解のために必要なスキル（スキミング、スキヤニング、推測力、パターン認識、速読力）などを実際の読解に応用し、批判的に読む力を養うことを目的とする。また、海外の新聞記事や、コラム、論考、さらに、社会、経済、教育、文化、言語などに関する学術的な論文などさまざまなマテリアルを英語で読むことや、学生自身の興味関心に沿った本を読む多読も継続して行い、自主的にかつ批判的に英語で読む力を養う。後半では、ディスカッションも取り入れながら、英語力の伸長を図るとともに、知識を深める。			
授業計画第1回：登録、オリエンテーション、シラバス説明 第2回：Unit 1 Previewing 第3回：Unit 2 Scanning 第4回：Unit 3 Making Inferences 第5回：Unit 4 Focusing on the Topic 第6回：Unit 5 Understanding Paragraphs 第7回：Unit 6 Identifying the Pattern 第8回：Unit 7 Thinking in English 第9回：Reading Faster / Sharing our reading experiences (Reading Circle) 第10回：Unit 1 The White Woman of the Genesee 第11回：Unit 2 Two Popular Authors 第12回：Unit 3 Popular Health and Psychology 第13回：Reading and Discussion: “Cultural Behaviors in Business ” 第14回：Reading and Discussion “How Human Evolve Languages” 第15回：Reading and Discussion “Sustainable Supermarket”			

第1回：登録、オリエンテーション、シラバス説明

講義の内容を簡単に概説し、履修条件や学生の英語力レベルなどを確認する。

第2回：Unit 1 Previewing / プレビュー

第二言語で文章を読むときに必要な、プレビューをする力を学び、ペア同士で実践する。

第3回：Unit 2 Scanning, Skimming / スキミング、スキヤニング

スキミング、スキヤニングの方法を学ぶとともに、エクササイズを通して、スキルを身につける。

第4回：Unit 3 Making Inferences/ 推測力

第二言語で文章を読むときに必要な、推測力について学び、エクササイズを通して、スキルを身につける。

第5回：Unit 4 Focusing on the Topic/ トピックに焦点を当てる

第二言語で文章を読むときに必要な、トピックを瞬時に把握し、読みとる力を学び、エクササイズを通して、スキルを身につける。

第6回：Unit 5 Understanding Paragraphs / パラグラフを理解する。

第二言語で文章を読むときに必要な、パラグラフ理解力を学び、エクササイズを通して、スキルを身につける。

第7回：Unit 6 Identifying the Pattern

第二言語で書かれた文章を4つのパターンに分け、それぞれのパターンに当てはまる文章を見つけるエクササイズを通して、スキルを身につける。

第8回：Unit 7 Thinking in English

第9回：Mid-term Exam Reading Faster / Sharing our reading experiences (Reading Circle)

多読の経験をクラス全体でシェアする。学生は、それぞれの本をプレゼンテーションを通して紹介する。

第10回：Unit 1 The White Woman of the Genesee

長文読解および内容について、第二言語でディスカッションを行う。

第11回：Unit 2 Two Popular Authors

長文を読み、考えをまとめ、グループ発表を行う。

第12回：Unit 3 Reading Critically in L2

クリティカルリテラシーの導入。批判的に読む力について学び、ディスカッションを行う。

第13回：Reading and Discussion: “Who are the authors?”

読むこととは何か、作者とは何かについて、英語で議論する。

第14回：Reading and Discussion “How Human Evolve Languages”

言語とは何か、について読み、英語で議論する。

第15回：Reading and Discussion “Multiple Representations of Japan”

日本について書かれた英文の文章を読み、クリティカルリテラシーを通して、分析、ディスカ

ッションをする。 Final Exam 期末試験 中間プレゼンテーション、および毎回のミニクイズ、期末試験により評価を行う。
テキスト テキストは、大学内の教科書販売の場所で購入できるので、各自で用意しておくこと。 Macintyre, P., Bohlke, D., & Colleen, S. (2014). Reading Explore 2, National Geographic Learning. ISBN: 978-1-285-84694-1
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 中間プレゼンテーション 30% 毎回のミニクイズ 20% 期末試験 30% 授業に臨む姿勢（傾聴力・発信力等） 20% 合計 100%

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 高等英語リスニング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡慶次正則
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ ア) 大学レベルの学術的英語講義を理解するために、ノートティキングの技術等を身に着ける。 イ) 自分のレベルに応じたレベル別リスニング教材を用い、可能な限り長時間、英語を聞く。 ウ) 目標の到達レベルを CEFR スケール B2 程度とする。			
授業の概要 英語圏の大学の様々な分野の学術的講義をノートティキング等により理解する。さらにL L C でのレベル別リスニング教材についても目標時間以上の英語を聞くようにする。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、登録 第2回 Unit 1 "Communication Studies" (コミュニケーション学) , 語彙課題, レベル別リスニ ング課題 第3回 Unit 2 "Child Psychology"(心理学), 語彙課題, レベル別リスニング課題, 第4回 Unit 3, "Sociology"(社会学), 語彙課題, レベル別リスニング課題、リスニングレポート 用紙提出 (3 回分) 第5回 Unit 4 "Business" (経済学), 語彙課題, レベル別リスニング課題 第6回 Unit 5 "Cognitive Psychology" (認知心理学), 語彙課題, レベル別リスニング課題 第7回 Unit 6 "Anthropology/Biology" (文化人類学・生物学) , 語彙課題, レベル別リスニング課 題, リスニングレポート用紙提出 (3 回分) 第8回 Review of Units 1-6, TOEFL iBT (練習), レベル別リスニング課題 第9回 Unit 7 "technology" (先進技術) , 語彙課題, レベル別リスニング課題 第10回 Unit 8 "Political Science" (政治学) , 語彙課題, レベル別リスニング課題, リスニン グレポート用紙提出 (3 回分) 第11回 Unit 9 "Linguistics"(言語学), 語彙課題, レベル別リスニング課題 第12回 Unit 10 "Economics" (経済学) , 語彙課題, レベル別リスニング課題 第13回 Unit 11 "Biology" (生物学) , 語彙課題, レベル別リスニング課題, リスニングレポート用 紙提出			

(3 回分) 第 14 回 Unit 12 “Sociology” (社会学) 語彙課題, レベル別リスニング課題 第 15 回 Review of Units 7-12, TOEFL iBT listening test (ミニテスト), リスニングレポート用紙提出 (2 回分) 定期試験は実施しない
テキスト “Contemporary Topics (Level 3) (4th Edition)” Longman
参考書・参考資料等 授業の中で、適宜紹介する。
学生に対する評価 授業に臨む姿勢 (傾聴力・発信力など) (30 点) TOEFL iBT テスト (10 点) リスニングレポート用紙 (20 点) Logbook の提出 (20 点) Vocabulary assignment 単語調べ (20 点) 合計 100 点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英米文化概論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 ノーマン・フィーウェル 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
-To develop knowledge and understanding of current issues concerning diversity and the global community. -To enhance an understanding of intercultural contexts that may transcend to promoting communicative ability with interlocutors of diverse backgrounds in an authentic international setting. -To introduce historical and cultural aspects of English-speaking countries (United States) in order to improve overall background knowledge. -To develop English proficiency at an adequate level (CEFR B2 or above) for teaching English at the junior high school and high school level. -To improve English speaking skills in interpersonal communication and presentational communication -To develop listening skills with authentic materials in a wide range of topics and situations -To promote reading skills and encourage extensive reading -To develop writing skills with individual and pair assignments - To enhance the overall English ability in the four language skill areas			
授業の概要			
In this course, students will be given an overview of general cultural and Historical aspects of the United States. A number of social issues will also be introduced. Students are required to complete weekly listening, reading and writing assignments in preparation for class discussions. This class will be lecture-based but also promote an active learning environment. Students are expected to participate in group and class discussions. Additionally, students will be expected to make pair presentations in the course. The instructor will utilize online audio and video materials to supplement the course whenever appropriate. An ICT Web			

2.0 assignment will be included in the course to provide students with additional communicative opportunities to discuss course topics. The Google Suite for Education platform will serve as the communication and collaboration medium for after-class assignments.

The aim of this course is to help students gain a comprehensive understanding of American culture in terms of background knowledge in terms of cultural, social, economic, historical, and contemporary issues. Students should gain a greater recognition and understanding of cross-cultural diversity and that should cultivate their ability to communicate with others around the world. Through the exchange of information and knowledge with people of diverse cultural backgrounds, an enhancement of intercultural understanding will be achieved when student expectations are aligned in cross-cultural comparisons of course content with that of individual experiences. In gaining a more thorough understanding of American cultural contexts, the enhanced background knowledge should equate to students recognizing such cultural aspects in certain communicative situations and better expressing themselves. The cultural background knowledge introduced in this course will prepare students for teaching English at the junior high school and high school levels. The textbook content has a CEFR rating in the range of B1 – B2.

授業計画

第1回 : Chapter 1 - The Foundations of Government [pages 1 - 8], class introduction, explanation of assignments and grading system, Google Suites introduction and sign-up

第2回 : Chapter 1 - The Foundations of Government [pages 9 - 18], Study-notes 1, Listening quiz 1

第3回 : Chapter 2 - Constitutional Issues Today [pages 19 - 29], Study-notes 2

第4回 : Chapter 2 - Constitutional Issues Today [pages 30 - 40], Listening quiz 2

第5回 : Chapter 3 - The Origins of Diversity [pages 41 - 61], Listening quiz 3, Study-notes 3

第6回 : Chapter 4 - Diversity in the United States Today [pages 62 - 70], Writing assignment 1, Study-notes 4

第7回 : Chapter 4 - Diversity in the United States Today [pages 71 - 82], Listening quiz4, Review

第8回 : Midterm Review [chapters 1-4], exam and presentations.

第9回 : Chapter 5 - The Struggle Begins for Equality [pages 83 - 92], Study-notes 5, Experiential activities with Invited Speaker[Topic: To understand cultural diversity and the significance of cross-cultural exchange through interaction with people from diverse cultural backgrounds].

第10回 : Chapter 5 - The Struggle Begins for Equality [pages 93 - 101], Listening quiz 5

第11回 : Chapter 6 - The Struggle Continues for Equality [pages 102 - 124], Listening quiz 6, Study-notes 6

第12回 : Chapter 7 - American Values from the Past [pages 127 - 142], Listening quiz 7, Study-notes 7

第13回 : Chapter 8 - American Values Today [pages 143 - 153], Writing assignment 2, Study-notes 8

第14回 : Chapter 8 - American Values Today [pages 154 - 165], Listening quiz 8, Review

第15回 : Review Chapters [5-8], Experiential activities with Invited Speaker[Topic: To understand cultural diversity and the significance of cross-cultural exchange through interaction with people from diverse cultural backgrounds].

第16回 : Final Exam [Chapters5-8]

テキスト

Academic Encounters Level 2 Cambridge University Press; 2 edition ISBN-13: 978-1107655164

参考書・参考資料等

Handouts and supplementary materials are provided by the teacher.

学生に対する評価

Listening quizzes 8 = 8%

Study-notes 12 = 24%

Presentations 2 = 20%

Writing assignments 2 = 20%

Midterm Exam 1 = 13%

Final Exam 1 = 15%

Total = 100% 合計 = 100%

定期試験

Listening quizzes x 8 Study-notes x 12

Presentations x 2 Writing assignments x 2 Midterm Exam

Final Exam

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英米文化概論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 ノーマン・フィーウェル 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 多様性と国際社会に関する現状の問題の知識と理解を深める真の国際的場面で、多様な背景を持つ人々との交流体験を通して、異文化状況の理解を高める。 ・ 実際の国際的な場面において、様々な異文化的背景を持つ人々と会話する場合においても、コミュニケーション能力を持って対話を促進していけるよう、異なる文化の背景を理解する。 ・ 予備知識全体を深めるために、米国など英語圏の国々の歴史的、文化的側面を紹介する。 ・ 中学校および高校で英語を教えるのに十分なレベル（CEFR B2以上）で英語能力を伸ばす。 ・ 対人コミュニケーションとプレゼンテーションコミュニケーションにおける英語を話す能力を向上させる ・ 幅広いトピックや状況で本物の素材を使ってリスニングスキルを磨く ・ 読書スキルを向上させ、広範囲な読書を奨励する ・ 個人とペアの割り当てでライティングスキルを伸ばす ・ 4つの言語スキル分野で全体的な英語能力を高める			
授業の概要			
このコースでは、米国の一般的な文化的・歴史的側面を概観していきます。数多くの社会問題も紹介していきます。学生には、クラスでのディスカッションに備えて、毎週リスニング、リーディング、ライティングの課題が課されます。このクラスは講義形式ですが、積極的な学習環境も推進します。学生にはグループおよびクラスのディスカッションに参加してもらいます。さらに、コースではペアでのプレゼンテーションが求められます。講師は適宜、オンラインのオーディオやビデオ教材を活用して、コースを補完します。ICT Web 2.0 を利用した課題もコースに取り入れることで、コースの課題を議論するコミュニケーションの機会をさらに得ることができます。Google Suite for Educationのプラットフォームが、コミュニケーションとコラボレーションの媒体として、授業後の課題をサポートします。			
このコースの目的は、学生が文化・社会・経済・歴史・現代の諸問題について、予備知識			

として米国文化を包括的に理解できるようにすることです。異文化間の多様性を十分に認識して理解し、世界中の人とコミュニケーションができる能力を養う必要があります。多様な文化的背景を持つ人々と情報や知識を交換することで、コース内容と個人の経験との異文化比較において、学生の期待値が一致するとき、異文化の理解を高めることができます。米国文化の内容についてより十分な理解を得る中で予備知識を強化することは、特定のコミュニケーション状況における文化的側面を認識し、自己表現をより良くできるということに違いありません。このコースで紹介する文化的予備知識は、中学校や高校レベルで英語を教えるための準備となります。テキストの内容は、CEFRの評価がB1～B2の範囲にあるものです。本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める

授業計画

- 第1回：第1章・政権基盤 [1～8ページ]、クラスの紹介、課題と成績評価方法の説明、
Google Suites導入と登録
- 第2回：第1章・政権基盤 [9～18ページ]、学習ノート1、リスニングクイズ1
- 第3回：第2章・現在の憲法上の問題 [19～29ページ]、学習ノート2
- 第4回：第2章・現在の憲法上の問題 [30～40ページ]、リスニングクイズ2
- 第5回：第3章・多様性の起源 [41～61ページ]、リスニングクイズ3、学習ノート3
- 第6回：第4章・米国における多様性の現状 [62～70ページ]、ライティング課題1、学習ノート4
- 第7回：第4章・米国における多様性の現状 [71～82ページ]、リスニングクイズ4、復習
- 第8回：復習（第1章～第4章）中間試験・プレゼンテーション [第1章～第4章]
- 第9回：第5章・平等実現に向けた奮闘の始まり [83～92ページ]、学習ノート5、
外部講師との体験的活動 [多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義を理解する]。
- 第10回：第5章・平等実現に向けた奮闘の始まり [83～92ページ]、学習ノート5
- 第11回：第6章・平等実現に向けた奮闘の継続 [102～124ページ]、リスニングクイズ6、
学習ノート6
- 第12回：第7章・過去から学ぶ米国の価値 [127～142ページ]、リスニングクイズ7、
学習ノート7
- 第13回：第8章・現在の米国の価値 [143～153ページ]、ライティング課題2、学習ノート8
- 第14回：第8章・現在の米国の価値 [154～165ページ]、リスニングクイズ8、復習
- 第15回：復習（第5章～第8章）、外部講師との体験的活動 [多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義を理解する]。
- 期末テスト [テキスト第5章～第8章]

テキスト Academic Encounters Level 2 Cambridge University Press; 2 edition ISBN-13: 978-1107 655164
参考書・参考資料等 配布資料と副教材は、教師が用意します。
学生に対する評価 リスニングクイズ8 = 8% 学習ノート 12 = 24% プレゼンテーション 2 = 20% ライティング課題 2 = 20% 中間試験 1 = 13% 期末試験 1 = 15% 合計 = 100% 定期試験 リスニングクイズ8回、学習ノート12回 プレゼンテーション2回、ライティング課題2回、中間試験1回 期末試験1回

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英米文化概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 ノーマン・フィーウェルウィ ルソン、 ウィルソン クリストファー・ アンドリュー 担当形態：クラス分け・オムニ バス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 ・ To develop knowledge and understanding of current issues concerning diversity and the global community ・To enhance an understanding of intercultural contexts that may transcend to promoting communicative ability with interlocutors of diverse backgrounds in an authentic international setting ・To introduce historical and cultural aspects of English-speaking countries (United Kingdom) in order to improve overall background knowledge. ・To develop English proficiency at an adequate level (CEFR B2 or above) for teaching English at the junior high school and high school level. ・To improve English speaking skills in interpersonal communication and presentational communication ・To develop listening skills with authentic materials in a wide range of topics and situations ・To promote reading skills and encourage extensive reading ・To develop writing skills with individual and pair assignments ・To enhance the overall English ability in the four language skill areas			
授業の概要 In this course, students will be given an overview of general cultural and historical aspects of the United Kingdom. A number of social issues will also be introduced.			

Through the exchange of information and knowledge with people of diverse cultural backgrounds, an enhancement of intercultural understanding will be achieved when student expectations are aligned in cross-cultural comparisons of course content with that of individual experiences.

Students are required to complete weekly listening, reading and writing assignments in preparation for class discussions.

This class will be lecture-based but also promote an active learning environment. Students are expected to participate in group and class discussions.

Additionally, students will be expected to make pair presentations in the course.

The instructor will utilize online audio and video materials to supplement the course whenever appropriate.

An ICT Web 2.0 assignment will be included in the course to provide students with additional communicative opportunities to discuss course topics.

The Google Suite for Education platform will serve as the communication and collaboration medium for after-class assignments.

The aim of this course is to help students gain a comprehensive understanding of British culture in terms of background knowledge in terms of cultural, social, economic, historical, and contemporary issues.

Students should gain a greater recognition and understanding of cross-cultural diversity and that should cultivate their ability to communicate with others around the world.

In gaining a more thorough understanding of British cultural contexts, the enhanced background knowledge should equate to students recognizing such cultural aspects in certain communicative situations and better expressing

themselves.

The cultural background knowledge introduced in this course will prepare students for teaching English at the junior high school and high school levels.

The textbook content has a CEFR rating in the range of B2 and above.

2. 到達目標

-- To develop knowledge and understanding of current issues concerning diversity and the global community

--To enhance an understanding of intercultural contexts that may transcend to promoting communicative ability with interlocutors of diverse backgrounds in an authentic international setting

--To introduce historical and cultural aspects of English-speaking countries (United Kingdom) in order to improve overall background knowledge.

-To develop English proficiency at an adequate level (CEFR B2 or above) for teaching English at the junior high school and high school level.

授業計画

第1回 : Chapter 1 - Country & people [pages 8 - 14], class introduction, explanation of assignments and grading system, Google Suites introduction and sign-up, Quiz [chapter 1] (Fewell)

第2回 : Chapter 2 - History [pages 15 - 31], Study notes 1, Quiz [chapter 2] (Fewell)

第3回 : Chapter 3 - Geography, Chapter 4 - Identity [pages 32 - 57], Study notes 2, Quiz [chapters 3&4] (Fewell)

第4回 : Chapter 5 - Attitudes, Chapter 6 - Political life [pages 58 - 79], Study notes 3, Writing assignment 1, Quiz [chapters 5&6] (Fewell)

第5回 : Chapter 7 - The monarchy, Chapter 8 - The government [pages 80 - 91], Study notes 4, Quiz [chapters 7&8] (Fewell)

第6回 : Chapter 9 - Parliament, Chapter 10 - Elections [pages 92 - 106], Study notes 5, Quiz [chapters 9&10], Review (Fewell)

第7回 : Review Chapters (1-10), Midterm Exam [textbook chapters 1-10]復習 (Fewell)

第8回 : Chapter 11 - The law, Chapter 12 - International relations [pages 107 - 120], Study notes 6, Quiz [chapters 11&12], cross-cultural interviews and group discussion (Fewell)

第9回 : Chapter 13 - Religion, Chapter 14 - Education [pages 121 - 140], Study notes 7, Quiz [chapters 13&14]

Experiential activities with Invited Speaker[Topic: To understand cultural diversity and the significance of cross-cultural exchange through interaction with people from diverse cultural backgrounds]. (Andrew)

第10回 : Chapter 15 - The economy & everyday life, Chapter 16 - The media [pages 141 - 160], Study notes 8, Quiz [chapters 15&16] (Andrew)

第11回 : Chapter 17 - Transport, Chapter 18 - Welfare [pages 161 - 172], Study notes 9,

Writing assignment 2, Quiz [chapters 17&18] (Andrew)

第12回 : Chapter 19 - Housing, Chapter 20 - Food & drink [pages 173 - 189], Study notes10, Quiz [chapters 19&20] (Andrew)

第13回 : Chapter 21 - Sport & competition, Chapter 22 - The arts [pages 190 - 206], Study notes 11, Quiz [chapters 21&22] (Andrew)

第14回 : Chapter 23 - Holidays & special occasions [pages 207 - 215], Study notes 12, Review (Andrew)

第15回 : Review Chapters (11-23) To understand cultural diversity and the significance of cross-cultural exchange through interaction with people from diverse cultural backgrounds]. (Andrew)

Final Exam [Chapters11-23]

テキスト

Britain - For Learners of English, Oxford University Press. ISBN-13:978-306801303 8

参考書・参考資料等

Handouts and supplementary materials are provided by the teacher.

学生に対する評価

Assignments課題等 (Number of Assignments課題の数) Points点数

Chapter quizzes 2 2回 1 1点各章の小テスト

Study notes 2 3回 2 3点予習ノート

Presentations 2回 2 0点プレゼンテーション

Writing assignments 2回 1 1点英作文

Midterm Exam 1回 1 5点中間テスト

Final Exam 1回 2 0点期末テスト

Total 1 0 0点

定期試験

Chapter quizzes x 22 各章の小テスト 計2 2回

Prep-notes x 23 予習ノート 計2 3回

Presentations x 2 プレゼンテーション 計2回

Writing assignments x 2 英作文 計2回

Midterm Exam 中間テストx 1

Final Exam 期末テストx 1

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英米文化概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 ノーマン・フィーウェルウィ ルソン、 クリストファー・ アンドリュー 担当形態：クラス分け・オムニ バス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 多様性と国際社会に関する現状の問題の知識と理解を深める真の国際的場面で、多様な背景を持つ人々との交流体験を通して、異文化状況の理解を高める。 ・ 実際の国際的な場面において、様々な異文化的背景を持つ人々と会話する場合においても、コミュニケーション能力を持って対話を促進していけるよう、異なる文化の背景を理解すること。 ・ 予備知識全体を深めるために、英国など英語圏の国々の歴史的、文化的側面を紹介する ・ 中学校および高校で英語を教えるのに十分なレベル（CEFR B2以上）で英語能力を伸ばす。 ・ 対人コミュニケーションとプレゼンテーションコミュニケーションにおける英語を話す能力を向上させる。 ・ 幅広いトピックや状況で本物の素材を使ってリスニングスキルを磨く。 ・ 読書スキルを向上させ、広範囲な読書を奨励する。 ・ 個人とペアの割り当てでライティングスキルを伸ばす。 ・ 4つの言語スキル分野で全体的な英語能力を高める。			
授業の概要			
本講義では、イギリスの一般的な文化的・文化的側面について概観する。			
同国の社会的問題についてもいくつか示される。			
多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。			
学生は教室でのディスカッションに備えて、週ごとのリスニングやリーディング、ライティングの課題を仕上げるのが求められる。			
講義形式の授業を基本としつつも、学生が活発に学習できる環境を推し進める。学生はグル			

ープやクラス全体でのディスカッションに積極的に参加することが求められる。

さらに、学生は、講義にて二人一組でプレゼンテーションを発表することが求められる。

講義を補足するため、講師はインターネット上の視聴覚教材を適宜用いる。

講義以外に、学生には情報通信技術（Web 2.0）を介して課題も与えられ、授業に即したテーマについてディスカッションする場が学生には与えられる。

グーグルが提供する教育向けのプラットフォーム（The Google Suite for Education）を授業後の課題を遂行するためのコミュニケーションや共同作業のツールとして用いる。

この講義の目的は、イギリスの社会や経済、歴史、現代の課題など、予備知識として同国の文化を学生が広く理解できるようにすることである。

学生は、異文化の多様性について認識と理解を深め、世界中の人々とコミュニケーションをとる能力を身に付ける。

イギリスの文化的背景について十分な知識を得ることにより、学生がなんらかのコミュニケーションの場面に置かれたとしても、文化的側面に気づくことができ、より良く自分を表現することができるようになる。

本講義で紹介される英国の文化的背景について学ぶことが、学生が将来、中学・高校レベルの英語を教えるための備えとなる。

使用するテキストは、「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」が示す等級のうちB2 レベルかそれ以上の難易度となっている。

本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める

授業計画

第1回：第1章 英国と人々 [p.8-p.14]、授業の概要説明、課題および採点方法の説明、Google Suiteの説明とサインアップ、小テスト [第1章より]（フィーウェル）

第2回：第2章 英国の歴史 [p.15-31]、予習ノート1、小テスト [第2章]（フィーウェル）

第3回：第3章：英国の地理、第4章：アイデンティティ [p.32-57]、予習ノート2、小テスト [第3章-第4章]（フィーウェル）

第4回：第5章：ものの見方や感じ方、第6章：政治と人々 [p.58-p.79]、予習ノート3、英作文の課題1、小テスト [第5章-第6章]（フィーウェル）

第5回：第7章：イギリスの君主制、第8章：イギリス政府 [p.80-p.91]、予習ノート4小テスト [第7章-第8章]（フィーウェル）

第6回：第9章：イギリス議会、第10章：選挙 [p.92-p.106]、予習ノート5小テスト

[第9章-第10章] (フィーウェル)

第7回：復習第1章～第10章)、中間テスト [テキストの第1章～第10章] (フィーウェル)

第8回：第11章：法律、第12章：国際関係 [p.107-p.120]、予習ノート

6小テスト [第11章-第12章] (フィーウェル)

第9回：第13章：宗教、第14章：教育制度 外部講師[トピック：イギリスにおける宗教の概要].

[p.121-p.140]、予習ノート7、小テスト [第13章-第14章] 外部講師との体験的活

動 [多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義を理解する]. (アンドリュー)

第10回：第15章：経済と日常生活、第16章：メディア

[p.14-p.160] 予習ノート8、小テスト [第15章-第16章] (アンドリュー)

第11回：第17章：交通システム、第18章：福祉制度 [p.161-p.172]、

予習ノート9英作文の課題2、小テスト

[第17章-第18章] (アンドリュー)

第12回：第19章：住宅事情、第20章：飲食、食生活

[p.173-p.189]、予習ノート10、小テスト [第19章-第20章] (アンドリュー)

第13回：第21章：スポーツ・競技、第22章：芸術 [p.190-p.206]、予習ノート11、

小テスト [第21章-第22章] (アンドリュー)

第14回：第23章：祝祭日や特別な日 [p.190-p.206]、予習ノート12、復習 (アンドリュー)

第15回：復習 (第11章～第23章)、外部講師との体験的活動 [多様な文化的背景を持った人

々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義を理解する]. (アンドリュー)

期末テスト [テキスト第11章～第23章]

テキスト

Britain - For Learners of English, Oxford University Press. ISBN-13:978-306801303 8

参考書・参考資料等

プリントや教材は、教員が用意します。

学生に対する評価

課題等（課題の数）点数

各章の小テスト（22回） 11点

予習ノート（23回） 23点

プレゼンテーション（2回） 20点

英作文（2回） 11点

中間テスト（1回） 15点

期末テスト（1回） 20点

合計 100点

定期試験

各章の小テスト 計22回

予習ノート 計23回

プレゼンテーション 計2回

英作文 計2回

中間テスト計1回

期末テスト計1回

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目： 異文化コミュニケーション論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：半嶺まどか 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 世界の文化の多様性、異なる文化の価値観や異なるコミュニケーションスタイルについて読みながら学び、実践的なコミュニケーション能力を高める。日本人が異なる文化圏に行ったときに経験するカルチャーショックで起こりうる症状と対処法や、異文化適応プロセスについても、ケーススタディ、ロールプレイ等を通して学ぶ。異文化理解を深め、英語を中心としたコミュニケーションスキルの習得を目指す。			
授業の概要 英語特有の日常表現や慣用的な表現、それらの表現が生まれた文化的な背景について学習し、学生の英語での実践的なコミュニケーション能力を高めることを目指す。講義では、リーディング課題を通して学んだことをディスカッション、ペアワーク、グループワークなどを通して理解を深める。学習の成果をグループ発表し、レポートや英語でEmailを作成するなど、受講生自身による活動も組み合わせながら授業をすすめる。			
第1回：授業内容の説明・シラバスの説明 自己紹介・英語でのプレゼンテーションの方法を学ぶ。			
第2回：異文化体験・カルチャーショック 多様な文化を持つ友人同士の会話についてのリーディング、ペアワーク			
第3回：文化とコミュニケーション オフィスでの異なる文化背景によるミスコミュニケーションに関して、リーディング。英語を活用して会話を考えるペアワークを行う。			
第4回：コミュニケーションスタイル 褒めるときのコミュニケーションスタイルの違いについて読む。 ペアワーク、ロールプレイを行う。			
第5回：文化の価値観 異なる文化の価値観についてリーディングを通して学ぶ。 アドバイスをする際に起こりうる習慣的な違いについてペアワーク、ロールプレイをする。			
第6回：文化と言語コミュニケーション			

何事かに対して反論する際のコミュニケーションの違いについて、事例を通して学ぶ。

英語を使ったグループディスカッション・ロールプレイを考える。

第7回：言語コミュニケーションスタイル

英語を活用したプレゼンテーションの方法を学び実践する。

グループプレゼンテーション発表

第8回 非言語コミュニケーションスタイル

非言語コミュニケーションについてリーディングを通して学ぶ。

ペアワークを通じて実践する。

第9回：文化的価値観とステレオタイプ

異なる文化的価値観をもつ友人同士のパーティーに関してリーディングを読む。

ステレオタイプについて理解し、対処法についてディスカッションする。

第10回：文化とアイデンティティ

ジェンダー、人種、文化の違いが原因で起こりうる衝突や摩擦について、事例を通して学ぶ。文化の違いによる衝突が起こった場合の対処方法を考える。

第11回：異文化トレーニングの方法

英語を活用してビジネスレター（Email）の書き方を学び、実践する。

ペアワークでビジネスレター（Email）を書き、お互いに返事を書く。

第12回：異文化トレーニングの方法

英語を活用して議論ディスカッションの方法を学び、グループで実践する。

ディスカッションの際に有効な表現方法などを学び、実践する。

第13回：異文化理解とミスコミュニケーションの対処法

異なる文化的背景を持った人間同士のコミュニケーションでおこるカルチャーショックに関する事例を読み、ディスカッションをする。

対処法について考え、ロールプレイを作成する。

第14回：ケーススタディ

異文化間の移動についての映画・ビデオを見たうえで、グループディスカッションをする。

第15回：まとめ・総括

今学期のまとめと総括

期末試験

グループプレゼンテーション、および毎回のディスカッションとロールプレイ、期末試験により評価を行う。

テキスト

テキストは、大学内の教科書販売の場所で購入できるので、各自で用意しておくこと。
Ingrid, Piller (2017). Intercultural Communication: A Critical Introduction.

参考書・参考資料等

授業の内容に応じて適宜用意する。

学生に対する評価

中間プレゼンテーション 30%

毎回のロールプレイ・ディスカッション 20%

期末試験 30%

授業へ臨む姿勢（傾聴力・発信力等） 20%

合計 100%

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英語科教育法 I		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4 単位	担当教員名：半嶺まどか 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 受講生は現行の学習指導要領を理解し、実践につなげることができる。 受講生は第二言語／外国語教育における異なったアプローチ、メソッド、テクニックの知識を得ることができる。 受講生は自身の外国語教育や学習に対するビリーフを認識することができるようになる。 受講生は理論から実践への応用を探究することができる。 受講生は授業における様々な教授スキル（ICTを活用した授業）を学ぶことができる。 受講生は日本における英語教育の歴史を理解する。				
授業の概要 中学校・高等学校における英語科の教育目的・教育内容・教育方法についての各論。中学校及び高等学校英語科教員免許状取得希望者は必修。本講義は、第二言語／外国語教育に関する様々なアプローチ、メソッド、テクニックを概観し、比較的日本において多く使用されて来た教授法を紹介する。授業案、授業運営、謝りの訂正法、情報通信技術活用（ICT活用）など、実践上の諸問題も扱う。さらには、授業活動、英語力の向上、そして評価の関係について検討する。プレゼンテーションやデモンストレーションを通じて、4 技能や文法、語彙、発音の教授法なども学ぶ。				
授業計画 第 1 回：登録、オリエンテーション 第 2 回：言語習得理論について導入、第一言語習得理論概観 Week 1 (Reading: Lightbown & Spada Chapter 1) What are the stages of first language acquisition? Are there any universal aspects of first language development? How can first language acquisition be explained? 第 3 回：英語学習を取り巻く問題（ディスカッション） 第 4 回：第 2 言語習得理論概観 Week 2 (Reading: Lightbown & Spada Chapter 1 & 2) What are the characteristics of second language development?				

第5回：英語教育の歴史（日本）

第6回：第二言語習得理論の応用（個人プロジェクト発表）

Week 3 Second Language Acquisition Fieldwork Project

Can you find your own evidence of universal trends in second language development?

第7回：現行学習指導要領：グループ発表

第8回：現行学習指導要領：グループ発表

Week 4 National Teaching Curriculum

What are the main features of new teaching curriculum in Japan?

第9回：個人差、学習者論、

教師の役割（ALT とのティーム・ティーチングに関するディスカッションを含む）

第10回：学習者論・教師の役割

Week 5 Aptitude, motivation, age and other individual differences (Reading: Lightbown & Spada Chapter 3) How do individuals differ in their second language learning? (Motivation, anxiety, age, aptitude, the role of teachers, ALTs, and other factors)

第11回：英語教授法の歴史（世界）

第12回：英語教授法の歴史（日本）

Week 6 (Reading: Lightbown & Spada Chapter 4 & Introduction of Larsen-Freeman & Anderson)

Comparing different theoretical models of second language acquisition

第13回：教室での言語指導（4技能5領域、クラスルームイングリッシュ）

第14回：教室での言語指導（4技能5領域）・指導案の書き方

Week 7 (Reading: Lightbown & Spada Chapter 6)

What does research tell us about second language learning in the classroom?

Mid-Term Exam: Review of Second Language Acquisition Theories

第15回：Grammar Translation Method/ the Direct Method グループ発表・模擬授業

第16回：The Audio Lingual Method / the Silent Way グループ発表・模擬授業

Week 8 (Reading: Larsen-Freeman & Anderson Chapter 2, 3, 4, 5)

第17回：Desuggestopedia / Community Language Learning グループ発表・模擬授業

第18回：Total Physical Response / Communicative Language Teaching グループ発表・模擬授業

Week 9 (Reading: Larsen-Freeman & Anderson Chapter 6, 7, 8, 9)

第19回：Content-based Instruction / Task-based Language Teaching グループ発表・模擬授業

第20回：The Participatory Approach グループ発表・模擬授業・全体ディスカッション

Week 10: Reading (Larsen-Freeman & Anderson Chapter 10, 11, 12)

第21回：リスニング指導・指導案作成

第22回：スピーキング指導（英語音声の特徴、表現を含む）・指導案作成

Week 11: Reading (Textbook for Junior High Schools in Japan)

How should teachers teach listening and speaking skills in L2 education in Japan?

第23回：リーディング指導・指導案作成

第24回：ライティング指導（文字の指導を含む）、4技能を統合した学習

Week 12: Reading (Textbooks for Junior High Schools in Japan)

How should teachers teach reading and writing skills in L2 education in Japan?

第25回：情報通信技術（ICT）の活用と第二言語教育（教育実習生授業観察開始）

第26回：異文化理解

Week 13: Reading (Larsen-Freeman & Anderson, Chapter 14,15)

What are advantages and disadvantages of the use of ICT in language classroom? How should we teach about culture in L2 classroom?

第27回：言語政策・CEFRの導入と課題

第28回：評価の理論と実際（観点別評価、パフォーマンス評価の方法論を含む）

Week 14: Reading (Larsen-Freeman & Anderson, Chapter 12, 13)

How do we assess students?

第29回：Final Group Debate

英語教育に関するトピックに関してグループに分かれ、調べ学習を行い、ディベートを行う。

Topic1: English classes in Japan should be taught only in English. /英語の授業は英語で行うべきだ。

Topic2: Native speakers have more advantage in teaching English. / ネイティブスピーカー教師の方が、英語を教えるのに適している。

第30回：Final Group Debate

英語教育に関するトピックに関してグループに分かれ、調べ学習を行い、ディベートを行う。

Topic1: Japan has a good college entrance exam in English. /日本の大学入試（英語）について

Topic2: English classes should focus more on output rather than input. /日本の英語教授法について

Week 15：まとめ TBA

定期試験は実施しないが、その代わりにプレゼンテーション、期末レポート、グループプロジェクト、模擬授業、ディベートをもとに、総合的に評価をする。

個人プレゼンテーション（1回）・グループ発表（2回）・期末課題の授業観察レポート

最後のディベート活動も評価の一部として取り扱う。

テキスト

Required:

Larsen-Freeman, D. and Anderson, M. (2017). Techniques and Principles in Language Teaching. Oxford: Oxford University Press.

白畑知彦 著 富田祐一 著 村野井仁 著 若林茂則 著 (2019) 英語教育用語辞典 第三版 大修館書店

Recommended :

Brown, Douglas. and Lee, Heekyeong. (2015). Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy. NY: Pearson.

参考書・参考資料等

Reference:

Lightbown, P. M., & Spada, N. (2013). How languages are learned, 4th edition. Oxford: Oxford University Press.

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語活動」

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「英語」

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「英語」

学生に対する評価

Active Participation・Final Debate Activity (10%)

Individual presentations (15%)

Mid-term assignment (30 %)

Group presentation & micro-teaching (20 %)

Final Report (25%)

Total (100%)

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 英語科教育法II		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 4単位		担当教員名：渡慶次正則 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ							
（１） 小学校、中学校又は、高等学校の学習指導要領の理解に基づき、語彙、文法、音声、4 技能を授業指導できるようになる。 （２） 評価の理論と実践を理解し、授業指導ができるようになる。 （３） 第二言語学習理論/CEFR を理解し、効果的な授業指導ができるようになる。 （４） カリキュラムや指導計画、学習指導要領、学習者の理解と教科書分析により、学習指導案が作成できるようになる。 （５） 授業実践の個人省察とクラス全体の相互評価により、授業指導技術を身に着ける。 （６） 授業に必要な教室英語と一般的な英語力を身に着ける。 （７） ビデオ遠隔システム等を活用した授業展開の技術を習得する。							
授業の概要							
中学校又は、高等学校の学習指導要領、第 2 言語習得理論、教授法、4 技能、英語言語の特徴、評価法を理解して、授業実践と学習指導案の作成を行う。 また、遠隔授業に必要な機器の操作に慣れるよう、後半は、ビデオ遠隔システムを併用した授業を行う。							
授業計画							
第 1 回 登録、オリエンテーション、グループ活動（前期の振り返り）							
第 2 回 英語 4 技能の学習、評価、教授についての復習、教室英語習得							
第 3 回 小学校、中学校、高等学校の学習指導要領の復習、教室英語習得							
第 4 回 第 2 言語習得理論、異文化理解の復習、教室英語習得							
第 5 回 英語学習評価復習（観点別評価、CEFR、評価等）、教室英語習得							
第 6 回 英語言語の音声、構造、語彙の特徴、教室英語習得							
第 7 回 教科書分析（中学校と高等学校に分かれる）、教室英語習得							
第 8 回 教科書分析の発表（グループ）、教室英語習得、ALT 等とのチーム・ティーチングの録画授業を観察し、効果と課題について考える。							
第 9 回 学習指導案の作成の理論と実践、教室英語習得、ALT 等とのチーム・ティーチングの効果的な指導方法をグループで発表する。							
第 10 回 リスニング指導の理論と実践、教室英語習得							
第 11 回 リスニング指導の模擬授業（グループ）、教室英語習得							

第 1 2 回	スピーキング指導の理論と実践、教室英語習得	
第 1 3 回	スピーキング指導の模擬授業（グループ）、教室英語習得	
第 1 4 回	リーディング指導の理論と実践、教室英語習得	
第 1 5 回	リーディング指導の模擬授業（グループ）、教室英語習得	
第 1 6 回	ライティング指導の理論と実践、教室英語習得	
第 1 7 回	ライティング指導の模擬授業（グループ）、教室英語習得	
第 1 8 回	語彙（新出単語）の理論と実践、教室英語習得	
第 1 9 回	語彙（新出単語）指導の模擬授業（グループ）文法指導の理論と指導法（教員）、 教室英語習得	
第 2 0 回	文法指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 1 回	文法指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 2 回	文法指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 3 回	文法指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 4 回	文法指導の模擬授業（20 分× 2 名）、個人省察と相互評価、 音読・内容理解の指導法（教員）、教室英語習得	
第 2 5 回	音読指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 6 回	音読指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 7 回	音読指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 8 回	音読指導の模擬授業（20 分× 4 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 2 9 回	音読指導の模擬授業（20 分× 2 名）、個人省察と相互評価、ビデオ遠隔システム 併用	
第 3 0 回	授業のまとめ、学習指導案の再提出 期末試験は実施しない。	
成績評価		
	活動、参加状況（グループ発表 6 回、スピーキングテスト事前・事後）	4 0 点
	教室英語習得活動（Google Classroom を活用）	1 0 点

模擬授業（1 回）＋活動指導案	3 0 点
学習指導案（細案）の提出	2 0 点
合 計	1 0 0 点
（定期試験はなし）	
テキスト “Techniques & Principles in Language Teaching (3rd edition)” by Larsen=Freeman and Anderson Oxford 『英語教育用語辞典（改訂版）』（2009 年） 白畑知彦ほか、大修館書店	
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「英語」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「英語」	
学生に対する評価 授業評価アンケートをコース終了時に実施し、結果を分析して今後の授業に活用する。	

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 日本の歴史Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：屋良健一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 ①国内政治史と対外関係史（外国との交流史）を関連づけながら日本の歴史を理解する。 ②史料に基づいて思考する力を身につける。			
授業の概要 日本は早くから中国や朝鮮との交流を持ち、これらの国から多くの知識や文化を学んできた。そのため、日本の歴史を理解する上では東アジアの国々との関係を知ることが重要だと言えよう。また、現在、私達が日本と認識している領域のすべてが、当初から日本であったわけではない。北海道や沖縄をはじめ、かつて「異国」や「異域」であった地域をその内を含んで、今日の日本が存在していることも忘れてはならない。本講義では、前近代における周辺諸国や日本の内なる「異国」「異域」との関係史を概観することで、日本史の多角的な理解を目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス・対外関係史研究の流れ 第2回：倭国の登場 第3回：古代の外交① 一遣隋使一 第4回：古代の外交② 一遣唐使一 第5回：元寇とその影響 第6回：倭寇から見た東アジアの中世 第7回：鉄砲伝来 第8回：前半のまとめ・中間試験 第9回：前近代の日本と琉球 第10回：前近代の日本と蝦夷地 第11回：豊臣秀吉・徳川家康の外交 第12回：「鎖国」への道 第13回：教科書の中の「鎖国」 第14回：江戸時代の「領土問題」			

第15回：ペリー来航

期末試験

テキスト

特になし。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社）800円＋税

桃木至朗『海域アジア史研究入門』（岩波書店）3,000円＋税

学生に対する評価

活動状況 30点

中間試験 30点

期末試験 40点

計100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 日本の歴史Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：屋良健一郎 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 ①国内の政治・文化の流れと対外関係史（外国との交流史）を関連づけながら近現代の日本の歴史を理解する。 ②様々な史料をもとに考え、近現代史を多角的に捉える視点を身につける。				
授業の概要 本講義では、近現代の日本の歴史を学ぶ。政治・外交・文化といった側面から幕末以降の150年の歴史を見ることで、私たちが生きる今の日本がどのように形成されていったのかを知り、世界の国々との現在の関係がどのようにして築かれてきたのかを学ぶ。				
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：幕末の動乱 第3回：明治維新 第4回：文明開化と伝統文化 第5回：アイヌ民族の近代 第6回：琉球・沖縄の近現代史 第7回：ふたつの国際秩序 ―日清戦争― 第8回：前半のまとめ・中間試験 第9回：日露戦争とその時代 第10回：近代の日韓関係 第11回：日中戦争から太平洋戦争へ 第12回：戦時下の社会と文化 第13回：戦後の改革 第14回：佐藤栄作内閣 第15回：平成という時代 期末試験				

テキスト

特になし。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』新潮社、880円（税込）

学生に対する評価

活動状況 30点

中間試験 30点

期末試験 40点

計100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 日本史史料講読		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：屋良健一郎
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標				
①史料を読解するための基礎力を身につける。 ②ひとつの史料から論点を見出し、自分なりの解釈を出すという作業を通じて歴史を多角的に考察する力を身につける。				
授業の概要				
本講義では、日本の古代から近代までの様々な史料をとりあげ、史料から読み取ることができる思想・社会・文化について学ぶ。前半の講義では古文書・古記録（日記）に関する基礎的な事柄を講義し後半では実際にそれらの史料の読解を行う。訓読・現代語訳によって史料を読解しつつ、その史料が記された背景を考え、日本の歴史への理解を深める。				
授業計画				
第1回：ガイダンス・史料とは				
第2回：さまざまな史料				
第3回：古文書の基礎知識				
第4回：書札礼				
第5回：花押				
第6回：印章				
第7回：古記録を読む				
第8回：前半のまとめ・中間試験				
第9回：古代の古文書				
第10回：神仏に誓う 一起請文				
第11回：戦国時代の古文書				
第12回：男女の別れ 一離縁状				
第13回：絵画史料から見た江戸時代				
第14回：近代人の日記				
第15回：偽文書				
期末試験				

テキスト

特になし。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』（吉川弘文館）2,500円＋税

小山田和夫『入門 史料を読む 古代・中世』（吉川弘文館）2,000円＋税

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館）2,900円＋税

日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』（吉川弘文館）2,900円＋税

学生に対する評価

活動状況 30点

中間試験 30点

期末試験 40点

計100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 世界史概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大浜聖香子
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標： 世界の歴史を体系的に理解し、それらが断絶したものではなく現代の世界へと繋がっていることを理解することができる。				
授業の概要： 本講義は、現代に繋がる世界の歴史的経緯や体系について多角的・創造的に捉える力を養う内容である。				
授業計画 第1回：先史の世界—人類の出現と文明への歩み 第2回：オリエント文明の成立 第3回：地中海文明の成立 第4回：アジアの古代文明 第5回：東アジア世界の形成と発展 第6回：イスラム世界の形成と発展—西アジア・南アジア世界と東西交流 第7回：ヨーロッパ世界の形成と発展 第8回：ヨーロッパ社会の変動と大航海時代—近代ヨーロッパの誕生 第9回：ヨーロッパ近代国家の形成 第10回：アジア諸国の繁栄 第11回：市民革命と産業革命 第12回：ヨーロッパ列強の進出とアジア・アフリカ—帝国主義とアジアの民族運動 第13回：二つの世界大戦 第14回：20世紀後半の世界—戦後世界と東西対立 第15回：現代の世界 定期試験は実施しない。（期末レポートを提出してもらう。）				
テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜印刷し配布する。				

参考書・参考資料等
『世界史B』 山川出版社
学生に対する評価
期末レポート：70点
ふりかえりシート：30点
合計：100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 世界の歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤波 潔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】ヨーロッパ近代を国際関係史の視点から理解する			
【到達目標】			
①16～19世紀のヨーロッパ近代史の基本的な知識を理解できる。			
②特定の歴史事象に関する歴史資料を多面的・多角的に読みとることができる。			
③特定の歴史事象が有する意義について論理的に表現できる。			
④ヨーロッパ近代史に関する歴史事象を現代との関わりにおいて探究することができる。			
授業の概要			
学習指導要領の改訂によって、中学校社会科の歴史的分野、高等学校地理歴史科の歴史系科目において、内容的には近現代史分野が充実された一方で、学習方法的にはこれまでの通史学習から課題探究学習への転換がなされた。これにより、中等教育で歴史系科目を担当する者には、史資料の分析・読解に基づいた近現代史の知識の修得とともに、歴史的事象の意義に課する深い理解が求められる。このため、本講義では主として15世紀から19世紀のヨーロッパの歴史を取り扱い、史資料の読解能力と歴史的事象の意義の理解の修得をめざすこととする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：15世紀の世界①（大航海時代の到来）			
第3回：15世紀の世界②（ルネサンス）			
第4回：16世紀の世界①（宗教改革の広がり）			
第5回：16世紀の世界②（イベリア諸国の対外進出）			
第6回：17世紀の世界①（ネーデルラントの独立と対外関係）			
第7回：17世紀の世界②（ネーデルラントの対外進出）			
第8回：17世紀の世界③（三十年戦争とヨーロッパの国際関係）			
第9回：17世紀の世界④（名誉革命体制の成立）			
第10回：18世紀の世界①（フランスの重商主義）			
第11回：18世紀の世界②（イギリスの工業化）			

第12回：18世紀の世界③（フランス革命とヨーロッパ）
 第13回：19世紀の世界①（イギリスの自由主義と対外進出）
 第14回：19世紀の世界②（ドイツの統一と「世界政策」）
 第15回：19世紀の世界③（ヨーロッパ諸国の「帝国主義」）

学期末試験

テキスト

特定のテキストは使用しない

参考書・参考資料等

【参考書】①小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史[近現代]』ミネルヴァ書房、2011年；②南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史ーアジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年；③金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年；④『世界の歴史』全30巻、中央公論新社

【参考資料】歴史学研究会編『世界史史料』全12巻、岩波書店

学生に対する評価

到達目標①の評価：予習プリントの提出（15%）15点

到達目標②の評価：ワークシートの内容（25%）25点

到達目標③の評価：学期末試験の内容（40%）40点

到達目標④の評価：レポートの内容（20%）20点

合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 西欧経済史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮城敏郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 ・経済発展について長期的視点にたって考える力を養う。 ・経済史の専門用語を修得する。 ・過去の成功と失敗を単に過去の出来事として捉えるのではなく、現在及将来起こるであろう諸問題として理解し、歴史の教訓を活かす力を養う。			
授業の概要 本講義は、中世封建制度から現代にいたる欧米諸国の経済発展についてみていく。その場合、なぜある国はいち早く近代産業社会への離陸をなしとげ、またある国はそれに遅れをとったのかについて考える。それは文化、社会、経済的な諸要因の複雑な絡み合いによって起こると考えられるが、特に、中世封建制度のあり方が重要であった。本講義では「富の源泉」、イノベーション、近代化、産業化をキーワードに欧米諸国の経済を比較史的に検討する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：経済史とは 第3回：近代ヨーロッパの商業的拡大と貿易国家の盛衰 ポルトガルとスペイン 第4回：近代ヨーロッパの商業的拡大と貿易国家の盛衰 オランダとイギリス 第5回：近代ヨーロッパにおける農村工業と都市工業1：近代化の歴史的起点 第6回：近代ヨーロッパにおける農村工業と都市工業2：市場構造と経営形態 第7回：近代ヨーロッパにおける[独占]と[経済的自由]：絶対王政と市民革命 第8回：近代資本主義と宗教意識 第9回：イギリス産業革命の世界史的意義 第10回：産業化の波及と後進資本主義の経済構造 第11回：19世紀の世界資本主義 第12回：[大不況]と資本主義の構造変化 アメリカ 第13回：[大不況]と資本主義の構造変化 ドイツ 第14回：イギリス産業精神の衰退と植民地支配 第15回：まとめ：近代化と現代資本主義 期末テスト			

テキスト：

関口尚志、梅津順一『欧米経済史』放送大学教育振興会
適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

河崎信樹・奥和義編『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年

学生に対する評価

授業に臨む姿勢（意欲・積極性）	10点
課題レポートの内容	30点
期末テスト	60点
合 計	100点満点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：卯田卓矢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 人文地理学・ 自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 地理学は現代社会の様々な事象を地域的・空間的な視点から読み解く学問である。本科目では人文地理学の諸概念・視点・対象を学習したうえで、①地理学的な視点から都市、地方、ものづくり、商業、観光などを理解すること、②現代社会の諸事象・諸問題を地域的・空間的に捉えることを達成目標とする。			
授業の概要 本科目は地理学が扱う基本的なテーマとその視点を解説する。具体的には、都市、地方、ものづくり、商業、観光、行動などのテーマを取り上げ、地理学的視点から論じる。この科目を通して現代社会における諸事象・諸問題を地域的・空間的に捉える視点の獲得を目指す			
授業計画 第1回：ガイダンスー人文地理学の諸概念・視点・対象とは何かー 第2回：人口：日本における人口の推移とその地域性 第3回：都市①：戦後日本の都市発展と都市圏の形成 第4回：都市②：都市の立地とサービス消費機会ーなぜ都市に人が集まるのかー 第5回：地方①：戦後日本の地方の人口問題 第6回：地方②：立地からみた地域活性化の可能性と課題 第7回：ものづくり①：工業地帯の変遷とグローバル化 第8回：ものづくり②：工場立地と近接性 第9回：商業①：小売業の環境変化と商店街 第10回：商業②：大型ショッピングセンターの立地と地域への影響 第11回：農業：戦後日本の農業の変遷と地域性 第12回：観光：観光地域の形成と展開ー社会変化と地域の対応ー 第13回：文化・生活：行事の地域差を考える 第14回：行動：女性の「生きやすさ」の地域差 第15回：人文地理学からみた現代日本ーまとめー 期末試験			

テキスト

なし（授業内で適宜文献を紹介、またプリント配布を行う）。

参考書・参考資料等

竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房，2015.
稲垣稜『現代社会の人文地理学』古今書院，2014.
小林茂，宮澤仁編『グローバル化時代の人文地理学』放送大学教育振興会，2012.
上野和彦、椿真智子，中村康子編『地理学概論』朝倉書店，2007.
ポール・ノックス，スティーヴン・ピンチ『都市社会地理学』古今書院，2005.
阿部和俊編『都市の景観地理 日本編』古今書院，2007.
高橋伸夫ほか編『都市空間の見方・考え方』古今書院，2013.

学生に対する評価

- ・小テスト 30点（3回実施）
- ・コメントシート 30点（授業の感想や疑問点などを記述）
- ・期末試験 40点（記述方式）

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 観光地理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：卯田卓矢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 観光地理学とは観光に関わる諸現象および諸課題を地域的・空間的な観点から読み解く学問である。本科目は、①地理学的観点から観光地域の発展と変容について理解すること、②観光地域の現状と課題を考察する「視点」を身につけることを達成目標とする。			
授業の概要 本科目では、前半に観光地理学の視点と方法、観光史、地域特性による観光発展の違いを学ぶ。後半では近年における観光動向（インバウンド、朝市、夜間、合宿、アート、フィルムツーリズム、アニメ聖地巡礼）と地域との関係について説明する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：戦後日本における観光の展開－現在の観光現象を考えるために－ 第3回：現代日本における観光資源の分布－各地方の観光資源を捉える－ 第4回：農村：「生産の場」から「消費の場」への転換と観光 第5回：離島：観光による「島嶼性」の克服 第6回：エコツーリズム：自然環境の保全・活用と地域 第7回：インバウンド：斎場御嶽を訪れる外国人の多様な関心 第8回：朝市：農山村地域における特産品の商品化と生産者 第9回：夜間：都市におけるナイトライフ観光の可能性 第10回：観光資源が観光資源でなくなるとき：スキー人気の低迷と地域 第11回：合宿：スポーツ合宿定着の地域的条件 第12回：アート：アートプロジェクトとまちづくりの可能性 第13回：コンテンツ①：フィルムツーリズムと地域 第14回：コンテンツ②：アニメ聖地巡礼による商店街の活性化？ 第15回：観光地理学からみた日本の将来－観光地域調査ノススメ－ 期末試験			

テキスト

なし（授業内で適宜文献を紹介、またプリント配布を行う）。

参考書・参考資料等

浅香幸雄，山村順次編『観光地理学』大明堂，1974.

江口信清，藤巻正己編『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版，2011.

大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック：新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版，2014

神田孝治編『観光の空間：視点とアプローチ』ナカニシヤ出版，2009

ダグラス・ピアス；内藤嘉昭訳『現代観光地理学』明石書店，2001.

山村順次『新観光地理学』大明堂，1995.

山村順次編『観光地理学：観光地域の形成と課題』同文館出版，2012.

学生に対する評価

- ・小テスト 30点（3回実施）
- ・コメントシート 30点（授業の感想や疑問点などを記述）
- ・期末試験 40点（記述方式）

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 自然地理学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺本 潔
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標				
自然地理の特性をテーマに、地球環境や国土、沖縄県などの空間スケールにおける様々な自然の様相に関して自然地理の基本的な考え方にに基づき、事例地域をあげつつ解説することで気候や地形に対する見方を獲得することができる。				
授業の概要				
主に気候と地形を窓口に、地球環境や国土、沖縄県の自然地理の特色を風土との関連で解説する。デジタル地図（地理院地図）やハザードマップ等の活用法についても論じる。				
授業計画				
第1回：自然地理学の成立とフンボルト				
第2回：自然地理学からみた環境と風土				
第3回：気候の成り立ちと大気の大循環				
第4回：気候の基本的な要素（気温、地温、雲、降水、日射、風）				
第5回：大気と海洋の大循環				
第6回：都市化に伴う気候環境の変化				
第7回：日本の気候区分と中高地理教科書で扱われる典型事例				
第8回：水の分布と特性（河川、流域、湖沼、地下水）				
第9回：地形の基本的な要素（河成地形、海成地形、内的営力のつくる地形）				
第10回：国土の地形でみられる典型事例（段丘、扇状地、自然堤防、三角州）				
第11回：沖縄県の地形でみられる典型事例（サンゴ礁海岸、岩石海岸、カルスト地形）				
第12回：氷河地形と風のつくる地形				
第13回：世界の植生分布と日本列島の植生分布				
第14回：日本の自然の特色と日本の風土（自然災害・ハザードマップの利用）				
第15回：デジタル地図（地理院地図）を活用した沖縄県の自然地理と世界自然遺産				
期末試験				
テキスト 特になし				

参考書・参考資料等

高橋日出男・小泉武栄編著『地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論』朝倉書店

学生に対する評価

期末試験（60点）と沖縄県北部地域を題材とした自然地理レポートの発表（40点）に対して評価する。合計（100点）

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 地球の環境とその保全	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新垣裕治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 ・わたしたちの身の回り環境の現状に関心を持つことができる。			
授業の概要 地球規模や地域レベルの環境問題が深刻になり、いまや環境問題は各国や地方自治体の政策決定にも重要な影響を及ぼしつつある。いわゆる環境問題といわれるものは人間と環境との関わり方の問題であり、この問題の解決には人間が自然環境を理解し、如何にこれら環境に接していくかが重要である。環境と上手く接して行くには、まず、自然環境とはどんなものか、それがどう変化しつつあるかを学習することである。これらの学習をもとに自然環境を保全して行くにはどうすればよいのか考えて行くのがこの講義の目的である。 本科目では、関連団体等から実務経験のある人を学外講師とし招聘し、現状等についての理解を深める。			
授業計画 第1回：授業内容・評価方法他について 第2回：環境を変える生物活動 第3回：地球生命圏 第4回：生態系 第5回：生物どうしの関わり 第6回：移り変わる自然 第7回：地球人口の定員 第8回：水と生命 第9回：水の汚れ 第10回：水の環境（スライド：水生動物 アユとメダカはどこへいったか） 第11回：土の世界 第12回：土の生態系 第13回：土の種類（世界の土壌） 第14回：沖縄県の土壌流出問題			

第15回：畜産の観点から地球環境について考える（WEB）外部講師
 期末試験を実施

テキスト：特になし

参考書・参考資料等

「地球環境と自然保護」東京農工大学農学部生物圏環境科学科専修 培風館
 「土のはなし」 岩田進午 家の光協会

学生に対する評価

試験：90%，レポート：10%，講義への貢献度： $+\alpha$ （講義に相応しい質問や回答が出来た場合など）

※2/3以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。

※出席はTeamsを活用して理解度チェックの提出をもって出席とする。

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 地誌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：卯田卓矢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地誌		
授業のテーマ及び到達目標 地誌学とは地理学の一分野であり、地域を自然、歴史、文化、生活などの観点から「総合的」に把握し、各事象の関係性の中から「地域性」を理解しようとする学問である。本科目は、①地誌的な視点から日本およびヨーロッパの特徴を包括的に理解すること、②日本、世界、沖縄の地域性やその課題を地誌的な観点から捉えることを達成目標とする。			
授業の概要 本科目は前半に日本の特徴的な立地条件を有する地域（離島、里山・棚田、湿地、温泉地など）の地誌、後半にヨーロッパ（イギリス、ドイツ、フランス、スペインなど）の地誌を説明する。			
授業計画 第1回：ガイダンスー地誌学の諸概念・視点・対象とは何かー 第2回：自然条件からみた日本と世界 第3回：日本の地誌①：離島ー離島の地域性 第4回：日本の地誌②：里山・棚田ー「二次的自然」の地域性と観光 第5回：日本の地誌③：湿地ー「ワイズユース」 第6回：日本の地誌④：大地ージオパークを考える 第7回：日本の地誌⑤：温泉地ー伝統的観光地の形成と地域性 第8回：日本の地誌⑥：食ー食の地域的多様性 第9回：観光からみた日本：観光による地域活性化の地域性 第10回：ヨーロッパの地誌①：イギリス 第11回：ヨーロッパの地誌②：ドイツ 第12回：ヨーロッパの地誌③：フランス 第13回：ヨーロッパの地誌④：アルプス 第14回：沖縄の地誌：日本の中の沖縄、世界の中の沖縄 第15回：まとめ 期末試験			

テキスト

なし（授業内で適宜文献を紹介、またプリント配布を行う）。

参考書・参考資料等

上野和彦，本木弘悌，立川和平編『日本をまなぶ 西日本編・東日本編』古今書院，2017.

田林明編『商品化する日本の農村空間』農林統計出版，2013.

小泉武栄『観光地で学ぶ自然学』古今書院，2013.

石毛直道『食の文化地理：舌のフィールドワーク』朝日新聞社，1995.

淡野明彦編『観光先進地ヨーロッパ』古今書院，2016.

加賀美雅弘編『世界地誌シリーズ ヨーロッパ』朝倉書店，2019.

学生に対する評価

- ・小テスト 30点（3回実施）
 - ・コメントシート 30点（授業の感想や疑問点などを記述）
 - ・期末試験 40点（記述方式）
- 合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 沖縄の天然記念物	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂下 光洋 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地誌		
授業のテーマ及び到達目標 天然記念物とは何か？を理解し、沖縄県内の天然記念物指定の状況と、保存の取組の特色について習得することを第一の目標とする。さらにそれぞれが抱える保護・保全上の課題について学び、今後の天然記念物保存策および共存の在り方について考察するとともに、受講者それぞれの立場で何ができるのか？自分の考えを確立することを第二の目標とする。			
授業の概要 沖縄県には学術上貴重とされ保存すべき動植物等が数多く存在し、国指定・県指定・市町村指定を合わせると 200 を超す天然記念物が「文化財保護法」をはじめとする法令により保存の対象として指定されている。本講義では講師の公共事業における自然環境保全対策の実務経験などを活かし、沖縄の天然記念物である名護のひんぷんガジュマル、ノグチゲラやヤンバルクイナなど、天然記念物指定物件（あるいは指定種）の特徴と、それぞれの保存の取組と、それぞれが抱える保護・保全上の課題を学んでもらい、今後の天然記念物保存策のありかたや、望まれる共存社会のあるべき姿について考える。			
授業計画 第1回：登録調整・オリエンテーション、チーム分け・分担 第2回：登録調整、 沖縄理解・天然記念物とは何か？ 第3回：天然記念物保存・「自然の権利」あるいは生物多様性保全－歴史と関連法規－ （要点確認課題：配点 17 点） 第4回：要点の答合わせ、日本（沖縄を含む）の天然記念物と世界自然遺産 第5回：沖縄の天然記念物 1：動物－ヤンバルクイナとカンムリワシなど鳥類－ 第6回：沖縄の天然記念物 2：動物－ノグチゲラとイリオモテヤマネコなど－ 第7回：沖縄の天然記念物 3：動物－ヤンバルテナゴコガネとヨナグニサンなど昆虫－ 第8回：沖縄の天然記念物 4：動物－両生・爬虫類、甲殻類など小動物 第9回：沖縄の天然記念物 5：動物－ジュゴンなど－および第1回中間試験（配点16点） 第10回：試験解答と沖縄の天然記念物 6：動物－アホウドリなど－ 第11回：沖縄の天然記念物 7：家畜など－ケラマジカ、 宮古馬など－			

第12回：沖縄の天然記念物8：植物

－名護のひんぷんガジュマルと宮里前の御嶽のハスノハギリ林など－

第13回：沖縄の天然記念物9：地質・鉱物・生息地・天然保護区

－塩川、嘉津宇岳安和岳八重岳自然保護区など－

第14回：（第2回中間試験：配点16点）、天然記念物保存の課題1：開発と保護、保全

第15回：試験回答と天然記念物保存の課題2：維持管理と外来種問題など

期末試験

テキスト

テキストは指定しない。

参考書・参考資料等

- ①沖縄県教育委員会ほか. 1975～. 沖縄県天然記念物調査シリーズ 第1集～.
- ②沖縄県教育委員会. 1996. 沖縄の文化財Ⅰ 天然記念物. 沖縄県立博物館友の会.
- ③名護市教育委員会文化課. 2014. 名護市の文化財. (800円)

学生に対する評価

- ・要点確認課題1回 17点
- ・中間試験2回 32点（第1回16点、第2回に16点、合計32点）
- ・期末試験 36点（第1回を除き欠席5回以上では受験資格を失う）
- ・クラス貢献度 15点
- ・合計点数 100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 島嶼環境論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田代 豊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地誌		
授業のテーマ及び到達目標 島嶼環境の特徴と環境上の諸問題との関係について理解し、島嶼環境の保全・修復と利用について主体的に考えることができる。			
授業の概要 主として南西諸島を題材として、自然科学の観点から島嶼環境の特徴を概説し、島嶼における人間活動と自然環境との相互作用と、そこから生じる環境上の諸問題について講義するこれらを通じて島嶼地域における望ましい人間と環境とのあり方について解説する。			
授業計画 第1回：講義の概要説明 第2回：島嶼の環境の特徴 第3回：観光対象としての島嶼環境 第4回：島嶼の形成過程 第5回：南西諸島の成り立ち 第6回：高島と低島の環境 第7回：サンゴ礁と海岸の環境 第8回：南西諸島の陸水環境 第9回：島嶼の環境問題と要因－環境汚染① 第10回：島嶼の環境問題と要因－環境汚染② 第11回：島嶼の環境問題と要因－サンゴ礁生態系の問題 第12回：島嶼の環境問題と要因－自然破壊① 第13回：島嶼の環境問題と要因－自然破壊② 第14回：生活環境としての島嶼 第15回：島嶼環境の保全 定期試験は実施しない			
テキスト 特になし。			

参考書・参考資料等

- ・『琉球列島の環境問題』桜井国俊他 高文研 2800円+税
- ・『沖縄の自然を知る』池原貞雄他 築地書館 2400円+税
- ・『沖縄やんばるの森』伊藤嘉昭 岩波書店 1845円+税
- ・『南の島の自然破壊と現代環境訴訟』関根孝道 関西学院大学出版会 3045円+税
- ・『琉球列島の地形』河名俊男 新星図書出版 1800円+税
- ・『島の一生』Henry W. Menard 東京化学同人 4400円+税

学生に対する評価

- | | |
|-----------|-------|
| ・授業での活動状況 | 25 点 |
| ・課題レポート | 75 点 |
| ・合 計 | 100 点 |

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 地理歴史科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺本 潔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 高校「地理歴史科」改訂の趣旨と科目構成を概観し、必履修の地理総合と歴史総合を軸にその科目の性格と内容、及び取扱いを理解した上で、具体的な授業を想定した大単元ごとの指導計画と評価規準の検討、並びに沖縄県の地理歴史的事象も含んだ教材開発を試み、続く「地歴科教育法Ⅱ」で扱われる学習指導案の作成と模擬授業実施につながる教育方法論的な知識・技能や生徒に対話を促す手法を身に付けることができる。			
授業の概要 本授業は、改訂された地理歴史科の趣旨理解を始め、必履修である地理総合と歴史総合を軸に、選択履修の地理探究、日本史探究、世界史探究の概括的な内容解説も加えつつ授業実践に至る基礎的な知識と技能の獲得を目指している。地図や統計、各種画像、地理情報システム、歴史的諸資料の利活用を通して、育成を目指す資質・能力の明確化を目途に、教材開発と指導計画の立案を行う。			
授業計画 第1回：地理歴史科の学習指導要領における目標と科目の性格・構成の説明 第2回：防災や観光、異文化、世界遺産・日本遺産・地域遺産をテーマとした地理歴史学習の面白さ 第3回：中学社会科からの発展と学校種を超えて貫く社会的な見方・考え方 第4回：地理総合：大単元「地図や地理情報システムで捉える現代世界」の指導内容と方法の説明 第5回：地理総合：大単元「国際理解と国際協力」の指導内容と方法の説明 第6回：地理総合：大単元「持続可能な地域づくりと私たち」の指導内容と方法の説明 第7回：歴史総合：大単元「近代化と私たち」の指導内容と方法の説明 第8回：歴史総合：大単元「近代化と私たち」の指導内容と方法の説明 第9回：歴史総合：大単元「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の指導内容と方法の説明 第10回：歴史総合：大単元「グローバル化と私たち」の指導内容と方法の説明 第11回：Web上の地理院地図やデジタル化された資料の活用 第12回：地域に残る遺構や土地利用変遷の活用 第13回：日本史探究並びに世界史探究の授業づくりに向けて 第14回：地理総合の指導計画発表と受講生相互の学び合い			

第15回：歴史総合の指導計画発表と受講生相互の学び合い

定期試験は行わず指導計画のレポート発表（パワーポイント）に代える。

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領解説（平成30年公示） 地理歴史編』（東洋館出版社、2019）

参考書・参考資料等

寺本潔・澤達大編著『観光教育への招待』ミネルヴァ書房、2016年発行。

学生に対する評価

A：授業態度・姿勢（振り返りシートや沖縄県内の地形図判読作業、名護市立博物館の史料活用ミニレポート提出なども含む）40点。

B：地理総合もしくは歴史総合の指導計画レポートの提出 60点

合計100点で評価する。

※1 時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 地理歴史科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：神村 智子 担当形態：単 独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 地理・歴史科目の学習指導案の構成を理解した上で、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成し、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。			
授業の概要 本授業は、教育実習や教員採用試験を見据えて、履修者が地歴科教育への理解を深め、実践的な力を見につけるために、現代社会と地歴科との関連性に言及しながら、年間計画や学習指導案を作成しそれらの相互評価を行う。なお授業づくりに際しては、背景となる学問領域の關係に留意し、効果的な授業形態、ICTの活用を模擬授業において発表する。			
授業計画 第1回 イン트로ダクション 授業計画の説明 第2回 現在求められている社会科（地理歴史科）授業のあり方 第3回 学習指導案の作成－教材観（発展的な学習内容への教材化） 第4回 学習指導案の作成－展開例（中心的問い） 第5回 学習指導案の作成－振り返り・評価論（試験問題の分析結果及び改善案） 第6回 カリキュラム論（教科横断的・地域との連携を取り入れたなカリキュラム案） 第7回 ICTを活用した授業実践例（地理総合） 第8回 ICTを活用した授業実践例（歴史総合） 第9回 導入を中心とした模擬授業とその検討 第10回 導入を中心とした模擬授業とその検討 第11回 展開を中心とした模擬授業とその検討 第12回 展開を中心とした模擬授業とその検討 第13回 振り返りを中心とした模擬授業とその検討 第14回 振り返りを中心とした模擬授業とその検討 第15回 模擬授業の成果と今後の課題 期末試験			

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年公示）』（東洋館出版、2018）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説（平成30年公示） 地理歴史編』（教育出版、2018）

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社、2020年

他、単元毎にその都度、レジュメを配布する。また、必要に応じて関連図書を紹介する。

参考書・参考資料等参考図書

「教育の情報化に関する手引」や動画コンテンツ等（文部科学省ホームページに掲載）

学生に対する評価

A：授業態度・姿勢（振り返りシートの提出・実技課題の提出など）30点、

B：期末試験（小論）70点

合計100点で評価する。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 経営学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 優子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）企業経営に関する基本的な知識を身につけることができる。 （２）企業が直面している課題や問題点について様々な角度から考察していく力をつけることができる。			
授業の概要			
目まぐるしく変化する今日の経済・社会と、企業の活動や我々の日常生活との関係は、切っても切れない関係にある。ゆえに、企業の活動を理解することは、我々の生活や社会、そして経済を理解することにつながる。企業という特定の領域を研究対象とする経営学の基礎知識を十分理解することを目的に進めていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
授業の進め方、授業計画の内容の説明、授業を受けるにあたっての課題への取組と評価について。 第2回：企業とは：①企業の役割について ②働く場、雇用の場、商品やサービスの生産・販売の場 本講義で対象とする企業とは、そもそも何かをまず理解する。同時に、その企業が我々の生活とどのように関わっているのか、その役割について学ぶ。 【事前・事後学習：身近な企業について、業種や業界、どのような活動をしているのか】 第3回：企業のイメージ・捉え方について：①イメージの昔と今 ②東インド株式会社・海援隊など 企業の歴史を紐解き、どのように進化しているのかを理解する。 【事前・事後学習：企業の発展の歴史について】 第4回：企業経営と経営者：①所有と経営の分離 ②経営者とは 企業は誰のものかという基本的な出発点から、企業の経営者、所有者の関係やそれらがどのように企業経営に関わっているのか理解する。 【事前・事後学習：身近な企業の経営者とその役割について考える】 第5回：企業と起業①：①企業と起業の違い ②企業と会社 ③起業家（アントレプレナー）とは 企業と起業の違いや企業と会社とは、その中での起業家とは何かを理解する。 【事前・事後学習： 起業について考える】 第6回：企業と起業②：①起業の形態、②起業設立の方法、③スタートアップ 起業の形態のパターンや起業設立に関する方法を理解する。また、起業の形態パターンの1つであるスタートアップの特徴を理解する。			

【事前・事後学習：スタートアップ型企業の事例から学ぶ】

第7回：企業と起業③：①フランチャイズ方式、②買収

起業の形態パターンのなかから、フランチャイズや買収について取り上げる。その特徴を理解する

【事前・事後学習：フランチャイズに企業事例から学ぶ】

第8回：企業を取り巻く環境変化：①社会的環境とその変化

企業、起業、会社はいずれにしても、それらを取り巻く環境をどのように理解するかによって、成長・発展、成功に明暗が分かれる事態を招くことがある。そこでどのような環境があるのか、またどのように変化しているのかについて理解する。まずは、社会的環境変化について理解する。

【事前・事後学習：社会的環境変化について考える】

第9回：企業を取り巻く環境変化：②経済的環境とその変化

企業、起業、会社はいずれにしても、それらを取り巻く環境をどのように理解するかによって、成長・発展、成功に明暗が分かれる事態を招くことがある。そこでどのような環境があるのか、またどのように変化しているのかについて理解する。2つ目として、経済的環境変化について理解する。

【事前・事後学習：経済的環境変化について事例から考える】

第10回：企業を取り巻く環境変化：③技術的環境とその変化

企業、起業、会社はいずれにしても、それらを取り巻く環境をどのように理解するかによって、成長・発展、成功に明暗が分かれる事態を招くことがある。そこでどのような環境があるのか、またどのように変化しているのかについて理解する。3つ目として、技術的環境変化について理解する。

【事前・事後学習：技術的環境変化について事例から考える】

第11回：企業を取り巻く環境変化：④政策的環境とその変化

企業、起業、会社はいずれにしても、それらを取り巻く環境をどのように理解するかによって、成長・発展、成功に明暗が分かれる事態を招くことがある。そこでどのような環境があるのか、またどのように変化しているのかについて理解する。4つ目として、政策的環境変化について理解する。

【事前・事後学習：政策的環境変化についての事例から学ぶ】

第12回：企業と戦略①：経営戦略

企業を取り巻く環境変化にどのように対応していくのかといった計画を立てるために必要な考え方として経営戦略がある。ここでは経営戦略の考え方について理解する。

【事前・事後学習：企業の経営戦略について、事例から学ぶ】

第13回：企業と戦略②：マーケティング

企業を取り巻く環境変化にどのように対応していくのかといった計画を立てるために必要な2つ目の考え方としてマーケティングがある。これについて理解する。

【事前・事後学習：企業のマーケティング活動について事例から学ぶ】

第14回：新しい企業：①NPO、社会的企業（社会企業）の登場

企業は基本的に営利追求型のものが多いが、近年、ただ単に営利だけを追求するのではなく、社会問題や地域問題など公共的な取り組みが必要なものが増えてきている。公共的なものはこれまで

行政が担ってきたものであったが、それも困難な事態が生じている。そこで登場してきたの、非営利型のNPOであったり、営利を追求しながらも社会問題の解決に取り組む社会的企業の存在がある。これらについて理解していく。

【事前・事後学習：現代の社会問題や地域問題とは何かについて事例から学ぶ】

第15回：企業に関するこれまでのプレシートの振り返り

これまで作成してきたプレシートの振り返りを通して、経営に関して理解を深める。

【事前・事後学習：企業経営と社会活動について学ぶ】

期末テスト

テキスト：指定はしない

参考書・参考資料等

- ①上林・奥村・團・開本・森田・竹林著『経験から学ぶ経営学入門[第2版]』有斐閣ブックス(2018年)2,592円(税込み)
- ②足立辰雄編著『ビジネスをデザインする』ミネルヴァ書房(2016年)3,024円(税込み)
- ③加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学(第2版)』中央経済社(2012年)
2,592円(税込み)
- ④東北大学経営グループ著『ケースに学ぶ経営学(新版)』有斐閣ブックス(2008年)
2,730円(税込み)
- ⑤明治大学経営学研究会編『経営学への扉(第3版)―フレッシュマンのためのガイドブック―』白桃書房(2006年)2,940円(税込み)

学生に対する評価

事前・事後課題の作成と提出	60点
期末テスト	40点
合 計	100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 簿記原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：仲尾次(比嘉)洋子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 個人商店を対象とした複式簿記を中心に学習し、とくに複式簿記のベースとなる勘定記入の法則・仕訳の完全な習得			
授業の概要 複式簿記は経理担当者、経営者、職業会計人等に必須の知識であり、情報化社会における素養とさえいえる。このような社会的要請に応えるため、本講義では、複式簿記の基本的知識と技能を修得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から決算処理、財務諸表作成までの一連の流れを学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の目的・シラバス・登録）・簿記の意義 第2回：資産・負債・資本と貸借対照表 第3回：収益・費用と損益計算書 第4回：取引と勘定記入 第5回：仕訳 第6回：転記 第7回：試算表 第8回：6桁精算表 第9回：決算① 第10回：現金取引 第11回：商品売買取引 第12回：受取手形・支払手形 第13回：その他の債権債務① 第14回：その他の債権債務② 第15回：中間の振り返り・中間試験 第16回：有価証券 第17回：貸倒引当金 第18回：有形固定資産①			

第19回：有形固定資産②

第20回：決算②(現金過不足)

第21回：決算②(費用収益の見越し)

第22回：決算②(費用収益の繰延べ)

第23回：決算②(消耗品)

第24回：伝票(入金伝票・出金伝票・振替伝票)

第25回：8桁精算表①

第26回：8桁精算表②

第27回：8桁精算表③

第28回：財務諸表の作成①

第29回：財務諸表の作成②

第30回：財務諸表の作成

期末テスト・総括

テキスト

伊藤龍峰他『基本簿記原理』中央経済社

参考書・参考資料等

渡部裕亘他『検定簿記ワークブック(3級商業簿記)』中央経済社 700円＋税

『過去問題集日商簿記3級』TAC出版 1,600円＋税

学生に対する評価

中間テスト 50点 期末テスト 50点 合計 100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 上級簿記		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：名城 佳枝 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 株式会社における取引を記録する複式簿記の技法を習得するとともに、企業が公表する財務諸表を理解し、企業分析を行う際の基礎知識を養うことを目標としている。さらには、日商簿記検定2級合格を目指す。				
授業の概要 本科目は、株式会社における帳簿作成の基本的な考え方、フクシキボキの仕組み等（日商2級商業簿記の内容）を修得することを目的としている。				
授業計画 第1回：講義概要、簿記の基本知識の確認 第2回：株式会社の発行・剰余金の配当と処分① 第3回：株式会社の発行・剰余金の配当と処分② 第4回：合併と無形固定資産、法人税と消費税① 第5回：合併と無形固定資産、法人税と消費税② 第6回：商品売買① 第7回：商品売買等② 第8回：手形と電子記録債権債務・その他の債権譲渡、銀行勘定調整表① 第9回：手形と電子記録債権債務・その他の債権譲渡、銀行勘定調整表② 第10回：固定資産① 第11回：固定資産② 第12回：リース取引、研究開発とソフトウェア① 第13回：リース取引、研究開発とソフトウェア② 第14回：売買目的有価証券 第15回：満期保有目的債権 第16回：引当金 第17回：外貨換算会計① 第18回：外貨換算会計②				

第19回：税効果会計①

第20回：税効果会計②

第21回：精算表と財務諸表、帳簿の締め切り①

第22回：精算表と財務諸表、帳簿の締め切り②

第23回：精算表と財務諸表、帳簿の締め切り③

第24回：精算表と財務諸表、帳簿の締め切り④

第25回：本支店会計①

第26回：本支店会計②

第27回：連結会計①

第28回：連結会計②

第29回：連結会計③製造会計

第30回：まとめ

学期末テスト

テキスト 「スッキリわかる日商簿記2級商業簿記 第12版 テキスト＋問題集」 滝澤ななみ著
TAC出版

参考書・参考資料等

「日商簿記2級網羅型完全予想問題集」 TAC出版

WEB上で公開のパワーポイント資料

学生に対する評価

各単元終了後のミニテスト70点、まとめ・学期末テスト30点の合計100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ミクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮平栄治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学の到達目標は次の4点です。 ①合理的な経済活動の考え方が出てきた背景を理解します。 ②合理的な経済活動が、限られた資源で目的を最大化することを理解します。 ③合理的経済活動の考え方を家計と企業に適用できるようにします。 ④合理的経済活動を分析する上で必要なミクロ経済学の分析手法(限界概念、無差別曲線、限界利潤と限界費用など)を修得します。			
授業の概要 ミクロ経済学の授業概要は、家計や企業が合理的な時の経済活動を分析します。合理的な経済活動とは、限られた資源で目的を最大化するという経済活動を意味しています。ミクロ経済学の学習が、国際経済学、金融論、財政学、産業組織論、競争政策論、行動経済学の理解につながります。			
授業計画 第 1 回： 経済の基本問題・経済システム・経済分析の視点 研究倫理 準備学習 第 2 回：経済学の考え方の特徴 pp.97－104、 第 3 回：限界概念と生産理論その 1(企業の抽象化) 第 2 回配布プリント 第 4 回： 生産理論その 2(利潤最大化条件) pp.15－19 第 5 回：生産理論その 3(平均費用曲線) pp.21－27 第 6 回：生産理論その 4(利潤極大化条件) pp.28－40 第 7 回： 短期における企業活動 第 6 回配付プリント 第 8 回： 不完全競争理論その 1(独占理論) pp.223－235 第 9 回： 不完全競争理論その 2(寡占市場理論) 第 8 回配付プリント 第 10 回： 不完全競争理論その 3(クールノーとナッシュ均衡点) pp.235－243 第 11 回： ゲーム理論の基礎 pp.189－194 第 12 回： 戦略ゲーム、ナッシュ均衡、囚人のジレンマ pp.195－208 第 13 回：展開ゲーム pp.208－219 第 14 回：行動経済学その 1(法則性のある偏り) 第 13 回配付プリント			

第 15 回：行動経済学その 2(ナッジ) 第 16 回：オークションの経済学 定期試験は実施しない。	第 14 回配付プリント pp.267－300
テキスト 永田良・荻沼隆・荒木一法著(2019) 『標準ミクロ経済学－第 2 版』 東洋経済新報社 3,520 円	
参考書・参考資料等 伊藤元重(日本評論社 2018 年)『ミクロ経済学－第 3 版－』 3,240 円 神取道宏著 (日本評論社 2014年) 『ミクロ経済学の力』 3,456円 坂井豊貴著(筑摩書房 2013年)『マーケットデザイナー－最先端の実用的な経済学』 853円	
学生に対する評価 講義開始直後に行う5回のアチーブメントテスト(10点満点)の合計点でマクロ経済学の成績を評価します。	

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： マクロ経済学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮平栄治 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する事項（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学の到達目標は4点です。 ①ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを学びます。ミクロ経済学が経済を動かす最小単位からの分析であるのに対し、マクロ経済学は一国全体から分析を行います。 ②一国の経済活動の動きは、家計、企業、国及び輸出入から成立であることを理解します。 ③一国経済の健全性測定指標の種類、機能、測定方法と理論を修得します。④経済構造の変化を説明や解明を行うためにマクロ経済理論の変遷と理論の改善方法を学びます。				
授業の概要 マクロ経済学は講義形式による授業を行います。マクロ経済学は経済学の基礎科目です。マクロ経済学では、一国経済の動きを、国民総生産(GDP)、失業、インフレーション、利子率などの動きから分析します。				
授業計画 第 1 回：国民所得統計 マクロ経済の鳥瞰図 研究倫理 準備学習 第 2 回：GDP の基礎－フロートとストック、名目と実質 pp.2－24 第 3 回：GDP の抽象化＝モデル化 pp.25－33 第 4 回：総需要その 1－家計消費(ケインズ型消費関数) pp.34－37 第 5 回：総需要その 2－企業投資(設備投資関数) pp.38－40 第 6 回：総需要その 3－政府支出(外生変数)と乗数理論 pp.40－41 第 7 回：財市場均衡条件(I=S) pp.46－48 第 8 回：IS 曲線の導出 pp.43－45 第 9 回：貨幣需要その 1－取引的動機に基づく貨幣需要 pp.50－56 第 10 回：貨幣需要その 2－投機的動機に基づく開閉需要 pp.57－61 第 11 回：貨幣供給と中央銀行 pp.62－77 第 12 回：LM 曲線の導出 pp.78－82 第 13 回：IS－LM 分析 pp.83－108 第 14 回：IS－LM 分析の限界と AD－AS モデル pp.109－122 第 15 回：フィリップス曲線とオーカンの法則 第 14 回配付プリント				

第16回：マンデル＝フレミングモデル 定期試験は実施しない。	第15回配布プリント
テキスト	
飯田泰之・中里透著(2019 新世社) 『コンパクトマクロ経済学―第2版』 1,991円	
参考書・参考資料等	
齋藤誠・岩本康志・太田聡一柴田章久(2010 有斐閣)『マクロ経済学』 4,290 円	
二神孝一・堀敬一著(2017 有斐閣)『マクロ経済学―第2版―』 3,520円	
ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト著 岩本康志監訳(2019 東洋経済新報社)『マクロ経済学』 4,180円	
学生に対する評価	
講義開始直後に行う5回のアチーブメントテスト(10点満点)の合計点でマクロ経済学の成績を評価します。	

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： マーケティング論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：草野泰宏 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ マーケティング論の基礎知識や4P戦略を理解します。 ・ マーケティングと社会との関係について理解します。				
授業の概要 ・ マーケティングは、企業や非営利組織がおこなう対市場活動です。 ・ マーケティングを初めて学ぶ学生を念頭に、4Pという基礎的な概念や理論について具体的な事例を取り上げて学びます。 ・ 講義の後半ではサービス経済化やグローバル化など、現代企業が抱える独自の問題にも焦点を当てます。 理論の暗記のみではなく、時代背景や転換点となった出来事と同時に理解することを目指します。 本科目は、ICTを活用する形式で行います。Universal Passportに講義資料や課題を掲載しますので、確認してください。				
授業計画 第1回：オリエンテーション マーケティング戦略への招待（テキスト序章） マーケティングの誕生について解説する　＜準備学習：映画「Always 3丁目の夕日」の鑑賞＞ 第2回：事業機会と事業領域の選択（1章、2章） 三種の神器、製品ポートフォリオマトリクス、多角化について解説する。 ＜準備学習：復習（序章）予習（1章、2章）＞ 第3回：標的市場の選択（3章） 標的市場と市場細分化について解説する。＜準備学習：復習（1章、2章）予習（3章）＞ 第4回：消費者行動分析（5章） マーケティングの定義の変遷やオピニオンリーダー、準拠集団といった消費者行動に影響を与えるものについて解説する。＜準備学習：復習（3章）予習（5章）＞				

第5回：競争分析（6章）

ポーターの5つの競争要因、参入障壁、移動障壁について解説する。

＜準備学習：復習（5章）予習（6章）＞

第6回：流通分析（7章）

流通システム、流通構造の変化、流通系列化について解説する。

＜準備学習：復習（6章）予習（7章）＞

第7回：製品対応（8章）

製品、個別ブランド、製品ライン、製品ライフサイクルについて解説する。

＜準備学習：復習（7章）予習（8章）＞

第8回：製品対応（8章）

ブランド、ラグジュアリーブランド、カルチュラルブランドについて解説する。

＜準備学習：復習（8章）予習（ダグラス B. ホルト（2005）2章）＞

第9回：価格対応（9章）

新製品の価格対応、心理面に考慮した価格対応、割引による価格対応について解説する。

＜準備学習：復習（ダグラス B. ホルト（2005）2章）予習（テキスト9章）＞

第10回：コミュニケーション対応（10章）

広告、セールス・プロモーション、人的販売、パブリシティについて解説する。

＜準備学習：復習テキスト（9章）予習（10章）＞

第11回：流通チャネル対応（11章）

第12回：競争対応（12章）

製品ライフサイクル別の戦略、競争地位別戦略について解説する。

＜準備学習：復習（11章）予習（12章）＞

第13回：サービス・マーケティング（13章）

サービス産業のシェアの推移、サービスの特性、サービス業のマーケティング戦略について解説する。＜準備学習：復習（12章）予習（13章）＞

第14回：ソーシャル・マーケティング（14章）

非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、企業の社会的責任について解説する。＜準備学習：復習（13章）予習（14章）＞

第15回：関係性マーケティング（15章）

マネジリアル・マーケティングから関係性マーケティングへの変化について解説する。＜準備学習：復習（14章）予習（15章）＞

期末テスト

テキスト

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第5版）』有斐閣、2016年。

価格2000円＋税

参考書・参考資料等

ダグラス B. ホルト『ブランドが神話になる日』ランダムハウス社、2005 年。

価格 2500 円＋税

石井淳蔵・廣田章光・清水信年編『1 からのマーケティング（第 4 版）』碩学舎、2020 年。 価格 2400 円＋税

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎、2016 年。価格 2400 円＋税

これらの他に、講義中にテーマに応じて適宜参考文献を提示します。

学生に対する評価

課題レポート 30点

質疑やディスカッションによる講義への参加の程度 （質問・感想へのコメント） 20点

期末テスト 50点

合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 流通論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：林 優子	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) 流通論の基本原理の理解を深めることができる (2) 現在の流通業の動向を理解することができる (3) 沖縄県における流通業の現状と問題点を理解することができる							
授業の概要							
生産から消費までの流通過程における基本的原理を理解することを目的とする。生産と消費の懸隔として、空間的、時間的懸隔があげられる。この懸隔にどのように流通が関わり、解消しているのかを具体的事例をあげながら、考察する。とくに、学生の関心の高い小売業を中心に講義を進める。 さらに、近年の情報技術の発展をうけて流通過程でも大きな変化や問題が生じている。それらについても事例をみながら、現代の流通について考えていく。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション							
①講義の進め方 ②講義概要の説明、課題や評価について							
第2回：流通の概念とその機能：							
①経済における流通の位置、②生産と消費の隔たりとは何か。 [準備・事後学習：流通における場所的・時間的・情報・所有・価値の隔たりについて考える]							
第3回：取引と市場形成：							
①生産と消費の懸隔の架橋 ②市場経済の発展と市場の発展 [準備・事後学習：市場経済の発展と市場の形成の関係について考える]							
第4回：商業の介在：							
①直接・間接流通、②再販売購入、③売買集中とは [準備・事後学習：流通と商業とはどのような機能を持っているのか考える]							
第5回：商業の分化：							

①商業における段階分化 ②卸売業と小売業

[準備・事後学習：身近な商品の生産からどのように消費者まで流れているか探る]

第6回：卸売業①：

①内部分化の仕組み ②第1次卸、第2次卸、特約店等について

[準備・事後学習：具体的な企業事例から実態を学ぶ]

第7回：卸売業②：

①内部分化から統合へ ②流通系列化とは

[準備・事後学習：メーカーと卸売業の取引関係について、企業事例から学ぶ]

第8回：小売業①：

①都市化の発展 ②都市化の発展による小売業の変遷

[準備・事後学習：都市の発展と小売業の関係について歴史的な発展の経緯から学ぶ]

第9回：小売業②：

①小売業の構造的特徴 ②商店数、従業者規模、売場面積からみる小売業

[事前・事後学習：時系列データから構造的変遷を読み解いていく]

第10回：小売業③：

①業種と業態、②業態の発展：百貨店と中小小売業

[事前・事後学習：業態：百貨店の歴史を紐解き、現状と問題点について探る]

第11回：小売業④：

①業態の発展：チェーンストア、総合スーパー、食品スーパー

[事前・事後学習：業態：総合スーパー、食品スーパーについて具体的事例から学ぶ]

第12回：小売業⑤：

①業態の発展：コンビニエンスストア、ディスカウントストア、SPA

[事前・事後学習：業態：コンビニ、DS、SPAについて具体的事例から学ぶ]

第13回：流通政策：

①競争調整政策、②大規模小売店舗法と大規模小売店立地法

[事前・事後学習：流通政策の変遷を時系列で探り、現状と問題点について理解する]

第14回：地域と流通①：

①少子高齢化と市民生活、②商店街問題

[事前・事後学習：商店街問題について、現状と問題点を整理する]

第15回：地域と流通②：

①小売業とまちづくり、②まちづくり3法、③全体まとめ

[事前・事後学習：まちづくりについて考える]

期末テスト

テキスト:指定しない

参考書・参考資料等

石原・竹村・細井編『1からの流通論（第2版）』碩学舎（2018年）2,592円（税込み）

崔・岸本編『1からの流通システム』碩学舎（2018年）2,592円（税込み）

番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版（2016年）
2,592円（税込み）

田村正紀『流通原理』千倉書房（2001年）2,700円（税込み）

宇野史郎・吉村純一・大野哲明編著『地域再生の流通研究―商業集積間競争とまちづくりの
視点』中央経済社(2008年)3,150円(税込み)

学生に対する評価

事前事後課題 50点

期末テスト 50点

合計 100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 会社法		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：内栴博信	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目					
授業のテーマ及び到達目標							
○本講義では、会社法の基本的構造、基本判例および学説等の基本的知識を確実に理解することを一義的な目的とし、加えて最先端のトピックスについても適宜とりあげつつ、実践的な思考力を涵養する。 ○会社法に関する法的话题を問題なく議論できるようになることを目標とする。							
授業の概要							
基本的に、教科書・レジュメに沿って基本的知識をおさえつつ、判例集掲載のケースの検討・考察を行うことによって会社法の全体構造の修得を図る。また、会社法全体の基礎的知識を修得した後に、実践的な問題についても取り組み、さらなる思考力の涵養も図りたい。 会社法は初学者にとって難解と感じられる傾向がある。しかし、基礎的知識をいったん修得すれば、その誤解も解けると思われる。会社法のおもしろさを本講義で実感してほしい。							
授業計画							
第1回：【会社法総論】会社法の全体構造の理解、会社の法人性および会社の種類							
第2回：【設立】設立の意義および手続の概要と出資の履行、変態設立事項について							
第3回：【株式】株主権利、株主有限責任および株式平等の原則について							
第4回：【株主総会】株主総会の招集・決議、総会決議の瑕疵について							
第5回：【取締役】取締役の資格・員数・任期・選任・終任・解任について理解							
第6回：【取締役会】取締役会における業務執行の決定、取締役による監督機能について							
第7回：【代表取締役】代表取締役の地位、代表取締役の代表権について							
第8回：【監査役・監査役会・会計監査人・会計参与について】							
第9回：【指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社・取締役会非設置会社について】							
第10回：【役員等の義務と責任①】任務懈怠責任、経営判断原則について							
第11回：【役員等の義務と責任②】注意義務・忠義義務、利益相反取引、競業取引、報酬等の決定について							
第12回：【資金調達】企業の資金調達の方法、募集事項の決定、有利発行について							
第13回：【計算】計算書類・事業報告・附属明細書、決算、剰余金の配当について							
第14回：【企業の買収・再編】キャッシュアウト、組織再編の概要について							
第15回：【解散・清算について】							

期末試験
テキスト 田中亘・会社法〔第5版〕（有斐閣、2021）
参考書・参考資料等 神作裕之ほか編・会社法判例百選〔第4版〕（有斐閣、2021）
学生に対する評価 期末試験70点＋レポート30点、合計100点で評価を行う。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 会計学原理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名 :仲尾次(比嘉)洋子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 企業が公表する財務諸表を理解するとともに、各自の会計情報活用法を見出す。			
授業の概要 簿記原理において日々の取引の会計処理から財務諸表の作成方法までを修得した学生に対して、財務諸表利用者、すなわち株主・債権者・経営者、そして就職先を探す学生の立場から財務諸表の読み方を学ぶ。さらに、企業活動のグローバル化を背景に、会計基準が国際的に収斂しつつある現状も取り上げる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の目的、シラバス、登録） 第2回：会計の意義・種類・役割 第3回：貸借対照表の構造① 第4回：貸借対照表の構造② 第5回：損益計算書の構造① 第6回：損益計算書の構造② 第7回：会計を規定する法律 第8回：粉飾決算 第9回：財務諸表の活用法 第10回：収益性を読む 第11回：安全性を読む 第12回：成長性を読む 第13回：経営分析の事例 第14回：国際財務報告基準① 第15回：国際財務報告基準② 期末試験			

テキスト

成川正晃編『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社 2,200円＋税

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

活動状況 20点 レポート 30点 期末試験 50点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 原価計算		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：名城 佳枝 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 製造・営業・管理など企業全般にわたり、重要な原価計算の基本的な計算構造を理解し、ビジネスに活かせる知識を修得することを目標としている。				
授業の概要 本科目は、製造業において必須となる工業簿記及び原価計算の知識と技法（日商簿記検定2級工業簿記レベル）を修得する。テキストの内容を解説後、問題に取り組む形式で講義を進めていく。				
授業計画 第1回：工業簿記・原価計算の基礎知識 第2回：材料費 第3回：労務費 第4回：経費 第5回：個別原価計算① 第6回：個別原価計算② 第7回：部門別個別原価計算 第8回：総合原価計算① 第9回：総合原価計算② 第10回：総合原価計算③ 第11回：工業簿記における財務諸表 第12回：本社工場会計 第13回：標準原価計算① 第14回：標準原価計算 第15回：直接原価計算 期末テスト				
テキスト 「スッキリわかる日商簿記2級工業簿記 第8版 テキスト＋問題集」 滝澤ななみ著 TAC出版				

参考書・参考資料等
「日商簿記2級網羅型完全予想問題集」TAC出版
WEB上で公開のパワーポイント資料
学生に対する評価
各単元終了後のミニテスト70点、まとめ・期末テスト30点の合計100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 経済政策		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮平栄治 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 経済政策の到達目標は次の5点です。①経済政策が行われる理由を学びます。②経済政策は、結果や予測の正確性に加え、政策の適時性、時間コスト、誤りや被害最小化を目指す必要があることを学びます。③経済政策を行うための条件を理解します。④経済政策の手段と効果の計測方法を理解します。⑤経済政策におけるリスクへの柔軟な対応(政策メニューや手段の豊富さとシステム化)や危機からの急速な回復(強靱体制)の意味を理解します。				
授業の概要 経済政策は、国や都道府県を含む政府が、住民の課題解決や生活向上のためにおこなう政府活動です。政府活動には、司法、警察や国防などの公的サービス、政府活動には、母子手帳の交付や義務教育などの住民サービス、上下水道や公的交通などの生活基盤施設整備、建設や運営から道路・橋梁、海空港などの公共施設の建設や提供を行っています。経済政策では、経済政策の歴史、理由、考え、必要条件、決定プロセスや効果測定方法などを学びます。アクティブラーニングでは、学生に質問を行い、学生本人で考えた考えを発表する方法を行います。				
授業計画				
第 1 講	経済政策の基礎－経済政策と問題の定義、経済政策発動要因	準備学習		
第 2 講	経済政策ツール、分類	第 1 講配布プリント		
第 3 講	経済政策の効果測定(Input-Output-Outcome)	第 2 講配布プリント		
第 4 講	伝統的金融政策(貨幣供給量と利子)	第 3 講配布プリント		
第 5 講	非伝統的金融政策(マイナス金利とフォワードガイダンス)	第 4 講配布プリント		
第 6 講	財政政策	第 5 講配布プリント		
第 7 講	ポリシーミックス	第 6 講配布プリント		
第 8 講	産業政策－産業構造の定義	第 7 講配布プリント		
第 9 講	中小企業政策	第 8 講配布プリント		
第 10 講	労働政策その 1－労働関係法と雇用政策	第 9 講配布プリント		
第 11 講	労働政策その 2－日本の労働市場の課題	第 10 講配布プリント		

第 12 講 経済成長政策その 1ー経済成長の理論	第 11 講配布プリント
第 13 講 経済成長政策その 2ー日本企業の課題	第 12 講配布プリント
第 14 講 社会政策その 1ー貧困の定義と現状	第 13 講配布プリント
第 15 講 社会政策その 2ー沖縄の貧困の状況	第 14 講配布プリント
第 16 講 社会政策その 3ー経済成長政策と所得再分配政策	第 15 講配布プリント
定期試験は実施しません。	

テキスト

指定しません。参考書や参考資料をまとめた配付プリントで講義を行います。

参考書・参考資料等

池宮城秀正編著(2019 ミネルヴァ書房)『財政学』 2,640 円

大湾秀雄著(2017 日本経済新聞社)『日本の人事を科学するー因果推論に基づくデータ活用』 2,530 円

沖縄県子ども総合研究所編(2017 かもがわ出版)『沖縄子どもの貧困白書』 2,970 円

小長谷一之・前川知史編(2012 日本評論社)『経済効果入門ー地域活性化・企画立案・政策評価のツール』 3,080 円

小黒一正著(2020 日本経済出版社)『日本経済の再構築』 2,420 円

川口大司著(2017 有斐閣)『労働経済学ー理論と実証をつなぐ』 3,080 円

高山憲之編(2003 東洋経済新報社)『日本の経済制度・経済政策』 3,740 円

土居丈朗著(2002 日本評論社)『入門公共経済学』 3,080 円

鶴光太郎・前田佐江子・武田敬子(日本経済新聞出版社)『日本経済のマクロ分析ー低温経済のパズルを解く』 3,300 円

細野助博著(2005 中央大学出版会)『政策統計ー「公共政策」の分析ツール』 4,070 円

沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸著(2017 有斐閣)『地方財政を学ぶ』 2,640 円

福田伸一著(2013 有斐閣)『金融論ー市場と経済政策の有効性』 2,860 円

日本経済新聞社編(2020 日経 BP)『無駄らだけの社会保障』 990 円

棕野美智子・田中耕太郎著(2015 有斐閣)『はじめての社会保障ー第 15 版』 1,980 円

宮川努著(2018 筑摩書房)『生産性とは何かー日本経済の活力を問い直す』 880 円

森川正之著(2018 日本経済出版社)『生産性ー誤解と真実』 3,300 円

安井翔太著(2020 技術評論社)『効果検証入門ー正しい比較のための因果推論／計量経済学の基礎』

吉川洋著(2020 岩波書店)『マクロ経済学の再構築ーケインズとシュンペーター』 8,800 円

アニー・ローリー著 上野裕美子訳(2019 みすず書房)『みんなにお金を配ったらーベーシックインカムは世界でどう議論されているか』 3,300円

学生に対する評価

講義内容や最新の経済ニュースをまとめる5回のフィードバックペーパー(10点満点)の合計点で経済政策の成績を評価します。

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 観光学概論		教員の免許状取得のため の必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊良皆 啓
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 観光産業の基礎知識と全体像を理解し、観光学の基礎を養うことを目標とする。				
授業の概要 観光学を学ぶために必要となる基礎的な知識の理解と習得を目指す。観光は多様で複合的な人間行動であり、その産業は様々な業種から構成される裾野の広い複合産業である。世界各地においても多様な観光資源が、多種多様な旅行者を惹きつけてやまない。本講義では、(1)観光学基礎の理解、(2)観光旅行者の視点、(3)観光デスティネーションの視点、(4)その他観光を取り巻く環境について理解を深めることとする。とりわけ、沖縄においてはその立地条件や自然・人文資源により観光を学ぶ適地であるので、適宜、沖縄の事例を通して観光産業について修学する。本科目については、講義形式での提供となる。本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深めることを目指す。 コロナウィルス感染防止に関する大学の方針に応じて、本科目の講義形態（対面授業、対面授業と遠隔授業の混成型、遠隔授業型等）も変更されることもあり得ることを予めご了承下さい。				
授業計画 第1回：オリエンテーション：シラバス及び講義ルール等の説明、登録確認 第2回：観光の意義と特性Ⅰ：旅行と観光、観光行動、観光関連概念、定義 第3回：観光の意義と特性Ⅱ：機能と役割、観光者、観光商品・サービス、特性 第4回：旅行と観光の変遷Ⅰ：世界における旅行・観光史 第5回：旅行と観光の変遷Ⅱ：日本における旅行・観光史 第6回：国内観光旅行と外国観光旅行 第7回：旅行業Ⅰ：旅行社のビジネス 第8回：旅行業Ⅱ、中間考査 第9回：宿泊業Ⅰ：法律における分類、機能と役割 第10回：宿泊業Ⅱ：タイプ、特徴 第11回：交通業Ⅰ：分類、陸上・水上交通				

第12回：交通業Ⅱ：航空事業、変遷、観光との関わり

第13回：観光対象と観光資源：観光対象

第14回：観光開発と観光デスティネーションマネジメント：観光エリア経営

第15回：観光事業と多様化する観光形態

期末考査

テキスト

特になし（講義において、適宜紹介します）

参考書・参考資料等

- ・長谷政弘編著『観光学辞典』同文館、¥3,024（税込み）
- ・北川宗忠編著『観光・旅行用語辞典』ミネルバ書房、¥2,700（税込み）
- ・『観光学基礎』JTB総合研究所、¥2,260（税込み）
- ・前田勇編著『新現代観光総論』学文社、¥2,640（税込み）

講義において空欄埋めようのプリントを適宜、配布します。

学生に対する評価

小テスト・課題	15点
レポート	20点
中間・期末考査	60点
活動状況	5点
合 計	100点

※ 講義1/3以上の欠席で期末試験の受験資格を失いますので、ご注意ください。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 観光事業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大谷健太郎 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的な事項 ・ 商業関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
観光事業は、観光者の満足度(効用)を高めるとともに、観光による地域社会への経済的効果、社会的効果、文化的効果などの諸効果を合目的に促進することを目的として、行政と民間企業が組織的な活動を行うことを意味する。すなわち、観光者が旅行を通して満足感が得られるように、施設設備の整備はもちろん、ホスピタリティーの向上、自然環境や社会環境の整備などを行うことと、観光による地域社会への影響を事前に予測して、地域振興をはかる施策を展開することの二面性を持っている。その意味では、観光事業論は観光産業論とは性質を異にし、観光産業論が主に経営学やマーケティング論などを総括的に扱うのに対して、観光事業論では、主に政策科学、行動心理学、経済学などを扱うこととなる。 観光の基礎的な知識を習得した学生に対して、これからの専門的な各分野への橋渡しの講義として観光学を体系的に理解し、そのなかでの観光事業の仕組みと役割を理解することが本講義の目的である。			
授業の概要			
2年次生を対象として、観光事業の仕組みと役割を体系的に学ぶ。観光学概論によって、観光の基礎的な知識を習得した学生に対して、これからの専門的な各分野への橋渡しの講義として、観光学を体系的に整理し、それぞれの専門的分野の概観を詳述する。受講生が観光に関する専門的講義に慣れるとともに、これから学ぶ観光学の全体像を把握し、観光開発や観光政策の基礎を理解することなどが講義の目的となる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション ―観光事業論の講義概要説明と履修要件			
第2回：観光の概念、観光事業の概念			
第3回：余暇、レクリエーション、リゾートの概念			
第4回：観光学に関わる諸分野からのアプローチ			
第5回：観光事業の構造および特質、観光の効用① ―観光の基本構造と観光事業の構造			
第6回：観光事業の構造および特質、観光の効用② ―観光効用の社会的評価			
第7回：観光欲求と観光需要			

第8回：観光欲求と観光行動

第9回：観光資源の概念と観光資源の評価① ―観光資源とは（中間試験）

第10回：観光資源の概念と観光資源の評価② ―観光資源の分類

第11回：観光事業の地域経済効果、観光消費と観光の経済的側面

第12回：観光産業の概念と性質 ―運輸業、宿泊業、旅行業

第13回：観光と環境① ―観光と環境の考え方をもとに観光事業のあり方を考える

第14回：観光と環境② ―エコツーリズムを題材として観光事業のあり方を考える

第15回：地域振興と観光政策、観光地経営と観光地計画

期末テスト

テキスト：なし

資料などは講義中に配布する。

参考書・参考資料等

参考文献:下記の文献以外にも適宜講義で紹介する。

長谷政弘編(1999)『観光学辞典』同文館、2,940円。

小谷達男(1994)『観光事業論』学文社、1,890円。

青木義英・廣岡裕一・神田孝治編（2011）『観光入門―観光の仕事・学習・研究をつなぐ』新曜社、2,268円。

アエラムック『観光学がわかる。』朝日新聞社、1,260円。

岡本伸之編(2001)『観光学―ポスト・マスツーリズムの観光学―』有斐閣2415円。

学生に対する評価

講義終了時のミニ課題またはフィードバックペーパー（20％）、中間テスト（10％）、期末テスト（50％）、レポート（15％）、講義時の質問応答ボーナスなど（5％）合計100％

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 職業指導Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 優子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 職業指導		
授業のテーマ及び到達目標 ①個人及びグループワーク、発表を通して、職業指導・キャリア教育について理解を深めることができる。 ②〔自分で物事を考える〕姿勢を身につけることができる。				
授業の概要 本講義では、生徒への職業指導を行うにあたって役立つ知識と実践技術の取得を目的とする。生徒自身が「進路を創造する力」を発揮できるような教師の支援について学ぶとともに、キャリア教育についても考えていく。				
授業計画 第1回：オリエンテーション：職業指導Ⅰの進め方について確認 第2回：職業指導の理論と歴史 これまでの職業指導について、歴史を振り返り、理論的位置づけの整理を行う。 【事前学習：商業教育の中での職業指導の歴史について整理する】 第3回：現場①雇用形態、業界、業種 【事前学習：産業界における実態から学ぶ：産業構造の変化も踏まえて】 第4回：現場②雇用形態、業界、業種 【事前学習：産業界における実態から学ぶ：就業状況の変化も踏まえて】 第5回：現場③：雇用形態、業界、業種 【事前学習：産業界における実態から学ぶ：新産業の登場、新しい働き方】 第6回：自分自身を振り返る① 【事前学習：受講生自身の職業観・勤労観について考える】 第7回：自分自身を振り返る② 【事前学習：受講生自身の職業観・勤労観について考える】 第8回：進路指導の役割①				

【事前学習：学校現場における進路指導の実態について】 第9回：進路指導の役割② 【事前学習：学校現場における進路指導の意義について】 第10回：進路指導の役割③ 【事前学習：学校現場における進路指導について整理する】 第11回：授業・進路指導室見学① 第12回：授業・進路指導室見学② 第11回および第12回は、実際の学校現場での様子から学ぶことを大きなテーマとする。 第13回：課題レポート作成① 第14回：課題レポート作成② 第13回および第14回は、第11回・第12回で現場での様子を整理することを大きなテーマとして進め、レポート作成と発表を行うことで、より理解を深めていく。 第15回：課題発表 これまでの授業を振り返り、商業高校での職業指導の役割について各自まとめ・発表を行うことで理解を深めていく。 定期試験は行わない							
テキスト 文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm							
参考書・参考資料等 ①三村隆男『キャリア教育入門 - その理論と実践のために』（実業之日本社、2004）1,799円 ②吉田辰雄『進路指導・キャリア教育の理論と実践』（日本文化科学社、2007）2,520円 ③山崎保寿編著『キャリア教育が高校を変えるーその効果的な導入に向けて』（学事出版、2006）1,600円							
学生に対する評価 <table> <tr> <td>活動状況（課題研究に対する取り組み・発表含む）</td><td>50点</td></tr> <tr> <td>課題レポート</td><td>50点</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>100点</td></tr> </table>		活動状況（課題研究に対する取り組み・発表含む）	50点	課題レポート	50点	合計	100点
活動状況（課題研究に対する取り組み・発表含む）	50点						
課題レポート	50点						
合計	100点						

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 職業指導Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 優子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 職業指導		
授業のテーマ及び到達目標				
①個人及びグループワーク、発表を通して、職業指導・キャリア教育について理解を深めることができる。 ②「自分で物事を考える」姿勢を身につけることができる。				
授業の概要				
本講義では、生徒への職業指導を行うにあたって役立つ知識と実践技術の取得を目的とする、生徒自身が「進路を創造する力」を発揮できるような教師の支援について学ぶとともに、キャリア教育についても考えていく。なお、本科目は講義形式で進めていくが、自らで職業指導もしくはキャリア教育の企画立案という課題研究にも取り組んでもらう。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション：職業指導Ⅰの振り返りとⅡの進め方についての確認				
第2回：職業指導からキャリア教育へ①：社会経済の状況の変化に伴う商業高校のあり方 【準備学習：学習指導要領 職業・キャリアについての考え方の変遷について理解する】				
第3回：職業指導からキャリア教育へ②：最近の商業高校での具体的な取り組み事例 【準備学習：職業指導Ⅰにおいて得られた知見から、具体的な取り組み事例の情報収集と整理】				
第4回：キャリア教育の現状 海外での実践事例 【準備学習：海外での事例を取り上げ、その特徴と課題点を整理】				
第5回：キャリア教育の現状 国内での実践事例 【準備学習：国際での実践事例を取り上げ、その特徴と課題点を整理】				
第6回：課題研究① 実践事例研究 1年次対象のキャリア教育				
第7回：課題研究② 実践事例研究 2年次対象のキャリア教育				
第8回：課題研究③ 実践事例研究 3年次対象のキャリア教育				
第9回：就労観・勤労観① 就労観・勤労観の変遷とその要因（時代背景） 【準備学習：学習指導要領の改訂との関連で情報収集と整理】				
第10回：就労観・勤労観② 社会経済の動向と企業の動き				

【準備学習：高度経済成長期から低成長、バブル経済といった社会経済の変遷の中での企業における求人状況の変遷】

第11回：就労観・勤労観③ 雇用慣行の変遷と自己実現型社会の到来

【準備学習：第9、10回講義のまとめ】

第12回：研究課題① キャリア教育プレゼンテーション 1年次版の作成と発表

第13回：研究課題② キャリア教育プレゼンテーション 2年次版の作成と発表

第14回：研究課題③ キャリア教育プレゼンテーション 3年次版の作成と発表

第15回：総括（振り返り）と商業教育実践研究に向けて

定期試験なし（課題レポートの提出）

テキスト：

文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm

参考書・参考資料等

①三村隆男『キャリア教育入門 - その理論と実践のために』（実業之日本社、2004）1,799円

②吉田辰雄他『進路指導・キャリア教育の理論と実践』（日本文化科学社、2007）2,520円

③山崎保寿編著『キャリア教育が高校を変えるーその効果的な導入に向けて』

（学事出版、2006）1,600円

学生に対する評価

活動状況 80点（課題研究に対する取り組み・発表含む）

課題レポート 20点

合計 100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 商業科教育法Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲尾次(比嘉)洋子 担当形態：単独
科 目		教科及び教育の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
・「商業」の目標・内容を理解し、商業教育に必要な知識と教授法、商業科の特性に応じたICTの効果的な活用法を修得することができる。 ・学校における教育活動において望ましい態度・責任感・規範意識などを身に付けることができる。				
授業の概要				
商業教育の歴史を踏まえ、商業教育の意義・必要性・内容を理解するとともに商業科教員としての資質を高めるために指導法を実践的に学び、知識や技術の修得を目的とする。				
授業計画				
第1回：本講義の内容・評価方法の説明				
第2回：学習指導要領と学習評価				
第3回：商業教育の歴史				
第4回：ビジネス基礎①（学習指導要領の目標、指導内容の理解）				
第5回：ビジネス基礎②（学習指導案と板書計画の作成）				
第6回：ビジネス基礎③（模擬授業と振り返り）				
第7回：課題研究①（学習指導要領の目標、指導内容の理解）				
第8回：課題研究②（ICTを活用した学習指導案と板書計画の作成）				
第9回：課題研究③（ICTを活用した模擬授業と振り返り）				
第10回：マーケティング分野①（学習指導要領の目標、指導内容の理解）				
第11回：マーケティング分野②（学習指導案と板書計画の作成）				
第12回：マーケティング分野③（模擬授業と振り返り）				
第13回：マネジメント分野①（学習指導要領の目標、指導内容の理解）				
第14回：マネジメント分野②（学習指導案と板書計画の作成）				
第15回：マネジメント分野③（模擬授業と振り返り）				
第16回：総括（期末試験は実施しない）				
テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜配布する。				

参考書・参考資料等
文部科学省 『高等学校指導要領解説（平成30年度公示） 商業編』 実教出版
学生に対する評価
模擬授業 70点 課題・授業への積極的な取り組み度 30点 合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 商業科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲尾次(比嘉)洋子 担当形態：単独
科 目	教科及び教育の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・「商業」の目標・内容を理解し、商業教育に必要な知識と教授法、商業科の特性に応じたICTの効果的な活用法を修得することができる。 ・学校における教育活動において望ましい態度・責任感・規範意識などを身に付けることができる。 ・商業教育の現状と課題を認識することができる。			
授業の概要			
商業教育の歴史を踏まえ、商業教育の意義・必要性・内容を理解するとともに商業科教員としての資質を高めるために指導法を実践的に学び、知識や技術の修得を目的とする。また商業教育の現状と課題を認識し、これからの商業教育の在り方について考察する。			
授業計画			
第1回：商業科教育法Ⅰの振り返りと本講義の内容・評価方法の説明			
第2回：商業教育の現状と課題			
第3回：会計分野①簿記（学習指導要領の目標、指導内容の理解）			
第4回：会計分野②簿記（学習指導案と板書計画の作成）			
第5回：会計分野③簿記（模擬授業と振り返り）			
第6回：会計分野④簿記（学習指導案と板書計画の作成）			
第7回：会計分野⑤簿記（模擬授業と振り返り）			
第8回：会計分野⑥財務会計Ⅰ・Ⅱ（学習指導案と板書計画の作成）			
第9回：会計分野⑦財務会計Ⅰ・Ⅱ（模擬授業と振り返り）			
第10回：会計分野⑧原価計算（学習指導要領の目標、指導内容の理解）			
第11回：会計分野⑨原価計算（学習指導案と板書計画の作成）			
第12回：会計分野⑩原価計算（模擬授業と振り返り）			
第13回：ビジネス情報分野①（学習指導要領の目標、指導内容の理解）			
第14回：ビジネス情報分野②（ICTを活用した学習指導案と板書計画の作成）			
第15回：ビジネス情報分野③（ICTを活用した模擬授業と振り返り）			

第16回：総括（期末試験は実施しない）

テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省 『高等学校指導要領解説（平成30年公示） 商業編』 実教出版

学生に対する評価

模擬授業 70点 課題・授業への積極的な取り組み度 30点 合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 情報科学と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐久本 功達 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
① 情報科学に関する用語について理解し、適切に活用することができる。 ② 情報機器等のカタログを読んで理解し、必要な機種を自ら選定することができる。 ③ コンピュータ内部で行われている計算の仕組みが理解できる。 ④ 著作権・ネチケットについての基本的な知識を習得し、実践することができる。 ⑤サイバー犯罪についての基礎的な知識を習得し、自らを守ることができる。			
授業の概要			
現在、我々は日常生活の中でパーソナルコンピュータを利用して音楽や映画を楽しんだり、インターネットでショッピングを行ったりしている。しかし、コンピュータ誕生の歴史をひも解くと、それは数値計算を高速で行うために生まれてきたことがわかる。そのようなコンピュータがなぜ音楽や映画などの「情報」を処理でき、またショッピングにまで利用できるようになったのだろうか。本講義では「コンピュータの歴史」や「情報とは何か」，「コンピュータはどのように計算するのか」について学ぶ。 なお、本科目は、適宜、Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業として実施する。			
第1回： オリエンテーション（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） ①シラバスに基づいて授業内容の説明を行う。②履修登録。			
第2回 情報科学を学ぶ意義（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） ①コンピュータの動作原理について、直感的な理解が難しい理由を考える。また、情報科学を学ぶ意義を理解し、今後の学習に向けての取り組む姿勢を整える。②履修登録（回2回まで）			
第3回： 情報理論（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） シャノンの情報理論のうち、「効率的なコード化」と「情報の最小単位＝ビット」について解説する。これにより、コンピュータが汎用性を持つに至った理由を学ぶ。			
第4回： コンピュータの歴史(その1) （Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） 「コンピュータの歴史」のビデオ学習を通して、世界初の電子式コンピュータ「ENIAC」について学ぶ。			

AC（エニアック）」が誕生した背景を理解する。また、大型コンピュータがパーソナルコンピュータ（PC）に進化した過程を学ぶ。

第5回： コンピュータの歴史(その2)

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

電子式コンピュータが誕生する以前の機械式コンピュータの歴史について学ぶ。

第6回： ビット，バイト，記数法

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

情報の単位である「ビット」「バイト」について学ぶ。また、「記数法」について学び、2進数・10進数・16進数間の変換方法について学ぶ。

第7回： ブール代数

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

ブール代数の「AND」「OR」「NOT」演算について学び、コンピュータの論理回路（加算回路）をどのように設計するのかについて理解する。

第8回： プログラムの仕組み

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

プログラムの仕組みについて理解する。

キーワード：ハードウェア（コンピュータの5大装置：入力装置、演算装置、出力装置、制御装置、記憶装置）、ソフトウェア（応用ソフトウェア、ミドルウェア、基本ソフトウェア）、機械語、アセンブリ言語、高級言語、低級言語、コンパイラ型言語、インタープリタ型言語など。

第9回： アルゴリズム

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

アルゴリズムとは何かについて理解する。また、日常生活における簡単な作業についてのアルゴリズムをフローチャートで表現できるようにする。

キーワード：アルゴリズム、構造化定理（順次構造（逐次型）、選択構造（分岐型）、二分岐選択、多分岐選択、繰返し構造（反復型））、流れ図に用いる記号、最大値・最小値を求めるアルゴリズム、交換法（バブルソート(bubble sort)）など。

第10回： オペレーティング・システム

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

オペレーティング・システム（OS）の歴史と仕組みを理解する。

キーワード：大型コンピュータのOS、ワークステーションのOS、UNIXの系譜、パーソナルコンピュータのOS、iOS、Androidなど。

第11回： 著作権・ネチケット

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

著作権・ネチケットについて理解し実践できるようにする。

キーワード：著作物・著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、知的所有権（＝知的財産権）、著作物の使用、個人情報、チェーンメールなど。									
第12回：	インターネット								
	(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)								
	インターネットの歴史・仕組み・機能について学習する。								
第13回：	サイバー犯罪								
	(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)								
	サイバー犯罪の種類や近年の傾向についてビデオ学習し、ネット社会の有益なリソースを安全・安心に活用できるようにする。								
第14回：	セキュリティ								
	(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)								
	コンピューター・ユーザーの視点から、コンピューター・ウイルスについての定義・歴史・対策について学ぶ。								
第15回：	総括 (対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)								
	これまでの講義を振り返る。また、今後の情報科学の学習について考える。								
	期末試験：筆記試験（60分間）を実施する。								
テキスト 坂村 健『痛快！コンピュータ学』（集英社，2002） 価格 720円（税込）									
参考書・参考資料等 ウォルター・アイザックソン (Isaacson, Walter) 『スティーブ・ジョブズ I』 井口耕二訳，（講談社，2012） 1,080円（税込） ウォルター・アイザックソン (Isaacson, Walter) 『スティーブ・ジョブズ II』 井口耕二訳，（講談社，2012） 1,080円（税込）									
学生に対する評価 <table> <tr> <td>活動状況（授業でのミニテスト、MSLC連携課題への取り組み等）：</td><td>20点</td></tr> <tr> <td>中間課題の点数</td><td>： 30点</td></tr> <tr> <td>期末試験の点数</td><td>： 50点</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>： 100点</td></tr> </table>		活動状況（授業でのミニテスト、MSLC連携課題への取り組み等）：	20点	中間課題の点数	： 30点	期末試験の点数	： 50点	合計	： 100点
活動状況（授業でのミニテスト、MSLC連携課題への取り組み等）：	20点								
中間課題の点数	： 30点								
期末試験の点数	： 50点								
合計	： 100点								

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 情報科学と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：仲程 基経 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
① 情報科学に関する用語について理解し、適切に活用することができる。 ② 情報機器等のカタログを読んで理解し、必要な機種を自ら選定することができる。 ③ コンピュータ内部で行われている計算の仕組みが理解できる。 ④ 著作権・ネチケットについての基本的な知識を習得し、実践することができる。 ⑤サイバー犯罪についての基礎的な知識を習得し、自らを守ることができる。			
授業の概要			
現在、我々は日常生活の中でパーソナルコンピュータを利用して音楽や映画を楽しんだり、インターネットでショッピングを行ったりしている。しかし、コンピュータ誕生の歴史をひも解くと、それは数値計算を高速で行うために生まれてきたことがわかる。そのようなコンピュータがなぜ音楽や映画などの「情報」を処理でき、またショッピングにまで利用できるようになったのだろうか。本講義では「コンピュータの歴史」や「情報とは何か」，「コンピュータはどのように計算するのか」について学ぶ。 なお、本科目は、適宜、Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業として実施する。			
第1回： オリエンテーション（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） ①シラバスに基づいて授業内容の説明を行う。②履修登録。			
第2回 情報科学を学ぶ意義（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） ①コンピュータの動作原理について、直感的な理解が難しい理由を考える。また、情報科学を学ぶ意義を理解し、今後の学習に向けての取り組む姿勢を整える。②履修登録（回2回まで）			
第3回： 情報理論（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業） シャノンの情報理論のうち、「効率的なコード化」と「情報の最小単位＝ビット」について解説する。これにより、コンピュータが汎用性を持つに至った理由を学ぶ。			
第4回： コンピュータの歴史(その1) (Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)			

「コンピュータの歴史」のビデオ学習を通して、世界初の電子式コンピュータ「ENIAC（エニアク）」が誕生した背景を理解する。また、大型コンピュータがパーソナルコンピュータ（PC）に進化した過程を学ぶ。

第5回： コンピュータの歴史(その2)

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

電子式コンピュータが誕生する以前の機械式コンピュータの歴史について学ぶ。

第6回： ビット，バイト，記数法

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

情報の単位である「ビット」「バイト」について学ぶ。また、「記数法」について学び、2進数・10進数・16進数間の変換方法について学ぶ。

第7回： ブール代数

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

ブール代数の「AND」「OR」「NOT」演算について学び、コンピュータの論理回路（加算回路）をどのように設計するのかについて理解する。

第8回： プログラムの仕組み

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

プログラムの仕組みについて理解する。

キーワード：ハードウェア（コンピュータの5大装置：入力装置、演算装置、出力装置、制御装置、記憶装置）、ソフトウェア（応用ソフトウェア、ミドルウェア、基本ソフトウェア）、機械語、アセンブリ言語、高級言語、低級言語、コンパイラ型言語、インタープリタ型言語など。

第9回： アルゴリズム

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

アルゴリズムとは何かについて理解する。また、日常生活における簡単な作業についてのアルゴリズムをフローチャートで表現できるようにする。

キーワード：アルゴリズム、構造化定理（順次構造（逐次型）、選択構造（分岐型）、二分岐選択、多分岐選択、繰返し構造（反復型））、流れ図に用いる記号、最大値・最小値を求めるアルゴリズム、交換法（バブルソート（bubble sort））など。

第10回： オペレーティング・システム

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

オペレーティング・システム（OS）の歴史と仕組みを理解する。

キーワード：大型コンピュータのOS、ワークステーションのOS、UNIXの系譜、パーソナルコンピュータのOS、iOS、Androidなど。

第11回： 著作権・ネチケット

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

著作権・ネチケットについて理解し実践できるようにする。

キーワード：著作物・著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、知的所有権（＝知的財産権）、著作物の使用、個人情報、チェーンメールなど。

第12回： インターネット

（対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）

インターネットの歴史・仕組み・機能について学習する。

第13回： サイバー犯罪

（対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）

サイバー犯罪の種類や近年の傾向についてビデオ学習し、ネット社会の有益なリソースを安全・安心に利活用できるようにする。

第14回： セキュリティ

（対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）

コンピューター・ユーザーの視点から、コンピュータ・ウイルスについての定義・歴史・対策について学ぶ。

第15回： 総括

（対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）

これまでの講義を振り返る。また、今後の情報科学の学習について考える。

期末試験：筆記試験（60分間）を実施する。

テキスト

坂村 健『痛快！コンピュータ学』（集英社，2002） 価格 720円（税込）

参考書・参考資料等

ウォルター・アイザックソン (Isaacson, Walter) 『スティーブ・ジョブズ I』

井口耕二訳，（講談社，2012） 1,080円（税込）

ウォルター・アイザックソン (Isaacson, Walter) 『スティーブ・ジョブズ II』

井口耕二訳，（講談社，2012） 1,080円（税込）

学生に対する評価

活動状況（授業でのミニテスト、MSLC連携課題への取り組み等）： 20点

中間課題の点数： 30点

期末試験の点数： 50点

合計： 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 情報化社会論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中里 収 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 新聞やニュース報道などから、情報に関する世の中の変化を認識できるようにする。			
授業の概要 情報と社会とのつながりに関する基本的で重要な概念を学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・情報が変えていく社会 第2回：情報とコミュニケーション 第3回：情報倫理 第4回：社会と情報システム 第5回：情報ネットワーク① 第6回： 情報ネットワーク② 第7回：情報セキュリティ 第8回：情報のデジタル化 第9回：コンピューティングの要素と構成 第10回：アルゴリズムとプログラミング① 第11回：アルゴリズムとプログラミング② 第12回：データベースとデータモデリング 第13回：モデル化とシミュレーション 第14回：データ科学と人工知能 第15回：まとめ・練習問題 期末試験			
テキスト 稲垣知宏 他著 「一般教育シリーズ 一般情報教育」 オーム社 （2200円）			

参考書・参考資料等

特になし。授業内容に応じて適宜印刷配布する。

学生に対する評価

小テスト・レポート課題 60点

期末試験 40点

合計100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： プログラミング基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中里 収
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・ ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングの基礎知識を身に付け、簡単なコンピュータプログラムが組めるようになる。			
授業の概要 演習を通じてプログラム開発ソフトの使い方を習得し、プログラム開発方法を経験する。			
授業計画 第1回： 授業の概要・ビジュアルプログラミング体験 第2回： 統合開発環境の操作・簡単なプログラム作成 第3回： 逐次処理①・変数・データ型・数値計算プログラム 第4回： 逐次処理②・関数とプロシージャ 第5回： 条件分岐①・（If～Then） 第6回： 条件分岐②・（Select Case） 第7回： 条件分岐③・論理演算（AND・OR） 第8回： 中間テスト・グラフィックス 第9回： 繰返し処理①・（For ～ Next） 第10回： 繰返し処理②・（Do ～ Loop） 第11回： 繰返し処理③・多重ループ 第12回： 繰返し処理④・配列変数 第13回： アルゴリズム・並び替え 第14回： シミュレーション 第15回： まとめ・練習問題 期末試験			
テキスト 「3ステップでしっかり学ぶ Visual Basic 入門」 桜井淳，技術評論社 （2500円）			

参考書・参考資料等

特になし。授業内容に応じて適宜印刷配布する。

学生に対する評価

提出課題 30点

中間試験 30点

期末試験 40点

合計100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： コンピュータ概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：天願 健
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 情報系科目を受講するための基礎知識を身につける。 (2) ハードウェアの基礎知識を身につける。				
授業の概要				
情報システムにおける、コンピュータのハードウェアや周辺機器、OS、ソフトウェア等の仕組みや概念を理解する。 本科目は、講義（実習含む）形式で行い、講義は、実務経験（IT企業のSE）のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。				
授業計画				
本講義は、ハイブリット型授業（面接授業及び遠隔授業の混成型）を予定しています。				
第 1 回：オリエンテーション・コンピュータの基礎知識				
講義内容説明・登録を実施する。コンピュータの基礎知識について、説明する。				
第 2 回：プロセッサ（8-1-1 プロセッサ）				
コンピュータの構成要素で、最も重要な「プロセッサ」について、説明する。				
第 3 回：記憶装置1（8-1-2 記憶装置：メモリ）				
コンピュータの構成要素「主記憶装置（メインメモリ）」について、説明する。				
第 4 回：記憶装置2（8-1-2 記憶装置：記憶媒体、記憶階層）				
コンピュータの構成要素「補助記憶装置」について、説明する。				
第 5 回：入出力デバイス（8-1-3 入出力デバイス）				
コンピュータの構成要素、「入出力デバイス」について、説明する。				
第 6 回：システム構成要素（8-2-1 システムの構成）				
システム構成要素「システムの構成」について、説明する。				
第 7 回：システム構成要素（8-2-2 システムの評価指標）				
システム構成要素「システムの評価指数」について、説明する。				
第 8 回：ハードウェア（8-4-1 ハードウェア、入力装置）				
ハードウェア「入力装置」について、説明する。				
第 9 回：ハードウェア（8-4-1 出力装置、8-5 章末問題）				

ハードウェア「出力装置」について、説明する。

第10回：中間まとめ及び中間試験

第10回までのまとめ及び、中間試験（筆記）を実施する。

第11回：ハードウェアまとめ

ハードウェアのまとめを実施する。

第12回：ソフトウェア1（8-3-1 OS：オペレーティングシステム）

基本ソフトウェア「オペレーティングシステム」について、説明する。

第13回：ソフトウェア2（8-3-2 ファイルの管理、8-3-3 開発ツール）

「ファイル管理」、「開発ツール（応用ソフトウェア）」について、説明する。

第14回：技術要素（9-2 マルチメディア）

技術要素「マルチメディア」について、説明する。

第15回：ソフトウェアまとめ

ソフトウェアのまとめを実施する。

期末試験：（筆記）を実施する。

「シラバスはクラスの状況、講義進行によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。」

テキスト

令和2-3年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（よくわかるマスター）、
FOM出版、価格：2,420円（税込）

参考書・参考資料等

きたみ りゅうじ、キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 令和02年（情報処理技術者試験）、
技術評論社、価格：2,068円（税込）

学生に対する評価

活動状況 40 点

中間試験 30 点

期末試験 30 点 欠席6回以上で、受験資格を失う。

合計 100 点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： アルゴリズム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐久本 功達 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①講義とトレース演習により，基本的なアルゴリズムから高度なアルゴリズムまでを習得する。 ②プログラム言語の学習において，どのような言語にも対応できるように，論理的思考能力を養う。			
授業の概要			
コンピュータの情報処理は，その手順をプログラムとして明確に記述することにより初めて動作する。また，同じ結果を得るにも使用するアルゴリズムによっては，必要な計算時間や記憶領域が大幅に異なる。ある処理を行うのに何種類かのアルゴリズムが存在する場合があるが，それぞれのアルゴリズムには個性があり，得意不得意がある。効率的に問題解決できるようアルゴリズムを選択する必要がある。 本講義では，基本的なアルゴリズムとデータ構造，やや高度なアルゴリズムとデータ構造，高度なアルゴリズムと特殊なアルゴリズムをトレースにより学習し，理解を深める。 なお、本科目は、適宜、Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業として実施する。			
第1回 オリエンテーション（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）			
①シラバスに基づいて授業内容の説明を行う。②履修登録。			
第2回 アルゴリズムとは（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）			
①アルゴリズムと何か			
②フローチャート、疑似言語、Java、C言語の対応			
③ユークリッドの互除法			
第3回 ループの基本と線形探索（Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）			
①ループと配列の基本			
②線形探索			
第4回 二分探索と計算量			
（対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業）			
①二分探索			
②アルゴリズムの計算量			

第5回 多重ループと挿入法

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①多重ループの基礎
- ②挿入法

第6回 連結リストの仕組みと操作

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①連結リストの仕組みとトレース
- ②連結リストを操作するプログラム

第7回 二分探索木への追加と探索

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①二分探索木のデータ構造と要素の追加
- ②二分探索木の探索

第8回 ハッシュ表探索法

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①ハッシュ表探索法の仕組み
- ②シノニムに対処する方法

第9回 再帰呼び出しとクイックソート

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①再帰呼び出し
- ②クイックソート

第10回 動的計画法とナップサック問題

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①動的計画法
- ②ナップサック問題

第11回 遺伝的アルゴリズムとナップサック問題

(対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

- ①遺伝的アルゴリズムでナップサック問題を解く仕組み
- ②遺伝的アルゴリズムでナップサック問題を解くプログラムの作成

第12回 問題演習 1 (対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

基本的なアルゴリズムとデータ構造について問題演習を行う。

第13回 問題演習 2 (対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

やや高度なアルゴリズムとデータ構造について問題演習を行う。

第14回 問題演習 3 (対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

高度なアルゴリズムと特殊なアルゴリズムについて問題演習を行う。

第15回 総括 (対面授業およびWeb会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業)

これまでの講義内容について総括を行う。

期末試験：筆記試験（60分間）を実施する。

テキスト

矢沢久雄『新・標準プログラマーズライブラリ アルゴリズム はじめの一步 完全攻略』
（技術評論社，2019）価格2,786円（税込）

参考書・参考資料等

石田保輝，宮崎修一『アルゴリズム図鑑 絵で見てわかる26のアルゴリズム』
（翔泳社，2017）価格2,570円（税込）

島内 剛一 他 編『アルゴリズム辞典』（共立出版，1994）価格25,750円【図書館蔵書】

学生に対する評価

活動状況（演習への取り組みと参加状況）	：	20点
中間課題の点数	：	30点
期末試験の点数	：	50点
合計	：	100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 情報処理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：天願 健 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 情報系科目を受講するための基礎知識を身につける。 (2) ソフトウェアの基礎知識を身につける。 (3) [情報処理技術者標準 IT共通知識体系]及び[実務知識体系]について学習する。			
授業の概要 コンピュータ概論にて学んだコンピュータの基礎知識を基に、情報処理技術者としての知識を得るべく、情報処理全般の社会との関わりについて学習する。具体的には、情報システムの評価・運用と管理、社会における情報システムの考察、企業の業務知識とシステム化の啓蒙、情報ネットワークの種々の視点からの活用法などを学ぶ。 本科目は、講義（実習含む）形式で行い、講義は、実務経験（IT企業のSE）のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。			
授業計画 本講義は、ハイブリット型授業（面接授業及び遠隔授業の混成型）を予定しています。 第 1 回：オリエンテーション（登録、講義内容説明、ITパスポート試験概要・出題範囲説明） 第 2 回：基礎理論(予習：第7章 7-1 基礎理論、7-2 アルゴリズムとプログラミング、7-3 章末問題) 基数、集合、確率、統計の基本的な考え方や、情報のデジタル化、アルゴリズムなどについて解説する。 第 3 回：技術要素1(予習：第9章 9-1 ヒューマンインタフェース、9-4 ネットワーク) ヒューマンインタフェースの特徴、ネットワークの基礎知識について解説する。 第 4 回：技術要素2(予習：第9章 9-4 ネットワーク) ネットワークの基礎知識について解説する。 第 5 回：技術要素3(予習：第9章 9-4 ネットワーク、9-5 セキュリティ、9-6 章末問題) ネットワークの基礎知識やセキュリティ技術について解説する。 第 6 回：企業と法務(予習：第1章 1-1 企業活動、1-2 法務、1-3 章末問題) 企業活動や経営管理に関する基本的な知識、企業の法遵守や規範に関する考え方などについて解説する。			

第 7 回：経営戦略(予習：第2章 2-1 経営戦略、2-2 技術戦略、3-3 ビジネスインダストリ、3-4 章末問題)

情報分析手法やマーケティング手法、経営管理システム、技術戦略をはじめ、各分野での代表的なシステムについて解説する。

第 8 回：システム戦略(予習：第3章 3-1 システム戦略、3-2 システム企画、3-3 章末問題)

情報システム戦略をもとに、業務プロセスの把握、業務改善の方法、情報システム構築の流れシステム化に向けた要件定義の作成などについて解説する。

第 9 回：中間まとめ及び中間試験(第1章～第3章、第7章、第9章)

企業と法務、経営戦略、システム戦略、基礎理論、技術要素についてのまとめ及び中間試験を実施する。

第10回：中間まとめ(第1章～第3章、第7章、第9章)

企業と法務、経営戦略、システム戦略、基礎理論、技術要素についてのまとめ及び中間試験の解説を実施する。

第11回：開発技術(予習：第4章 4-1 システム開発技術、4-2 ソフトウェア開発管理)

システム開発のプロセスやテスト手法、ソフトウェア開発のプロセスや開発手法などについて解説する。

第12回：プロジェクトマネジメント・サービスマネジメント(予習：第5章、第6章)

プロジェクトマネジメントのプロセスや手法及び、情報システムの運用を管理するITサービスマネジメントやサービスサポートの基本的な役割や構成、システム環境整備の考え方、システム監査の基本的な知識などについて解説する。

第13回：模擬試験問題1(ITパスポート過去問題)

ITパスポート試験過去問題（公開問題）を活用し、情報処理技術者に必要な知識を解説する。

第14回：模擬試験問題2(ITパスポート過去問題)

ITパスポート試験過去問題（公開問題）を活用し、情報処理技術者に必要な知識を解説する。

第15回：期末まとめ(第1章～第7章、第9章)

これまでの講義内容全般についてまとめる。

期末試験：（筆記）を実施する。

「シラバスはクラスの状態、講義進行によって変更することがありますので、あらかじめご理解 下さい。」

テキスト

令和2-3年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（よくわかるマスター）、
FOM出版、価格:2,420円（税込）

参考書・参考資料等

きたみ りゅうじ、キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 令和02年（情報処理技術者試験）、
技術評論社、価格：2,068円（税込）

学生に対する評価		
活動状況	40 点	
中間試験	30 点	
期末試験	30 点	欠席6回以上で、受験資格を失う。
合 計	100 点	

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： プログラミング応用		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木直人
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 Java言語を用いて、プログラミング言語系の基礎を学び、プログラム作成過程に適用する知見を獲得すること。				
授業の概要 本講義では、Java言語を用いて、コンピュータでの実習を行いながらプログラミングの方法やプログラミング言語を学んでいく。なお,本科目は,適宜,Web会議システム：Microsoft Teamsを使用した遠隔授業を併用して対面及び遠隔で実施する. また、本講義は、ハイブリッド型授業（面接授業及び遠隔授業の混声型）でも対応できるように準備する。				
授業計画				
第1週	オリエンテーション、プログラムの書き方（第1章）			
第2週	式と演算子（第2章）			
第3週	条件分岐と繰り返し（第3章）			
第4週	配列（第4章）			
第5週	メソッド（第5章）			
第6週	複数クラスを用いた開発（第6章）			
第7週	振り返り（プログラムの流れ、データ宣言、演算子と分岐、ループ）			
第8週	中間課題の連絡及びオブジェクト指向（7章）からクラス機構（9章）までの概要説明			
第9週	オブジェクト指向（第7章）			
第10週	インスタンスとクラス（第8章）			
第11週	さまざまなクラス機構（第9章）			
第12週	継承（第10章）			
第13週	高度な継承（第11章）			
第14週	多能性とカプセル化（第12, 13章）			
第15週	総合まとめ（オブジェクト指向、クラス定義、継承とポリモーフィズム）			
期末テスト				

テキスト

適宜、プリントを配布し、必要に応じてインターネットの事例を講義で紹介する。

参考書・参考資料等

- ・インプレス社 「スッキリわかるJava入門 第3版」 定価2,860円（税込）
- ・オラクル社 「Java SE Bronze 問題集」 定価2,750円（税込）

学生に対する評価

課題・宿題等50点

中間課題20点

期末テスト30点

合計100点

※出席数が3分の2に満たないものは不可となる。

その他

将来プログラミングに携わりたい者、あるいは Java 言語に興味のある学生が望ましい。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： データベース基礎		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：天願 健 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) データベースの概念や仕組みを理解する。 (2) データベースを設計する。 (3) データベースを構築し、理解を深める。				
授業の概要 データベースとは、管理された情報の有機的集合をいう。但し、ただ単に情報の収集、蓄積をしただけではデータベースを構築した事にはならない。多次元での結合、意味付けされた組み合わせを行う工程が必要となる。この講義では、データベースの概念や仕組みを学習し、データベースを設計する事によって理解を深める。 本科目は、講義・演習（実習含む）（ICTを活用する）形式で行い、講義は、実務経験（IT企業のSE）のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。				
授業計画 本講義は、ハイブリット型授業（面接授業及び遠隔授業の混成型）を予定している。 第 1 回：オリエンテーション（登録、講義内容説明） 第 2 回：データベースの概要（第1章 Accessを初めよう） データベースの概念や仕組み、Accessの基礎知識について解説する。 第 3 回：リレーショナル・データベース1（第6章 リレーショナル・データベースを作ろう） リレーショナル・データベースの仕組みについて解説する。 第 4 回：リレーショナル・データベース2（第6章 リレーショナル・データベースを作ろう） リレーショナル・データベースの仕組みについて解説する。 第 5 回：データベース設計1（正規化） データベースの正規化（第一正規形、第二正規形、第三正規形）について解説する。 第 6 回：データベース設計2（リレーションシップ） データベースのリレーションシップについて解説する。 第 7 回：データベース設計3（正規化事例） 正規化事例を元に、データベースの設計について解説する。				

第 8 回：演習1（第6章 Section05・Section06・Section07）

リレーショナル・データベースを作成する
（テーブル作成、リレーションシップ設定）。

第 9 回：演習2（第7章 複数テーブルからデータを抽出するクエリを作成しよう）

リレーショナル・データベースを作成する（クエリ作成）。

第10回：演習3（第8章 関連データを参照できるフォームを作成しよう）

リレーショナル・データベースを作成する（フォーム作成）。

第11回：個人課題演習1（実習形式）

具体的にデータベースを設計する（項目洗い出し）。

第12回：個人課題演習2（実習形式）

具体的にデータベースを設計する（正規化、リレーションシップ）。

第13回：個人課題演習3（実習形式）

設計に基き、データベースを構築する。

第14回：個人課題演習（発表）

個人課題の設計書、データベースを発表する。

第15回：個人課題演習（発表）及び課題まとめ

個人課題の設計書、データベースを発表し、総評を行う。

期末試験：（筆記）を実施する。

「シラバスはクラスの状況、講義進行によって変更することがありますので、
あらかじめご理解下さい。」

テキスト

井上香緒里、[今すぐ使えるかんたん Access 2019 [Office 365/Office 2019対応版]（今すぐ使えるかんたんシリーズ）]、技術評論社、2,178円（税込）

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

活動状況 40 点

課題演習 30 点

期末試験 30 点 欠席6回以上で、受験資格を失う。

合 計 100 点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： データベース演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：天願 健 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) データベースの概念や仕組みを理解し、設計する。 (2) データベース操作言語（SQL）を理解する。 (3) データベースを構築し、SQL言語を用いて操作する。				
授業の概要 データベースとは、データを蓄積し、それを検索・抽出・更新等、効率的に管理するしくみのことである。本講義では、[データベース概論]で学習したデータベースの概念や仕組みの理解を深める。 本科目は、講義・演習（実習含む）（ICTを活用する）形式で行い、講義は、実務経験（IT企業のSE）のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。				
授業計画 本講義は、ハイブリッド型授業（面接授業及び遠隔授業の混成型）を予定している。 第 1 回：オリエンテーション・データベース概要（Chap01-03） 講義内容説明・登録を実施する。MySQLの概要説明、環境設定、基礎知識を説明する。 第 2 回：SQLの基礎知識1（Chap04 データベースの作成，Chap05 データ型とデータの入力） データベース、テーブル作成、データ入力（Create、Insert）、データ型について説明する。 第 3 回：SQLの基礎知識2（Chap06 テーブルを改造する） テーブルの改造方法（Alter）、主キー（Primary Key）の目的や設定方法について説明する。 第 4 回：SQLの基礎知識3（Chap07 テーブルやレコードをコピー・削除する） テーブルのカラム構造やデータのコピー（Select）、テーブルやレコード削除（DeleteDrop）について説明する。 第 5 回：関係データベース1（Chap08 色々な条件で抽出する） 色々な条件条件で、レコードを抽出し（Where）、表示する方法（Order by、Group by）について説明する。 第 6 回：関係データベース2（Chap09 データを編集する）				

カラムやレコードの編集方法（Update）について説明する。

第 7 回：関係データベース3（Chap10 複数のテーブルを利用する）

複数のテーブルを結合し、組み合わせる方法（Union、Join on）について説明する。

第 8 回：関係データベース4（Chap11 ビューを使いこなす）

ビューの目的、定義方法（Create View）について説明する。

第 9 回：SQLの応用1（Chap12 ストアドプロシージャを使いこなす）

一連の手順の記録し、まとめて実行するストアドプロシージャ（Proceduer）について説明する。

第10回：SQLの応用2（Chap13 トランザクションを使いこなす、Chap14 ファイルを使ったやり取り）

複数の処理をまとめて扱う機能、トランザクション（Transaction、Commit、Rollback）について、説明する。

第11回：個人課題演習①（実習形式）（設計：エンティティ、E-R図、テーブル項目）

データベース設計事例をもとに、データベースの基本検討を行う。

第12回：個人課題演習②（実習形式）（設計：テーブル定義、コード定義）

エンティティ、テーブル項目を整理、正規化し、テーブル定義書、コード定義書を作成する。

第13回：個人課題演習③（実習形式）（データベース構築）

データベース設計書をもとに、データベースを構築する。

第14回：個人課題演習④（実習形式）（データベース構築、発表）

データベース設計書及び、データベースの発表を行う。

第15回：個人課題演習⑤（発表）・課題まとめ

個人課題演習の評価・まとめを行う。

期末試験：（筆記）を実施する。

「シラバスはクラスの状況、講義進行によって変更することがありますので、あらかじめご理解 下さい。」

テキスト

西沢夢路、[基礎からのMySQL]、ソフトバンククリエイティブ、3,278円（税込）

参考書・参考資料等

金宏和實、[データベースの知識と実務]、翔泳社、2,420円（税込）

学生に対する評価

活動状況	40 点	
課題演習	30 点	
期末試験	30 点	欠席6回以上で、受験資格を失う。
合 計	100 点	

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 経営情報論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田邊 勝義 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 経営情報論の基礎理論から入り、経営情報システムについて学習し、さらに情報技術の応用や経営戦略への情報の活用例についても学習する。 (1)企業における組織とその役割を理解する。 (2)企業におけるビジネス・プロセスを理解する。 (3)意思決定の仕組みを理解する。 (4)企業経営における情報システムの役割とその意義を理解する。 (5)企業経営に活用される新しい情報通信技術(ICT)を理解する。			
授業の概要 現代の企業は厳しい競争環境の中で生き残りをかけた戦略を展開しており、経営情報システムはますます重要になっている。 コンビニのPOSシステム、インターネットを利用したeコマースなど、情報システムが生活に身近になるにつれて、顧客の購買データを利用したマーケティングにも活用され、情報を制することが商売の成功につながるようになって来ている。 企業や組織においては急速に進歩している情報通信技術を活用し競争優位を達成することが重要な課題になっている。以上から経営情報の基礎から情報システムや経営戦略についての主な内容について学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・経営情報論とは 講義の目的、シラバス、評価方法を確認し、講義の全体像を理解し、登録を行う。 第2回：経営情報論の基礎 経営管理、ビジネスプロセス、経営資源について解説し、それらの基礎を学ぶ。 第3回：データ処理 企業データは、日々蓄積されていく。多岐にわたるデータ項目を管理する多次元データベースについて解説し、蓄積されたデータベースから項目間の関係を、データマイニングを用いて探し出す手法について解説する。、			

第4回：経営情報システム

経営情報システムに入力するデータ形式やバーコード読み取りに用いられるJANコード、PLU、POSシステム、EOSなどについて解説する

第5回：経営戦略と経営組織(1)

経営戦略を立てるために、経営環境を分析し、リエンジニアリングを行うことを計画する。その企業のコアコンピタンスを押さえ、その他の業務で外部へアウトソーシングできる項目を選択する必要がある。これらについて解説する。

第6回：経営戦略と経営組織(2)

経営戦略の実施形態の1つに、企業間連携がある。戦略的連携、コラボレーション、アライアンス、企業間連携について解説する。

第7回：予習課題と演習課題及びミニレポート課題出題意図解説

予習課題解説と演習課題を解き、解説を行う。ミニレポートの出題意図について解説する。

第8回：前半のまとめと中間試験

前半内容についてのまとめを行い、前半の達成確認として中間試験を実施する。

第9回：試験解説・ビジネスゲームの準備

中間テストを返却し、解説を行う。また、第13回に実施予定のビジネスゲームの準備内容について解説する。

第10回：Webサイト

企業サイトを紹介し、アクセシビリティ、Webコンテンツ・アクセシビリティ・ガイドラインについて解説する。

第11回：電子商取引

ネット社会や政府のICT政策について解説し、企業で実施されている電子認証、B to C、B to B、B to Gのしくみについて解説する。

第12回：情報セキュリティ

企業にとって、情報漏えいは避けなければならない。インターネットを介して行われる盗聴・改ざん・詐称、PKI、WPAなどについて解説する。今回は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。

第13回：ビジネスゲーム(演習)

コンビニ経営のビジネスゲームについて演習を行う。コンビニ経営における商品仕入れ・販売のシミュレーションを行い、経営の難しさを体験する。

第14回：情報環境の変化

高度情報ネットワーク社会、顧客満足、サービス産業について解説する。また、実習報告書の提出を行う。

第15回：戦略的経営情報システム

企業の基本コンセプト、多角化経営、経営戦略、競争優位戦略について解説する。

第16回：まとめと期末試験

後半のまとめと、達成度を評価するため期末試験を実施する。

テキスト

テキストはトピックスごとに資料を配布する。

参考書・参考資料等

参考書：遠山 暁・他 『経営情報論』 有斐閣アルマ社 2,000円＋税

学生に対する評価

授業への積極的参加（予習＆ミニテスト等課題）	10点
実習・レポート	30点
中間テスト・期末テスト	60点
合 計	100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： システム設計論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田邊 勝義 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 情報システムの開発の設計手法、手順、方法とその内容を理解する。 (1) 情報システムの開発手順と内容(システム設計からプログラム開発まで)を理解し、開発技法を活用できるようになる。 (2) グループのプロジェクトで協力して1つのシステムを設計することで、協同作業を通してシステム設計を行う上での各自の役割を意識できるようになる。			
授業の概要 本講義では、情報システムの開発のシステム設計方法、手順、開発方法とその内容を理解する。当講義では、適用業務システムの開発工程とは何かを学習し、開発工程(外部設計、内部設計、プログラム開発、テスト)に沿ってシステム開発の方法を学習する。同時にシステム開発で使われている各種の開発技法(データフロー・ダイアグラム、正規化、エンティティ・リレーションシップ・ダイアグラム、モジュール分析、オブジェクト指向アプローチ)などについて学ぶ。システム設計はプロジェクトで行われるため、本講義でもグループ学習を取り入れ、グループで協議し、役割分担をして1つのシステムを設計する演習をアクティブラーニングの手法をもちいて行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション,システム設計とは？ 講義の目的、シラバス、評価方法を確認し、講義の全体像を理解し、登録を行う。 第2回：情報システムの起源 情報システムの種類、情報システムがある場合と無かった場合の違いと、情報システムの産まれた時期、および理由について学ぶ。情報システムを導入することにより、人間が便利に使える、省力化できる、時間短縮できるなどのメリットを学習する。 第3回： システム開発の方法 システム開発手法を複数列举し、それらの概要、メリット、デメリット、どの規模のシステム開発に向いているのかなど、開発手法と特徴と共に学ぶ。 第4回： オープンなシステム設計 無料で使用できる共有ライブラリであるオープン設計の考え方とその責任範囲について理解する。			

第5回～第7回： システム設計の実際①：グループ学習によるシステム設計演習。

グループを作り、システム設計を行うシステムを決めて、その基本設計をグループで協力しながら行っていく。

第8回： まとめと中間試験

中間試験実施

第9回： 試験解説

中間試験を返却し、解答解説を行う。

第10回～第14回： システム設計の実際②：グループ学習によるシステム設計演習。

分析技法、設計技法、実装技法、テスト/デバック、運用技法・保守作業などを学ぶと共に、グループで設計を行う。グループで役割分担を行い、各自、担当機能のシステム設計を行う。

第15回： システム設計内容発表会

グループ毎にシステム設計した内容を発表する。

期末試験：これまでの集大成としてシステム設計についての期末試験を実施する。

テキスト

トピックスごとに資料を配布する。

参考書・参考資料等

参考書：「はじめてのシステム設計」 永嶋浩著 技術評論社 価格 2,280円+税
「システム設計論」 布広永示他著 コロナ社 価格 2,600円+税

学生に対する評価

授業活動状況, 予習&ミニテスト	10点
システム設計レポート	30点
中間テスト・期末テスト	60点
合 計	100点満点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 国際ネットワーク論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 大作
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 通信ネットワークやインターネットの基礎を学びながら、インターネットで提供されるサービスの実態を理解することを本講義の教育目標とする。				
授業の概要 本講義では、通信ネットワークやインターネット・コミュニケーションの基礎を学び、それらが実社会でどのように利用されているかについて理解を深める。また、インターネットのセキュリティとコミュニケーション・システムの問題点について学習する。なお、本科目は、適宜、Web会議システム：MicroSoft Teamsを使用した遠隔授業を併用して対面及び遠隔で実施する。				
授業計画				
第1週	オリエンテーション/インターネット基礎知識(公開授業)			
第2週	インターネット通信技術			
第3週	インターネットアプリケーション関連技術			
第4週	ブロードバンド接続機器			
第5週	インターネットサービスプロバイダISP			
第6週	インターネットの回線			
第7週	ISPによるBB接続、Webクライアント、メールクライアント			
第8週	クラウドコンピューティング、IoT、人工知能			
第9週	インターネットセキュリティの基礎			
第10週	セキュリティ基本対策			
第11週	インターネット、LANセキュリティ対策			
第12週	インターネットサービス利用の基本知識			
第13週	インターネット利用に関するマナー			
第14週	インターネット利用の知識、法律			
第15週	総合まとめ			

期末テスト

テキスト

適宜、プリントを配布し、必要に応じてインターネットの事例を講義で紹介する。

参考書・参考資料等

インターネット検定 .com Master ADVANCE 公式テキスト 第3版 3,740円
(税込み)

学生に対する評価

課題・宿題等50点、期末テスト50点

合計100点

※出席数が2／3に満たないものは不可となる。

その他

予習、復習、及び宿題などの提出について、期日を守ってしっかり対応できること

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： ネットワークの構築 と運用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： アラスーン・ピーターM
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 一通りのネットワーク管理ができる： 基本OSのインストールができる。コマンドによるアカウント作成と管理、ファイル管理（作成、変更、セキュリティー権限の設定）、ソフトの追加や削除、複数種類サーバ機能の構築と設定ができる。数回の実習問題に加えて、期末テストでは実際の管理例を取り上げる			
授業の概要 本科目は、ハイブリッド型授業（面接授業及び遠隔授業の混声型）で実施する予定である。 実際のネットワーク構築と管理をテーマとする。サーバ管理者として基本OSやアプリケーションソフトのインストールを体験し、ユーザアカウント作成・管理、ネットワーク設定及びセキュリティー管理を行う。 すべての授業はICT中心に行う。 本科目は、Web会議システムGoogle Meet を使用した遠隔授業システムを使用する。			
授業計画 第1回 Linuxの概要（Unix OSの歴史、GNU、LinuxとGPL、ディストリビューション） Ch2 pp. 53-62 第2回 LinuxOSのインストール準備、(HDDパーティションの準備、最新版の入手など)、 インストール作業 Ch1 pp. 1-34 第3回 VirtualBoxやLinuxの起動、ログイン、GUIやCUIを体験、ユーザアカウント作成、 シャットダウン Ch1 pp. 35-52、Ch2 pp. 63-77、Ch3 pp. 92-112 第4回 ソフトの追加インストールや更新（update、レポシトリ、apt-get） Ch2 pp. 78-90、Ch3 pp. 113-142 第5回 コマンドライン操作（1）：コマンドの実行（cal, pwd, cd, ls, date, sudo apt update），テキストエディター（gedit, nano, vim）Ch2 pp. 74-90 第6回 Ubuntuデスクトップ設定と応用 Ch4 pp. 143-160 第7回 コマンドライン操作（2）：コマンドのオプションとマニュアル（man, info, パス）			

	Ch5 pp.162-170 ファイル操作 (1) : 作成、コピー、移動、削除 (touch, tree, mkdir, ls, rm, rmdir, mv, cp) Ch5 pp.171-178
第8回	ファイル操作 (2) : コンテンツ確認と検索 (ln, file, cat, head, tail, less, wc, echo, grep, locate, hostname, uname, xdg-open, last, clear, exit) Ch5 pp.179-191
第9回	シェルの活用・コマンドの効率化: シェル変数、リダイレクト、パイプ、検索など, history, set, export, printenv, alias, >, >>, locate, find, sudo Ch6 pp.1 92-229
第10回	ユーザの管理 登録・削除, adduser, passwd, usermod, groupadd, gpasswd, delser, delgroup Ch7 ファイルの管理、セキュリティとパーミッションの 設定、変更, rwx, chmod, umaskCh8 プロセスとジョブの管理 Ch9
第11回	ストレージ追加 mount, parted) Ch10 ソフトウェア管理 (apt, update, install, remove, upgrade, list) Ch11 圧縮アーカイブの作成と展開 (tar, zip) Ch12
第12回	Ubuntuサーバ版のインストール、仮想コンソール、遠隔管理用のリモート接続サー バSSHの追加の起動 (sshd, ssh, systemctl, networkctl), Ch13, Ch18
第13回	ネットワークの設定と管理 (networkctl, ip), ファイアウォール設定 (ufw status/allow/enable) Ch14
第14回	サーバの構築: サービスの管理(systemd, systemctl) Ch15 LAMPの追加と起動: HTTPウェブサーバ、MySQLデータベースサーバ Ch16
第15回	サーバの構築: DNSサーバ、プロキシサーバ (Squid), ファイルサーバ (Samba) の追加と起動(ウィンドーズ環境との共存) Ch21 サーバのメンテナンス: コマンドの定期実行 (crontab)、ログファイル Ch22 pp. 380-383, pp. 392-393
期末テスト	
テキスト	
「Ubuntuスタートアップバイブル」、マイナビ、¥3,630	
参考書・参考資料等	
「新Linux/UNIX入門」、ソフトバンク、¥4,104	
「新しいLinuxの教科書」、SBクリエイティブ、¥2,700	
オンライン参考資料: http://www.lpi.or.jp 、 http://ja.wikibooks.org/wiki/UNIX/Linux 入門、など	

学生に対する評価

レポート・課題作業 70点

ミニテスト・期末テスト 30点

合計 100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ネットワーク技術Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 大作
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ネットワークは「つながっていて当たり前」と思われているが、繋がっていて当たり前を維持するためには、ネットワークの運用・保守まで見据えた構築ができなければならない。ホームビジネスまたは小産業向けのネットワークを計画、設置、インターネットへの接続をできることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、演習形式でネットワーキング分野での基礎を学ぶ、基本的知識を取得する。データを間違いなく効率的に送受信するためにどのような工夫がなされるか、基本的な仕組みや国際的な取り決めを知り、IPネットワークについてネットワークシミュレータを用いた学習する。また、本講義は、ハイブリッド型授業（面接授業及び遠隔授業の混声型）でも対応できるように準備する。			
授業計画 第1週：第1章 ネットワークの全体像 第2週：第2章 LANの仕組みと理解・設定 第3週：〃 第4週：第3章 WANの仕組みと理解・設定 第5週：〃 第6週：第4章 スイッチの仕組みと理解・設定 第7週：〃 第8週：第5章 ルータの仕組みと理解・設定 第9週：〃 第10週：第6章 セキュリティの仕組みと理解・設定 第11週：〃 第12週：第7章 VoIPの仕組みと理解・設定 第13週：〃			

第14週：第8章 無線LANの仕組みと理解・設定

第15週：まとめ

期末テスト

テキスト

適宜、プリントを配布し、必要に応じてインターネットの事例を講義で紹介する。

参考書・参考資料等

ネットワーク超入門講座 第4版（2018／3）：2, 178円

令和03年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室（情報処理技術者試験）2020／12：1, 848円

学生に対する評価

課題・宿題等30点、実践・実技課題40点、期末テスト30点

合計100点

※出席数が2／3に満たないものは不可となる。

その他

「コンピュータ・リテラシー」の単位を得たもの。

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： ネットワーク技術Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木大作 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ネットワークは「つながっていて当たり前」と思われているが、繋がっていて当たり前を維持するためには、ネットワークの運用・保守まで見据えた構築ができなければならない。ルーティングの理論と技術、及びネットワークデバイスについて学び、簡単なLANを設計・構築し、運用と保守ができることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、演習形式でルーティングの理論と技術を学び、簡単なLANを設計できるようにする。実際にはルータを設定して確実なルーティングを行うにはどうすべきか、ネットワークプロトコルや経路制御プロトコルについて学び、ルータの基本的な設定や構成が理解できるようにする。また、本講義は、ハイブリッド型授業（面接授業及び遠隔授業の混声型）でも対応できるように準備する。			
授業計画 第1週：第1章 ネットワーク運用・保守の全体像 第2週：第2章 ネットワーク運用管理の基本 (2-1 ネットワーク運用管理、2-2 インシデント管理) 第3週： (2-3 問題管理、2-4 アクセス管理) 第4週： (2-5 ヘルプデスクの役割、2-6 ネットワーク運用管理のツール) 第5週：第3章 ネットワーク運用監視の基本 (3-1 ネットワーク運用監視業務、3-2 監視装置の主な機能、3-3 一般的な運用監視) 第6週： (3-4 ネットワーク監視装置の導入、3-5 SNMPを使った運用監視、3-6 トラフィック分析) 第7週：第4章 メンテナンス用ネットワークの基本 (4-1 メンテナンス用ネットワークの概要、4-2 メンテナンス用ネットワークの整備) 第8週： (4-3 リモートログインの高度化、4-4 コンソールネットワーク接続) 第9週：第5章 ネットワーク運用設計と障害対応の基本 (5-1 ネットワークの可用性設計、5-2 冗長化のレベル) 第10週： (5-3 冗長化の全体像、5-4 さらなる冗長化対策)			

第11週： (5-5 ループ防止機能、5-6 障害切り分け作業の準備)
 第12週： (5-7 ネットワークのどこに障害があるのか、5-8 装置故障の対応)
 第13週： (5-9 ネットワーク機器の保守、5-10 保守に必要なバックアップの考え方)
 第14週： (5-11 パケットキャプチャの工夫、5-12 標的型攻撃対策)
 第15週：まとめ
 期末テスト

テキスト

適宜、プリントを配布し、必要に応じてインターネットの事例を講義で紹介する。

参考書・参考資料等

1冊ですべてわかる ネットワーク運用・保守の基本（2020／7）：2,486円

学生に対する評価

課題・宿題等30点、実践・実技課題40点、期末テスト30点

合計100点

※出席数が2／3に満たないものは不可となる。

その他

「ネットワーク技術Ⅰ」の単位を得たもの。

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： コンピュータ・グラフィックス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： アラスーン・ピーターM 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学生が短時間で簡単な3Dモデルを作成するようになる。色や模様、背景や照明、さらに動きを設定して、単純なアニメ作成が目標としている。 学生が自由に使えるCGフリーソフト[Blender]で実習を行う。 毎週簡単な作品作成を目指す。クラス内で共有するため、作品を公開する。			
授業の概要 統合3次元CGソフトウェアを用い、コンピュータ・グラフィックスの演習を行う。具体的にはモデリングから、表面の設定（色、模様）、照明とアニメーションの設定までを含む。静止画や動画として出力する方法も学ぶ。			
授業計画 (すべての授業はWeb会議システムGoogle Meet を使用した同時遠隔授業となる。 しかし画面の詳細操作などを確認するために、教室での受講が望ましい)			
第01週	授業のオリエンテーション、CGの概要		
第02週	Blenderのインストールとインターフェース紹介、静止画の出力 (テキストpp. 10 - 28)		
第03週	CGの基礎：3Dオブジェクトの作成と基本変換(移動・回転・拡大/縮小) (pp. 29 - 52)		
第04週	原点の設定、ペアレント設定、キーフレームアニメーション、単純歩くアニメーション (pp. 53 - 88)		
第05週	タイムラインとキーフレームの複製・編集、グラフエディターによる動きの編集 (pp. 89 - 114)（ビデオ資料）		
第06週	モデリングの基本操作、回転のためのホネ作成、動きを追跡する（トラッキング） (pp. 115 - 123)（ビデオ資料）		
第07週	ウェイトペイントで動きを修正（pp. 124 - 131）（ビデオ資料）		
第08週	キャラクターの骸骨作成、補助ボーン追加とウェイトで修正、回転の限定		

	(pp. 132 - 153) (ビデオ資料)
第09週	ボーンのIK設定とポーズのアニメーション (pp. 156 - 167) (ビデオ資料)
第10週	歩行のアニメーション、複雑運動 (pp. 168 - 177)
第11週	ノードによるマテリアルの設定、4本脚動物の歩行 (pp. 178 - 187) (ビデオ資料)
第12週	顔の表情を表す(1) : シェープキー設定とアニメーション (pp. 188 - 196) (ビデオ資料)
第13週	顔の表情を表す(2) : ビデオ編集で音声をアニメに追加、 (ビデオ資料)
第14週	パーティクルと物理演算(1) : 重力シミュレーション、花火、雨 (pp. 197 - 214)
第15週	パーティクルと物理演算(2) : リジッドボディー・クロス・ソフトボディー (pp. 215 - 232)、授業まとめとプロジェクト提出
※期末試験は行わない。	
テキスト	
オンライン資料意外に、以下のテキストを使用する：	
「無料ではじめる Blender CGアニメーションテクニック ～3DCGの構造と動かし方がし っかりわかる」	
【Blender 2.8対応版】 (技術評論社) ¥2,780	
参考書・参考資料等	
コンピュータグラフィックス (CG-ARTS協会) ¥3,360	
Blender逆引き大全 (秀和システム) ¥2,800	
Blender 2.8 3DCG スーパーテクニック (ソウテック社) ¥4,378	
学生に対する評価	
クラスワーク、宿題	90点
最終プロジェクト	10点
合計	100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ウェブデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐久本 功達 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①基礎的なHTML5のタグについて理解し、文字データと画像データをWebページ内に適切に配置することができる。 ②CSS3の仕組みについて理解し、スタイルシートによるWebページのデザインができる。 ③簡単なアニメーションを作成し、Webページ内に適切に配置することができる。			
授業の概要			
21世紀の現代、情報技術の急速な発展は社会の国際化をさらに加速させており、インターネット上にインタラクティブで魅力的なサイトを構築するために、ウェブページ作成に関する基礎知識が個人でも組織でも、またどの分野に於いても重要となってきた。この授業では、主にクライアントサイドにおけるウェブページ作成に必要な様々な基礎知識と技法を演習を通して修得する。例えば、HTML5、CSS3、jQueryによるアニメーションなどである。受講生は、上記の技術で作成した自作のウェブページを学内サーバにアップロードしながら、ウェブページ作成に関する知識と技術を概観する。 なお、本科目は、適宜、Web会議システム：Google Meet を使用した遠隔授業として実施する。			
台1回 オリエンテーション・下準備（テキスト：Chapter 0 Introduction）			
①シラバスの説明を行う。②ブラウザおよびテキストエディタの準備を行い、Webページ作成環境を整える。			
第2回 基本的なページの作成（その1）【テキスト：Chapter 1 Basic Page Making】 HTMLおよびスタイルシートの基本的なファイルの作成を行う。			
第3回 基本的なページの作成（その2）【テキスト：Chapter 1 Basic Page Making】 文字デザインについて学ぶ。			
第4回 レイアウトとデザイン（その1）【テキスト：Chapter 2 Layout & Design】 背景色の設定について学ぶ。			
第5回 レイアウトとデザイン（その2）【テキスト：Chapter 2 Layout & Design】 影を付ける方法について学ぶ。			
第6回 画像の表示（その1）【テキスト：Chapter 3 Image Layout】 画像の表示方法について学ぶ。			

第7回 画像の表示（その2）【テキスト：Chapter 3 Image Layout】

①背景画像の表示方法について学ぶ。②中間課題出題。

第8回 リンクとナビゲーション（その1）【テキスト：Chapter 4 Links & Navigation】

リンクの設定について学ぶ。

第9回 リンクとナビゲーション（その2）【テキスト：Chapter 4 Links & Navigation】

ナビゲーションメニューの設定について学ぶ。

第10回 インデックスページの作成（その1）

【テキスト：Chapter 5 Index Page Making】

記事の一覧ページの作成を行う。

第11回 インデックスページの作成（その2）

【テキスト：Chapter 5 Index Page Making】

トップページの作成を行う。

第12回 テーブルとフォーム（その1）【テキスト：Chapter 6 Table & Form】

テーブルの作成を行う。

第13回 テーブルとフォーム（その2）【テキスト：Chapter 6 Table & Form】

①投稿フォームの作成を行う。②最終課題出題。

第14回 仕上げとアレンジ【テキスト：Chapter 7 Finishing & Arrange】

文法チェックの方法について学ぶ。

第15回 総括、最終課題作業及び提出日

①これまで学んだことを振り返り、最終課題の作成に活かす。②完成した最終課題を提出する。

最終課題作業及び提出日

完成した最終課題を提出する。期末試験は実施しない。

テキスト

エビスコム『HTML5&CSS3レッスンブック』（ソシム，2013）2,592円（税込）

参考書・参考資料等

山崎大助『jQuery レッスンブック jQuery 2.x / 1.x 対応』（ソシム，2014）
2,678円（税込）

学生に対する評価

活動状況（演習への取り組みと参画度）	：	20点
中間課題の点数	：	30点
最終課題の点数	：	50点
合計	：	100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： プログラミング 応用演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：鈴木直人
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. Javaを中心にオブジェクト指向による効率的なプログラム構築手法を理解する。 2. データベース・ネットワーク・並列処理などに係るプログラミング法を理解する。 3. マルチメディアシステム, Webアプリケーションなど応用にもとづいたプログラム作成法を理解する。				
授業の概要				
プログラミング演習の基本やプログラミング語論などの背景知識を基に個別のソフトウェアプログラミング技術の向上を図る. また, オブジェクト指向プログラムの仕組みを理解した上で、ネットワークプログラミングやデータベースプログラミング・Webアプリケーションプログラミングなどの幅広いソフトウェア開発技法を身につける。				
授業計画				
第1回 インスタンスの基本操作（1章）, 様々な種類のクラス（2章）				
第2回 関数とラムダ式（3章）				
第3回 JVM制御とリフレクション（4章）				
第4回 非標準ライブラリの活用（5章）				
第5回 ファイルの操作（6章）, 様々なファイル形式（7章）				
第6回 ネットワークアクセス（8章）				
第7回 データベースアクセス（9章）①				
第8回 データベースアクセス（9章）②				
第9回 基本的な開発ツール（10章）①				
第10回 基本的な開発ツール（10章）②				
第11回 単体テストとアサーション（11章）①				
第12回 単体テストとアサーション（11章）②				
第13回 メトリクスとリファクタリング（12章）①				
第14回 メトリクスとリファクタリング（12章）②				
第15回 振り返り（関数とラムダ式（3章）から基本的な開発ツール（10章）までの復習）				

第16回 中間課題の連絡及びソースコードの管理と共有（13章）からスレッドによる並列処理（16章）までの概要説明

第17回 ソースコードの管理と共有（13章）①

第18回 ソースコードの管理と共有（13章）②

第19回 アジャイルな開発（14章）①

第20回 アジャイルな開発（14章）②

第21回 設計の原則とデザインパターン（15章）①

第22回 設計の原則とデザインパターン（15章）②

第23回 スレッドによる並列処理（16章）①

第24回 スレッドによる並列処理（16章）②

第25回 ユーザーインタフェース制御（17章）①

第26回 ユーザーインタフェース制御（17章）②

第27回 振り返り（Java SE Bronzeから抜粋）①

第28回 振り返り（Java SE Bronzeから抜粋）②

第29回 後半のまとめ（13章から17章までの復習に加えサーバサイド関連技術についても学ぶ）

第30回 全体のまとめ（質疑・応答）

期末テスト

テキスト

適宜、プリントを配布し、必要に応じてインターネットの事例を講義で紹介する。

参考書・参考資料等

- ・ スッキリわかるJava入門 実践編 第3版（スッキリわかるシリーズ）（2021/4）：3,300円（税込）
- ・ 徹底攻略Java SE Bronze問題集[1Z0-818]対応（2020/6）：2,750円（税込）

学生に対する評価

課題・宿題等50点, 中間課題20点, 期末テスト30点, 合計100点

※出席数が3分の2に満たないものは不可となる。

その他

「プログラミング応用」を前提科目とする。

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 情報と職業	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田邊 勝義 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報と職業		
授業のテーマ及び到達目標 情報と職業の関わり、情報モラルを身に付けた健全な職業観、勤労観を育成する。 (1) 情報社会と情報システムの現状を関連付けて理解できる。 (2) 情報化によるビジネス環境の変化と対応、および社会環境の変化を理解できる。 (3) 将来就きたい職業について、その理由を分かりやすく相手に自らの言葉で伝えることができる。			
授業の概要 高度情報化社会においては、社会人として自らの職業を考えるにあたり、情報と職業の関わり、職業倫理の一環としての情報モラル等を包括した健全な職業観、勤労観を育成することが必須の要件である。情報技術の進歩により社会が変化してきており、それにつれて職業も変化してきている。当講義では、このような能力を習得し、情報化社会において主体的に参画する態度を育成することを目標とする。本講義は、情報システムを扱う仕事をしてきた経験を活かして、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。グループ学習を通して、自分の考えを相手に分かりやすく説明することを学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義の目的、シラバス、評価方法を確認し、講義の全体像を理解し、登録を行う。 第2回：IT技術者育成の重要性 IT技術者育成の重要性および、なぜIT技術者が不足しているのかについてあなたの考えをまとめる。 第3回：企業におけるITへの期待の変化 「情報システムを構築するには、業務の抜本的な革新をせよ」とか、「情報連絡だけを任務とする中間管理職は不要だ」ということは、1960年代でもいわれていたのに、現在でも同じことがいわれているのはなぜか？ についてあなたの考えをまとめる。 第4回：SWOT分析(1) 地方都市郊外にある中華料理店が今後3年以内に売り上げを1.2倍にする経営目標を立てた。経営目標を達成するための環境要因を整理する			

第5回：SWOT分析(2)

地方都市郊外にある中華料理店が今後3年以内に売り上げを1.2倍にするために、クロス分析のマトリックスを作成し、重要な環境要素を抽出し、戦略オプションを選んで戦略を立案する

第6回：インターネットのインパクト

インターネットの普及による産業秩序の変化は、就職企業選択や勤労観に変化を与えているか？について、あなたの考えを述べる。

第7回：IT推進組織

IT部門をアウトソーシングすることによる問題点を列挙し、その理由について、あなたの考えを整理する。

第8回：前半のまとめと中間試験

前半の内容をまとめ、中間試験を実施する

第9回：企業におけるIT化の現状(1)

中小企業のIT化が遅れている原因のうち、コスト要因について、あなたの考えをまとめる。

第10回：企業におけるIT化の現状(2)、試験返却

中小企業のIT化が遅れている原因のうち、コスト以外の要因について、あなたの考えをまとめる。

第11回：IT技術者とは

あなたはIT技術者orなりたい職業人として成長しようと思っている。なるべき人材像を仮定して、どのようなキャリアパスを想定するかについて、あなたの考えをまとめる。

第12回：情報サービス業

情報サービス産業の抱える課題を1つ選び、その課題を解決しないと、ユーザ企業や社会にどのような影響を与えるかについて、あなたの考えをまとめる。

第13回：IT技術者のイメージと実像

IT技術者として成功するためには、どのような資質、どのような知識能力が求められるかについて、あなたの考えをまとめる。

第14回：就きたい業種の職業人としての資質

自分の就きたい職業人として成功するためには、どのような資質、どのような知識能力が求められるかについて、あなたの考えをまとめる。

第15回：高校での情報教育

なぜ、全高校生に情報教科を履修させることが必要なのかについて、あなたの考えをまとめる。

まとめと期末テスト： 本講義をまとめ、期末テストを実施する。

テキスト

木暮 仁 『情報と職業』 日科技連 2, 200円+税

参考書・参考資料等

必要に応じて、資料を配布する。

学生に対する評価

授業（グループ活動）への積極的参加	30点
予習課題	10点
中間テスト・期末テスト	60点
合 計	100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 情報科教育法Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：當間文隆 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 高等学校教科「情報」の科目内容、目標、特徴について理解する。 ・ 高等学校教科「情報」のを指導するために必要な基礎知識とその活用法を身につける。 ・ 学習指導要領に基づいた授業の立案および指導案の作成、教材や授業の工夫などを行うことができるようになる。 ・ 情報科教員としての資質や心構えを理解し、諸課題に積極的に取り組む態度を身につける				
授業の概要				
※本科目は、ハイブリット型授業（面接授業及び遠隔授業の混成型）で実施する場合がある。 新学習指導要領における高等学校教科「情報」の教科目標、科目の構成、内容、指導法および評価方法等について理解を深め、教科「情報」を指導する教師に求められる知識や技術について学ぶ。また、情報科教員としての資質や心構え、情報教育の現場における取り組みや諸課題等について、最新の現況をモデルにして学習する。なお、本科目は、適宜、Web会議システム（Teams、Google Meet、Zoom等）を使用した遠隔授業として実施する場合がある。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション・情報科教育法とは・これからの教師に求められるもの オリエンテーションとして、授業の目的・内容・方法を理解しながら、高等学校の情報科教諭に何が求められているかについて学ぶ。これにより、学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造の理解を促す。また、シラバスの確認、科目登録等を行う。				
第2回：情報科の成立・情報科の目標 情報科の成立及び情報教育の目的について学び、教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができるよう、情報科教員としての資質の基盤形成を促す。				
第3回：新学習指導要領における教科「情報」の科目構成、特徴と目標、高等等学校における教育課程 学習指導要領を解説し、教科「情報」の科目構成、特徴と目標、高等学校における教育課程について学び、学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造の理解を深め、さらに、今後の教科の学習評価の考え方を理解するための基礎固めをする。				
第4回：校外学習（高等学校の授業見学・総合教育センターIT教育棟の施設見学）				

高等学校の授業見学による校外学習を実施し、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解するための実際の教育現場を体験する。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用する準備を行う。総合教育センターIT教育班では県立学校ネットワークのコンテンツフィルタリング、プロキシサーバー、コンピュータウイルス対策などを理解する。

第5回：「情報社会の課題とモラル」の指導法

学習指導要領に基づき、「情報社会の課題とモラル」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。さらに、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。

第6回：「情報の表現と管理」の指導法

学習指導要領に基づき、「情報の表現と管理」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。さらに、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。

第7回：「情報テクノロジー」の指導法

学習指導要領に基づき、「情報テクノロジー」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。さらに、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。

第8回：「アルゴリズムとプログラミング」の指導法

第5回～第7回の授業内容からテーマを選定し、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。また、学習指導要領に基づき、「アルゴリズムとプログラミング」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第9回：「ネットワークシステム」の指導法

学習指導要領に基づき、「ネットワークシステム」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第10回：「データベース」の指導法

学習指導要領に基づき、「データベース」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第11回：「情報メディア」の指導法

第8回～第10回の授業内容からテーマを選定し、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。また、学習指導要領に基づき、「情報メディア」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第12回：「情報デザイン」の指導法

学習指導要領に基づき、「情報デザイン」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第13回：「表現メディアの編集と表現」の指導法

学習指導要領に基づき、「表現メディアの編集と表現」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第14回：「情報産業と社会」「課題研究」「情報コンテンツ実習」の指導法

第11回～第13回の授業内容からテーマを選定し、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。また、学習指導要領に基づき、「情報産業と社会」「課題研究」「情報コンテンツ実習」の指導法を解説し、学習内容について指導上の留意点を理解する。さらに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。

第15回：「高校教育における情報教育の課題と教科「情報」担当教員の実際と本授業のまとめ

全授業のまとめを行う。習得内容を整理すると共に、実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組む姿勢を身に付ける。

期末試験

テキスト

久野靖／辰巳丈夫、「情報科教育法 改訂2版」、オーム社、価格2400円（税別）

「高等学校学習指導要領解説（平成30年度公示） 情報編」、開隆堂、

価格221円参考書・参考資料等：

文部科学省『高校学校 学習指導要領（平成30年度公示）』、

『高等学校 学習指導要領解説（平成30年度公示） 総則編』を参照すること。

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

期末試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%） 合計（100%）

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：當間文隆 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 高等学校教科「情報」の科目内容、目標、特徴について理解する。 ・ 高等学校教科「情報」のを指導するために必要な基礎知識とその活用法を身に付ける。 ・ 学習指導要領に基づいた授業の立案および指導案の作成、教材や授業の工夫などを行うことができるようになる。 ・ 情報科教員としての資質や心構えを理解し、諸課題に積極的に取り組む態度を身につける。				
授業の概要				
※本科目は、ハイブリット型授業（面接授業及び遠隔授業の混成型）で実施する場合がある。				
本科目は、講義・演習（フィールドワーク、グループワークを含む）形式で行う。また、本科目は高等学校の教育現場で実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。				
新学習指導要領における高等学校教科「情報」の教科目標、科目の構成、内容、指導法および評価方法等について理解を深め、教科「情報」を指導する教師に求められる知識や技術について学ぶ。また、情報科教員としての資質や心構え、情報教育の現場における取り組みや諸課題等について、最新の現況をモデルにして学習する。				
なお、本科目は、適宜、Web会議システム（Teams、Google Meet、Zoom等）を使用した遠隔授業として実施する場合がある。				

第1回：オリエンテーション

オリエンテーションとして、シラバスにより授業の目的・内容・方法を確認すると共に、情報科教育法Ⅰで学習した、学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造について復習する。また、科目登録作業を行う。

第2回：評価の工夫

学習指導要領に基づき、教科「情報」の科目構成、特徴と目標等を確認し、学習評価の考え方を踏まえて、評価の工夫について考察する。

第3回：教材研究と効果的な授業

教材研究については、学習内容の背景となる学問領域との関係を十分に理解した上で行うことが重要であることを学ぶ。また、効果的な授業については、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解し、例えば、「板書」「発問」「質問」「机間巡回」などの授業構成の核となる指導技術について考察する。

第4回：年間計画の立案・授業の計画

学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を確認しながら、教科の年間計画の立案及び授業計画の立て方について学ぶ。

第5回：学習指導案の作成①

学習指導要領に基づき、各学習内容について指導上の留意点を確認する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。さらに、学習指導案の構成を確認し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。なお、授業設計と学習指導案は、学習内容の特性に応じた情報機器及び教材が効果的に活用された内容とする。

第6回：学習指導案の作成②

学習指導要領に基づき、各学習内容について指導上の留意点を確認する。また、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察する。さらに、学習指導案の構成を確認し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。なお、授業設計と学習指導案は、学習内容の特性に応じた情報機器及び教材が効果的に活用された内容とする。

第7回：情報科とプレゼンテーション

生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解し、グループ学習やアクティブ・ラーニングの成果発表の方法（例えば、ライトニングトーク（lightning talks）や知識構成型ジグソー法など）について指導技術について考察する。

第8回：授業形式の実習

テキストからテーマを選定し、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。

第9回：これからの情報教育

これからの情報教育について、各学習内容の背景となる学問領域との関係を理解し、実践研究の動向を知り、授業設計の向上と教材研究に活用できるようにするための準備を行う。採り上げるテ

ーマとしては、「人口知能」「ビッグ・データ」「ディープ・ラーニング」などである。

第10回：情報の表現と管理の発展的学習

前回の「これからの情報教育」の内容に基づいて、学習指導要領の「情報の表現と管理」の指導法について復習する。また、「情報の表現と管理」の背景となる学問領域との関係（1・4）を踏まえ発展的な学習内容について探究する。

第11回：ソフトウェア製作から見た情報教育

学習指導要領の「アルゴリズムとプログラミング」の指導法について復習する。また、IT企業のソフトウェア製作の現状について学び、「アルゴリズムとプログラミング」の背景となる学問領域との関係を踏まえ発展的な学習内容について探究する。

第12回：教材研究と自作教材の作成

テキストからテーマを選定し、教材研究と自作教材を作成する。その際、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案に準拠した教材になるようにする。

第13回：学習指導案の作成・検討

テキストからテーマを選定し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。なお、授業設計と学習指導案は、学習内容の特性に応じた情報機器及び教材が効果的に活用された内容となっているか検討する。

第14回：教科「情報」科目の模擬授業

テキストからテーマを選定し、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。

第15回：模擬授業の振り返り・講義総括

テキストからテーマを選定し、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。その後、全授業のまとめを行う。習得内容を整理すると共に、実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組む姿勢を身に付ける。

期末試験

テキスト

久野靖／辰巳丈夫、「情報科教育法 改訂2版」、オーム社、価格2400円（税別）

「高等学校学習指導要領解説（平成30年公示）情報編」、開隆堂、価格221円

文部科学省『高等学校 学習指導要領（平成30年公示）』、

『高等学校 学習指導要領解説（平成30年公示）総則編』を参照すること。

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

期末試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％） 合計（100％）

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 1単位	担当教員名：砂川恵子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の概要			
介護等体験に参加する学生を対象とし、介護等体験の目的、内容・方法（記録の方法を含む）を理解し、社会福祉施設や特別支援学校での介護等体験をよりよく行うことが出来るよう、事前学習を行う（体験施設や利用者の理解、目標設定、自己理解など）。			
到達目標			
・介護等体験に向けた諸準備ができる。 ・介護等体験の目標設定ができる。 ・介護等体験事前学習の振り返りができる。			
授業計画と内容			
1. オリエンテーション（位置づけ、事務手続き）、介護等体験の実施施設（社会福祉施設）について 2. 介護等体験の目的と意義（「介護等体験報告」より）、介護等体験の実施施設（特別支援学校）について 3. 障害者および高齢者福祉施設と福祉サービスの理解 4. 障害者、高齢者の施設利用者の生活について考える 5. 自己理解と他者理解 6. 「インクルーシブとは何か」について、「利用者の権利」について考える 7. 「地域支援の根幹とは何か」について考える 8. 事前学習のまとめ－「向き合うこと」について考える－ 期末試験は実施しない。※レポート			
テキストと参考文献			
・社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会 『教員免許特例法にもとづく介護等体験の手引き～社会福祉施設等における介護等体験』 毎年発行 ・『現代教師養成研究会編『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（三訂版）』 2008年、大修館書店			

準備学習：講義終了時に次回の授業内容を提示するため、予習すること。
学生への成績評価の方法 活動状況および提出物の状況による。 介護等体験記録簿 50 点、小テスト 20 点、期末レポート 30 点
履修の条件
介護等体験の履修条件（『教職課程のてびき』）のとおり。
その他
事前学習 8 コマの後、社会福祉施設 5 日間、特別支援学校 2 日間の体験を行う。 （7 月～11 月）。 【課題】 事前学習期間中：授業の記録&提出、体験中：体験の記録&提出、 体験後：総括レポートの提出&報告会

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 洋 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
憲法に基づき論理的に物事を考えること(リーガルマインド)への関心を促しつつ、わが国の将来を支える者として、日本国憲法を学び続けること、特に沖縄の憲法状況を常に意識し、幅広い憲法の知識を駆使して、主体的な分析・考察が可能となる能力の修得をめざす（主権者教育の一環）。			
授業の概要			
日常生活(特に沖縄で見られる憲法現象（新聞やテレビで取り上げられる憲法に関する話題）を主な素材として、日本国憲法のしくみや基本原理（人権論を中心に）、憲法をめぐる諸問題等について学習する。社会において憲法が果たしている重要な役割をなるべく分かり易くお話していきたい。特に、米軍基地や差別・貧困の問題等に見られるように、人間の価値・尊厳【Human Dignity】が軽視されかねない危険な傾向にもある現代社会にあって、だからこそ、依然として手厚く尊重され続けられなければならない「人間(個人)の価値」や憲法のあり方について考察を深めていく。			
授業の概要			
第1週 イントロダクション			
第2週 人権総論：人権の享有主体			
第3週 人権総論：人権の私人間適用、公共の福祉			
第4週 包括的基本権：幸福追求権			
第5週 包括的基本権：平等権			
第6週 精神的自由・・・思想・良心の自由、信教の自由			
第7週 精神的自由・・・表現の自由			
第8週 経済的自由・・・職業選択の自由			
第9週 人身の自由・・・適正手続の保障、法の下での平等と治外法権			
第10週 社会権			
第11週 参政権・請求権			
第12週 国会・内閣、沖縄県本土復帰時の状況			
第13週 裁判所			
第14週 地方自治、憲法改正、沖縄県の特殊事情			

第 15 週 平和主義、日米地位協定の現状 期末試験
テキスト 坂田仰・田中洋『教職教養日本国憲法【補訂第 2 版】』八千代出版（2011）
参考書・参考資料等 山本章子『日米地位協定-在日米軍と「同盟」の70年』中公新書（2019） その他、授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価 ・授業時間中に行う中間テスト 30 点 ・学期末試験 50 点 ・授業中の活動状況等 20 点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大城 渡 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
憲法に基づき論理的に物事を考えること(リーガルマインド)への関心を促しつつ、わが国の将来を支える者として、日本国憲法を学び続けること、特に沖縄の憲法状況を常に意識し、幅広い憲法の知識を駆使して、主体的な分析・考察が可能となる能力の修得をめざす（主権者教育の一環）。			
授業の概要			
日常生活(特に沖縄で見られる憲法現象（新聞やテレビで取り上げられる憲法に関する話題）を主な素材として、日本国憲法のしくみや基本原理（人権論を中心に）、憲法をめぐる諸問題等について学習する。社会において憲法が果たしている重要な役割をなるべく分かり易くお話ししていきたい。特に、米軍基地や差別・貧困の問題等に見られるように、人間の価値・尊厳【Human Dignity】が軽視されかねない危険な傾向にもある現代社会にあって、だからこそ、依然として手厚く尊重され続けられなければならない「人間(個人)の価値」や憲法のあり方について考察を深めていく。			
授業計画			
第1週 憲法講義オリエンテーション；憲法を学ぶ講義の目的や概要の説明等前半部分では、シラバスに基づき、「憲法」の科目概要や、成績評価の方法、テキスト・参考文献等について説明する。後半部分では、DVD教材を視聴しながら、第4週めの講義内容の一部でもある「日本国憲法の成り立ち」について学習する。			
第2週 平和主義の原理；平和主義原理の内容やその問題点、平和主義と沖縄との関係等を含めた解説憲法前文や9条を実際に読んで、その内容や意義を確認しつつ、戦争をなくすための平和主義の原理の内容や課題・論点 等について講ずる。 軍事力によらない平和（平和憲法の志向）と軍事力による平和（日米安保体制の志向）との相克を指摘しつつ、平和をめぐって私たちが今後歩むべき道を考える。			
第3週 国民主権の原理と象徴天皇制；国民主権原理の内容やその問題点、象徴天皇制との関係に関する解説憲法の基本原理の一つである「国民主権の原理」と「象徴天皇制」について扱う。まず、【国民】や【主権】の意味等を各々探究しながら、国民主権の原理の意義について講ずる。 次に、特に国民と天皇との関係に留意しながら、象徴天皇制につ			

いて講ずる。

第4週 日本憲法史；大日本帝国憲法と日本国憲法との比較、日本憲法史における沖縄の特異性に関する解説。古今東西の諸憲法にも言及しながら、現行の日本国憲法をより理解するため“日本憲法史”について扱う。まず、日本史に登場した3つの“憲法”を概観する。次に、大日本帝国憲法と日本国憲法の共通点や相違点について考える。最後に、憲法と沖縄との関係について言及する。なお、本日の講義内容に関連するものとして、日本国憲法制定の経緯をDVD視聴で扱った第1週講義概要【ダイジェスト】も参照してほしい。

第5週 基本的人権 総論Ⅰ；人権の概念（歴史性・固有性・普遍性・不可侵性・不可譲性・国際性 等）基本的人権 総論Ⅰとして、“人権”にはどのような性質があるか 全7項目（①歴史性 ②固有性 ③普遍性 ④国際化 ⑤不可侵性 ⑥不可譲性 ⑦個人の尊厳）に分けて講じることを通じ、全体（総括）として、人権とはどのようなものかについて理解を図る。

第6週 基本的人権総論Ⅱ；人権の分類 憲法が保障する多様な基本的人権にはどのようなものがあるかを体系的に理解し、その性質や特徴を明らかにするために、国家権力との関係で、人権の分類やその留意点について講ずる。具体的には、①自由権 ②参政権 ③社会権や第三世代の人権等について概説する。

第7週 基本的人権 総論Ⅲ；人権享有主体 基本的人権 総論Ⅲとして「人権享有主体」の問題を扱う。まず、人権享有主体の問題をめぐる基本的考え方を概説する。次に、人権享有主体をめぐる主なカテゴリー（類型）として、①天皇・皇族、②外国人、③法人、④子ども(未成年者)、⑤公務員、⑥在監者の人権状況について講ずる。なお、本講義を参考にして、高齢者や障がい者、L.G.B.T.（性的少数者）等の人権について、応用・発展学習として各自で考えてみたい。

第8週 基本的人権 総論Ⅳ；人権の限界 基本的人権 総論Ⅳとして“人権の限界”について扱う。まず、人権の限界に関する憲法上のキーワードである“公共の福祉”（憲12条、13条、22条、29条）を手がかりとしながら、人権が誕生した歴史的当初から既に自覚されていた人権の内在的制約（限界）について講じ、テキスト・参考文献 5. 準備学習 6. 成績評価の方法 7. 履修の条件 8. その他 そして、今日の経済活動の自由に伴う政策的制約（限界）について講ずる。

第9週 包括的基本権と法の下の平等；生命・自由・幸福追求権(憲法13条)と法の下の平等(憲法14条)の解説 個別具体的な人権（基本的人権 各論Ⅰ）として、国家権力との関係で複合的な性質を有する“幸福追求権”と“法の下での平等”について扱う。まず、幸福追求権の意義や「新しい人権」について講ずる。次に、法の下での平等の意義や内容について講ずる。

第10週 精神的自由権個別具体的な人権（基本的人権 各論Ⅱ）として、精神的自由権について扱う。まず、個人の内面的精神活動の自由（内心の自由）として、①思想良心の自由、

②信教の自由、③学問の自由につき、その歴史的意義や保障内容等を講ずる。そして、内心で形成された感情・信条等を外部に表明する「表現の自由」について講じていく。

第11週 人身の自由；「体の自由」(憲法18条,31条,33～39条)に関する解説 DVD教材(人身の自由が侵害された当事者たちの声や関連映像)を視聴しながら、個別具体的人権(基本的人権 各論Ⅲ)として、人身の自由(18、31、33～39)について扱う。まず、人身の自由の意義と基本原則について講ずる。次に、捜査過程における被疑者(容疑者)の権利について講ずる。最後に、刑事裁判における被告人の権利について講ずる。

第12週 参政権と社会権；参政権(憲法15条ほか)、社会権(憲法25～28条)等に関する概説 個別具体的な人権(基本的人権 各論Ⅳ)として、国家権力との関係で“国家への自由”と称される「参政権」と、“国家による自由”と称される「社会権」について扱う。はじめに、参政権の意義や選挙の基本原則等を講ずる。次に、社会権に属する生存権、教育を受ける権利、勤労の権利・労働基本権の意義等を講ずる。

第13週 統治機構の構造；人権の保障に資する統治機構(政治制度)の現状について講ずる。具体的には、まず統治機構をめぐる権力分立原理等につき言及し、次に、国会(第4章)や内閣(第5章)、裁判所(第6章)、地方自治(第8章)の国政における位置づけや仕組み・活動等を、憲法上の規定を中心に概説する。

第14週 統治機構の考究；前週の講義内容をふまえ、人権保障により相応しい統治機構(政治制度)のあり方(あるべき姿)について考究する。具体的には、諸外国の統治機構についても言及しながら、わが国の国会・内閣・裁判所、地方自治をめぐる諸課題を提示し、人権保障により相応しいあり方を検討する。

第15週 憲法の意義と保障；憲法の意義・特徴、憲法改正手続等に関する概説 講義の総括(憲法総論)として、これまでの講義内容も振り返りつつ、はじめに、憲法とは何か(憲法の意義)、憲法はどのような役割を現代国家において果たすべきか(立憲主義)について講ずる。そして、立憲主義に基づく憲法を絶え間ない政治の荒波からどのようにして護るか(憲法の保障)について講ずる。

期末試験

テキスト

テキストは特になし。講義の進行に応じて、事前に講義内容に関するプリント・資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

- ①初宿正典ほか編『目で見える憲法(第5版)』(有斐閣、2018年) 価格 1,760 円(税込)
- # ビジュアル教材資料集
- ②芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法(第7版)』(岩波書店、2019年) 価格 3,520 円

(税込) #わが国の代表的概説書

③野中俊彦ほか『憲法Ⅰ、Ⅱ(第5版)』(有斐閣、2012年) 価格 3,300円(Ⅰ)(税込)、
2,970 円(Ⅱ)(税込) #代表的体系書

④長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ(第7版)』(有斐閣、2019年) いずれも
価格2,530 円(税込) #憲法に関する裁判例集

⑤仲地 博・水島朝穂編『オキナワと憲法』(法律文化社、1998年) 価格 2,835円

⑥沖縄県知事公室基地対策課編『沖縄の米軍基地(平成30年3月版)』(2018年) 非売品

学生に対する評価

①中間レポートの点数 50 点(講義前半部分の復習や、自分なりの考え方を練り上げるための諸課題を提示する。)

②期末試験の点数 50 点(自分なりの考え方をしっかり論述してもらうために、事前に試験問題を公表する。) *活動状況 学則等に基づき、6 回以上の欠席が確認された者には単位を認定しない。また、成績評価に際し、他の学生に迷惑を及ぼすような受講姿勢にも厳格に対処する。出席確認は、原則として、学生証の提示と「出席カード」を利用して行うが、積極的な講義参加を求める例外的な方法もある。

また、講義の進行に資するような興味深い言動については、成績評価においても考慮する。

合 計 100 点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅰ（テニス）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大峰 光博 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標 1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) テニスとバウンドテニスのルールを理解する。【知識・理解】 3) テニスとバウンドテニスの基礎技術を身につける。【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】			
【体育実技共通概要】 ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。			
授業の概要 本授業では、テニスとバウンドテニスにおける関する基礎技術（グランドストローク、ボレー、サーブ）の習得を目指す。また、ゲームを中心に講座を進めていく中で、テニスとバウンドテニスにおける特有のルールや戦術を学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の概要と進め方、成績評価、受講上の注意点について説明する。			

第2回：基礎技術の習得①

アイスブレイクを行い、ラケットの握り方、スタンスの取り方について学ぶ。＜準備学習：文献を通して、ストレッチや準備体操について調査する。＞

第3回：基礎技術の習得②

フォアハンドストロークとバックハンドストロークについて学ぶ。＜準備学習：文献を通して、テニスのルールについて調べる。＞

第4回：基礎技術の習得③

サーブとボレーについて学ぶ。＜準備学習：文献を通して、テニスのルールについて調べる。＞

第5回：ルールと審判法

テニスにおけるゲームのルール・審判法について学ぶ。＜準備学習：テニスのシングルの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第6回：ゲーム①

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：テニスのダブルスの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第7回：ゲーム②

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第8回：ゲーム③

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第9回：バウンドテニスのルール

バウンドテニスの特性、コートの設定方法について学ぶ。＜準備学習：文献を通して、バウンドテニスのルールについて調査する。＞

第10回：バウンドテニスにおける基礎技術の習得①

フォアハンドストロークとバックハンドストロークについて学ぶ。＜準備学習：文献を通して、バウンドテニスのルールについて調査する。＞

第11回：バウンドテニスにおける基礎技術の習得②

サーブとボレーについて学ぶ。＜準備学習：バウンドテニスのシングルの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第12回：ゲーム①

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：バウンドテニスのダブルスの試合について、ユーチューブの動画を確認する。＞

第13回：ゲーム②

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第14回：リーグ戦③

ダブルスでゲームを行う。＜準備学習：撮影した自身のフォームについて、確認する。＞

第15回：授業の総括

実技試験

テキスト

テキストは使用しない。

参考書・参考資料等

神谷勝則監修『基本が身につく：テニス練習メニュー200』（池田書店、2011年）
（図書館）（¥1650）

学生に対する評価

授業の活動状況 60点

ふりかえりシート 20点

レポート 10点

実技試験 10点

合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅰ (バドミントン)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：前田 務 仲田 好邦 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標 (1) ルールを理解しシングルス、ダブルスゲームができる。 (2) 主審の仕方を学び、コールと審判用紙への記載ができる。 (3) 運動・スポーツを通じた健康づくりを実践できる。			
【体育実技共通概要】 ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。			
授業の概要 この授業は、バドミントンの歴史や楽しさ、面白さを知り、生涯スポーツとして、健康づくりに役立てると共に、コミュニケーション、リーダーシップ、課題解決など社会的スキル向上も目標として活動する。前半はバドミントンの基礎を学び、中・後半はルールと審判法を習得し、シングルス及びダブルスのゲームの楽しさを味わう。本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 授業の概要、計画、到達目標、成績評価、受講心得について説明する。また バドミントンの歴史や健康づくり、生涯スポーツとしてのバドミントンの面			

白さ、魅力を解説する。＜準備学習：配布資料を見てバドミントンの歴史を確認する＞

第2回 ラケットの握り方と振り方 シャトルの特性やラケットの握り方・振り方を知り、シャトル拾いや、ラケットの両面を使ったシャトル上げ等を通じて、バドミントンの特性を学習する。＜準備学習：配布資料を見てラケットの握り方・振り方等を確認する＞

第3回 グループ編成、コート設営の仕方、返球の仕方 グループ活動を行うグループ（チーム）を決定し、コート設営等協力して行う。ハイクリア、ドリブンクリア、ドライブ、ドロップショット、スマッシュ、ピン等のストロークを示し、バドミントンの特性を理解する。また、グループ内でペアを組み、ストロークの練習を行う。＜準備学習：配布資料を見てストロークの種類を確認する＞

第4回 サービス練習とグループ内シングルスゲーム（審判練習）① サーブの種類と打ち方を示し、基本練習（クリア、ドライブ、サーブ等）をグループ内で練習する。シングルの審判方法を学習する。グループ内で半面シングルスゲームを行い、ゲームの方法を学習する。＜準備学習：配布資料を見てシングルの審判方法を確認する＞

第5回 サービス練習とグループ内シングルスゲーム（審判練習）② 基本練習（クリア、ドライブ、サーブ等）をグループ内で練習する。主審及び審判用紙の書き方を学習する。シングルのコートを確認する。グループ内で 全面（正式）シングルスゲームを行い、ゲームの方法を学習する。審判用紙の提出。＜準備学習：配布資料を見てシングルのコートと試合の組み立て方、審判用紙の記入方法を確認する＞

第6回 シングルス 2 グループ対抗戦（団体戦） 団体戦の方法、オーダーの組み方と勝敗の決め方を学ぶ。基本練習（クリア、ドライブ、サーブ等）をグループ内で練習する。抽選で対戦チームを決め、オーダー用紙に氏名を記入し団体戦を実施する。審判用紙の提出。＜準備学習：配布資料を見てシングルの試合の組み立て方を確認する＞

第7回 抽選による3～4名対抗シングルスリーグ戦 基本練習（クリア、ドライブ、サーブ等）をグループ内で練習する。リーグ戦の方法、勝敗の決め方を確認する。抽選で対戦グループを決め、リーグ表に氏名を記入しリーグ戦を実施する。リーグ表及び審判用紙の提出。レポートを課す。＜準備学習：配布資料を見てシングルの試合の組み立て方を確認する＞

第8回 ダブルスのコートと試合の進め方 ダブルスのコートを確認する。ダブルスのサービスの練習をする。サービスの順番と得点の記入法の確認。基本練習（サーブ、クリア、ドライブ、スマッシュ、ドロップ、ピン等）をグループ内で練習する。ダブルスのグループ内練習ゲーム。＜準備学習：配布資料を見てダブルスのコート、試合方法及び、審判用紙の記入方法を確認する＞

第9回 ダブルスのフォーメーションと審判練習。グループ内ダブルスゲーム、ダブルスのトップ&バックとサイドバイサイドのフォーメーションの確認。基本練習（サーブ、クリア、ドライブ、スマッシュ、ドロップ、ピン等）をグループ内で練習する。グループ内でペア

を決め、ダブルスのゲームを実施する。審判用紙に記入練習をする。＜準備学習：配布資料を見てダブルスのフォーメーション及び、審判用紙の記入方法の確認＞

第10回 3グループ対抗ダブルスリーグ戦① 基本練習（サーブ、クリア、ドライブ、スマッシュ、ドロップ、ピン等）をグループ内で練習する。グループ内でペアを決め、オーダーを決め、3グループ対抗ダブルスリーグ戦を実施する。主審、線審は試合のないグループが行い、審判用紙への記入練習をする。リーグ表及び審判用紙の提出。＜準備学習：配布資料を見てダブルスのフォーメーション及び、審判用紙の記入方法の確認＞

第11回 3グループ対抗ダブルスリーグ戦② 基本練習（サーブ、クリア、ドライブ、スマッシュ、ドロップ、ピン等）をグループ内で練習する。グループ内でペアを決め、オーダーを決め、3グループ対抗ダブルスリーグ戦を実施する。主審、線審は試合のないグループが行い、審判用紙への記入練習をする。リーグ表及び審判用紙の提出。＜準備学習：配布資料を見てダブルスのフォーメーション及び、審判用紙の記入方法の確認＞

第12回 抽選による3組または4組対抗ダブルスリーグ戦① 基本練習（サーブ、クリア、ドライブ、スマッシュ、ドロップ、ピン等）をグループ内で練習する。抽選でペアを決め、そのペアを3組または4組に分けダブルスのリーグ戦を実施する。主審、線審は試合のないペアが行い、審判用紙への記入練習をする。リーグ表及び審判用紙の提出。＜準備学習：配布資料を見てダブルスのフォーメーション及び、審判用紙の記入方法の確認＞

第13回 抽選による3組または4組対抗ダブルスリーグ戦 テキスト・参考文献 5. 準備学習 6. 成績評価の方法 7. 履修の条件 8. その他 基本練習（サーブ、クリア、ドライブ、スマッシュ、ドロップ、ピン等）をグループ内で練習する。抽選でペアを決め、そのペアを3組または4組に分けダブルスのリーグ戦を実施する。主審、線審は試合のないペアが行い、審判用紙への記入練習をする。リーグ表及び審判用紙の提出。＜準備学習：配布資料を見てダブルスのフォーメーション及び、審判用紙の記入方法の確認＞

第14回 ストロークの実技テスト① グループごとに、ストローク（ショートサーブ、ロングサーブ、ハイクリアー、ドロップ、スマッシュ各2本）の実技テストを実施する。

第15回 ストロークの実技テスト② グループごとに、ストローク（ショートサーブ、ロングサーブ、ハイクリアー、ドロップ、スマッシュ各2本）の実技テストを実施する。

第16回 第15回に引き続き実技テストを実施する。

テキスト

テキストは事前にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

日本バドミントン協会教本編集委員会「バドミントン教本」基本編

学生に対する評価

- ・活動状況（授業への取り組み） 30点
 - ・ゲーム成績 40点 ・実技テスト 15点 欠席6回以上で受験資格を失う
 - ・レポート内容 10点 ・審判用紙記載 5点
- 合 計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅰ（レクリエーションスポーツ）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：東恩納 玲代
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】			
・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標			
1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる【意欲・態度】 2) レクリエーションスポーツを通してコミュニケーションをとり、仲間づくりを行うことができる【コミュニケーション力】 3) レクリエーションスポーツのルールを理解し、グループ内で積極的に動くことができる【知識・理解、意欲・態度】 4) 達成可能な目標設定ができ、解決する努力を実践できる【課題設定力・課題解決力】 5) 健康診断の結果から、自身の心身の健康を管理することができる【自己管理能力】			
【体育実技共通概要】			
・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。			
授業の概要			
スポーツは、人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発露させることができる。また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。本科目では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とする。 本授業では、レクリエーションスポーツを通して、コミュニケーション能力を高め、仲間づくりを行う。また、競技スポーツの概念にとらわれず生涯スポーツとしての運動・スポー			

ツの楽しさや達成感を実感できる環境を作る。さらに、日常生活において身体を動かす習慣を身につけ、生涯にわたって自らの健康を保持・増進できる能力を高めるために、毎回の活動内容や生活習慣（睡眠、栄養、運動）に関する目標設定と振り返りを行う。

授業計画

第1回：オリエンテーション
 第2回：ストレッチ、レクリエーション
 第3回：ドッジビー（ソフトディスク）
 第4回：ゴールドッジ（ソフトディスク）
 第5回：ボールゲーム（バランスボール）
 第6回：インディアカ①
 第7回：インディアカ②
 第8回：ティーボール
 第9回：ソフトバレーボール
 第10回：バウンドテニス
 第11回：タグラグビー①
 第12回：タグラグビー②
 第13回：キックベースボール
 第14回：キンボール
 第15回：まとめ
 定期試験は実施しない。

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜資料を配布する。
 レクリエーションスポーツのルールなどの資料および映像資料は適宜指示する。

学生に対する評価

生活習慣の目標設定と振り返りの内容	45点
毎回の振り返り（グループ活動の取り組みや授業内の目標設定も含む）	50点
活動状況（協調性や積極性も考慮）	5点
合計	100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅰ（卓球）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：玉城 将 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標 1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) 卓球のルールを理解する。【知識・理解】 3) 卓球の基礎技能を身につける。【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】			
【体育実技共通概要】 ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。			
授業の概要 スポーツは、人類が育んだ世界共通の国際文化である。形式知が言語で思考するのに対して、スポーツはそれを含み豊かな感性を発露させることができる。スポーツにおける自己表現は新たな自己の発見となり、またそれを他者と共有することにより連帯が生まれ、豊かな感性と人間性を培うことができる。また、技倆形成と戦術構築には主観と客観を併せ持ち、論理的かつ俯瞰的な視座を有することが求められる。さらに、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果があることが、科学的に証明されている。本授業では、「スポーツ文化を学			

ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値の享受し、文化の担い手となることを目的とする。具体的には（1）卓球の基本的な技術および戦術を学ぶこと（スポーツ文化を学ぶ）、（2）技能・戦術の達成度と課題の分析を通して課題設定力・課題解決力を養うこと（スポーツ文化で学ぶ）、（3）卓球のプレーを通して他者と協働するためのコミュニケーション力を養うこと（スポーツ文化で学ぶ）が本授業における課題となる。

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：ラリーを続ける①

第3回：ラリーを続ける②

第4回：左右の動きに対応する①

第5回：左右の動きに対応する②

第6回：速いボールを打つ

第7回：速いボールを返球する

第8回：ラージボール①

第9回：ラージボール②

第10回：ダブルス①

第11回：ダブルス②

第12回：回転を加える①

第13回：回転を加える②

第14回：回転に対応する

第15回：団体戦

実技試験

テキスト

無し。

参考書・参考資料等

吉田和人（2013）生涯スポーツのための卓球テキスト新装版 NPO法人卓球交流会（571円）

学生に対する評価

- 1) 平常点（課題に取り組む姿勢および他の受講生の学びへの影響度を総合的に評価）：20点
- 2) 振り返りシート（毎授業の最後に提出を求める）：60点
- 3) レポート（全授業で1回提出を求める）：10点
- 4) 実技試験：10点

※ただし、3分の2以上の出席がなければ成績評価の対象とはならない

※欠席の場合は1回につき5点、遅刻の場合は1回につき3点を減点する

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅱ（ジョギング&ウォーキング）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：仲田好邦
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ スポーツを生活の一部とする			
到達目標			
1. スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】			
2. スポーツのルールを理解する。【知識・理解】			
3. スポーツの基礎技能を身につける。【技能】			
4. 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】			
5. 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】			
6. 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。			
【自己管理能力】			
体育実技共通概要】 ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。			
授業の概要			
本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値の享受し、文化の担い手となることを目的とする。生活圏において、身近にできるジョギングもしくはウォーキングを行う。			
本授業は、対面およびMicrosoftTeamsを用いてオンライン&オンデマンドで開講をする。			

スマートフォンアプリ「Runkeeper」を用いて、ジョギングもしくはウォーキングを行う。

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：ストライドとウォーキングの強度について①

第3回：ストライドとウォーキングの強度について②

第4回：ストライドとウォーキングの強度について③

第5回：ストライドとウォーキングの強度について④

第6回：ウォーキング実践①

第7回：ウォーキング実践②

第8回：ウォーキング実践③

第9回：ウォーキング実践④

第10回：ストライドとジョギングのペースについて①

第11回：ストライドとジョギングのペースについて②

第12回：ストライドとジョギングのペースについて③

第13回：ジョギング実習①

第14回：ジョギング実習②

第15回：ジョギング実習③

定期試験は実施しない。

テキスト

適宜、資料を配布・配信する。

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布・配信する。

学生に対する評価

本授業は定期試験を行わない。全15回の授業を通して評価を行う。

成績評価を受けるには、13回以上の出席を必要とする。3回以上の欠席は、「不可」とします

関心・意欲・態度 15点

ふりかえりレポート 5点×15回 75点

期末レポート 10点

合計 100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅱ (バスケットボール)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：石橋千征 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標 本授業のテーマは、バスケットボールを通じて、自身の心身の健康について考え、他者と協力して、授業（ゲーム）を楽しむことである。			
到達目標は ①スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 ②バスケットボールのルールを理解する。【知識・理解】 ③バスケットボールの基礎技能を身につける。【技能】 ④目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】			
授業の概要 スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発露させることができる。また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし、多様性に富んだスポーツ種目を展開する。そのために、ボールハンドリング、パス&キャッチ、シュートなどの基礎技術を身につける。その後、バスケットボール特有のチーム戦術を訓練しつつ、ゲームを中心に講座を進めていく。また、受講生が主体的にゲーム運営にかかわり、受講生全員でバスケットボールを楽しむことができる環境を作り出す。毎回の授業において振り返りシートを記入し、心身の健康を管理する習慣を身につける。			
授業計画 第1回 オリエンテーション：授業の進め方について 授業の概要、到達目標、授業計画と内容、テキスト、準備学習、成績評価の方法、履修条件などを			

説明する。また、グループを編成し、アイスブレイク活動を行う。各グループで授業の準備や後片付けの分担を決定する。

第2回 ファーストゲーム

受講生のスキルレベルを確認するために、ゲームを行う。

第3～4回 ボールハンドリング

ボールハンドリングに関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第5～6回 ドリブル

ドリブルに関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第7～8回 シュート

シュートに関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第9～10回 1on1

1on1に関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第11～12回 コンビプレー

コンビプレーに関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第13～14回 トランジション（攻守の切り替え）

トランジションに関するトレーニングを行い、各個人に合ったスキルレベルを向上させる。トレーニング内容を活かす目的でのミニゲームを実施する。

第15回 ラストゲームとまとめ

受講生のスキルレベルを確認するために、ゲームを行う。ファーストゲームとの違いを振り返る。
定期試験 教員採用試験に頻出のバスケットボールのルールや歴史についての筆記試験

テキスト

実技中心であるため、必要に応じて資料を配布する。また、ビデオやスライドなどの視聴覚教材を使用しながら講義する。

参考書・参考資料等

バスケットボール指導教本 改訂版 （日本バスケットボール協会、大修館書店）

学生に対する評価

- ① 活動状況(グループワークの取り組み) 20点
- ② 振り返りシート（授業後に提出） 30点

③ 知識習得（筆記試験）	50点
合計	100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名：体育実技Ⅱ (フットサル)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：神谷義人 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標			
1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) フットサルのルールを理解する。【知識・理解】 3) フットサルの基礎技能を身につける。【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。 【自己管理能力】			
授業の概要			
スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発露させることができる。また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値の享受し、文化の担い手となることを目的とし、多様性に富んだスポーツ種目を展開している。 フットサルが上手になるための授業ではなく、健康づくりを実践するための一つの手段としてフットサルを用いる。またコミュニケーション、リーダーシップ、課題解決などの社会的スキル向上も目標として活動する。技術面に関して、フットサルの基本技術や基本戦術の理論と実践を学ぶ。フットサルの正式なルールを理解しながら、フットサル独特の足技や動き方を身につけ、それらをゲームで活用できるようにする。			

授業計画

第1回：オリエンテーション ①授業の目的 ②シラバス ③授業の方法 ④登録

第2回：ボールコントロール (1)、ゲーム

個人でのボールタッチ、足裏ドリブルの技術に関して学習する。ボールコントロールを目的としたミニゲームを実施する。

第3回：ボールコントロール (2)、ゲーム

個人でのボールタッチ、足裏ドリブルのトレーニングを行い、ボールコントロールの技術を高める。ドリブルを主体としたミニゲームを行う。

第4回：個人でのボールキープ、ゲーム

ボールタッチ、足裏ドリブルの復習をし、1vs1でのボールキープ技術に関して学習する。ボールキープを主体としたミニゲームを行う。

第5回：キック (1)、ゲーム

各種キック (インサイドキック、トーキック、スプーンキック) の技術について学習し、短い距離のパスやシュートを蹴れるように練習する。練習したキックを主体としたミニゲームを行う。

第6回：キック (2)、ゲーム

各種キック (インサイドキック、トーキック、スプーンキック) の技術について学習し、長い距離のパスやシュートを蹴れるように練習する。練習したキックを主体としたミニゲームを行う。

第7回：チーム戦術 (1)、ゲーム

複数のプレイヤーが関与するプレーについて学習する。今回は攻撃プレイヤー2人、守備プレイヤー2人の状況でのプレーについて扱う。2vs2のミニゲームを行う。各チームで2vs2の練習メニューを作成し、実施する。

第8回：チーム戦術 (2)、ゲーム

複数のプレイヤーが関与するプレーについて学習する。今回は攻撃プレイヤー3人、守備プレイヤー3人の状況でのプレーについて扱う。3vs3のミニゲームを行う。各チームで3vs3の練習メニューを作成し、実施する。

第9～10回：フォーメーション、ゲーム

フットサルにおける各ポジションのプレーについて学習する。各グループでピヴォ (トップ)、アラ (サイド)、フィクソ (バック)、ゴレイロ (ゴールキーパー) を決め、フォーメーション練習を行い、攻撃と守備の動き方を確認する。実戦に近い形でのシュート練習やセットプレーについても練習する。練習したフォーメーションを活用したゲームを行う。

第11～12回：リーグ戦 (1)

6チームによる総当たりのリーグ戦を2週にわたり実施する。

第13～14回：リーグ戦 (2)

6チームによる総当たりのリーグ戦を2週にわたり実施する。

第15回：実技試験、全体の総まとめ

実技試験を行う。また、全15回の総まとめを行う。

テキスト

テキストは使用しない

参考書・参考資料等

- ・フットサル競技規則 2017/18, 日本サッカー協会, 2018 年
(最終閲覧日: 2018 年 2 月 22日) <http://www.jfa.jp/laws/>

学生に対する評価

活動状況（授業への取り組み）	20点
振り返りシート	60点
レポート	10点
実技試験	10点
合計	100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 体育実技Ⅱ（基礎水泳）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 遠矢英憲、比嘉義典 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
【体育実技共通到達目標】 ・ 授業を通じて生涯スポーツの重要性を学び、自らの健康の保持増進を図る。 ・ スポーツを行うことで他者とのコミュニケーション能力を育み、ルールやマナーを理解することで社会性を養う。 ・ スポーツの文化的価値を理解し、「行うスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」についても理解する。			
授業のテーマ及び到達目標			
1) スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となる。【意欲・態度】 2) 水泳およびスポーツダイビング、レスキュー（水難事故予防）の基礎知識を理解する。 【知識・理解】 3) 水泳およびスポーツダイビング、レスキュー（水難事故予防）の基礎技能を身につける 【技能】 4) 目標（課題）を設定し、解決する努力を実践できる。【課題設定力・課題解決力】 5) 他者と協力して、授業を楽しむことができる。【コミュニケーション力】 6) 健康診断結果とふりかえりシートから、自身の心身の健康を管理することができる。【自己管理能力】			
【体育実技共通概要】 ・ スポーツは人類が育んだ世界共通の国際文化であり、豊かな感性を発揮させることができる。 ・ また、習慣的な運動は心身の健康の保持増進に効果がある。 ・ 本授業では、「スポーツ文化を学ぶ」と「スポーツ文化で学ぶ」の二つの側面から、スポーツの文化的価値を享受し、文化の担い手となることを目的とし多様性に富んだスポーツ種目を展開する。			
授業の概要			
本授業は、水泳・水辺野外運動文化を、楽しく、安全に享受するための基礎的な知識・技術の習得を目的とする。			

実技内容としては、一般的な競泳種目であるクロール泳および平泳ぎを基本としながら、水辺野外運動文化への広がりとして、スポーツダイビング（スノーケリング・スキンドイビング）、レスキュー（水難事故予防）を取り扱う。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 泳力チェック -10分間泳-

第3回 Stroke Correction -浮力の上手な利用法, 基本姿勢、けのび-

第4回 Stroke Correction(Crawl) -キック（フィンを利用した練習）-

第5回 Stroke Correction(Crawl) -体軸の意識、プル、キャッチアップクロール-

第6回 Stroke Correction(Crawl) -息継ぎ、コンビネーション（フィンを利用した練習）-

第7回 Sport Diving -スノーケリング①（マスク、スノーケルの使用方法）-

第8回 Sport Diving -スノーケリング②（泳ぎのバリエーション）-

第9回 Sport Diving -スキンドイビング①（潜水方法）-

第10回 Sport Diving -スキンドイビング②（泳ぎのバリエーション、置換法）-

第11回 Rescue -スノーケリングセルフレスキュー（事故想定と対応法）-

第12回 Rescue -自己保全①（浮き時間の計測、浮力体の使用方法）-

第13回 Rescue -自己保全②（平泳ぎ、エレメンタリーバックストローク）-

第14回 Rescue -自己保全③（蹴り足、巻き足、スカーリング、立泳ぎ）-

第15回 Rescue -他者救助（泳げない人でも助けることができる方法、二次事故の予防法）-

第16回 期末レポート提出<期末試験は実施しない>

テキスト

なし

参考書・参考資料等

1. 「4泳法がきれいに泳げるようになる」高橋雄介著、高橋書店、2004年
2. 吉田章、遠矢英憲著、日本スノーケリング協会公認「スノーケリング指導者教本」、財団法人社会スポーツセンター

学生に対する評価

授業への取り組み・受講態度・課題提出状況（80%）

レポート（20%）

合計（100%）

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：玉城本生 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 1) 言語使用の場面で言語使用の目的を達成する文法や頻度の高い語彙を習得する。 2) 意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った音読ができるようにする。 3) 異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することに自立した英語学習者になる。 4) リスニングとリーディングを主に学習する。 5) 社会生活に必要な英語を理解し、使用できるなどの英語運用能力中級程度の習得を目指す。（英検準2級程度、CEFR A2 level、ACTFL 初級の上 程度）			
授業の概要 学習者のレベルに応じて、実際の状況で言語使用の目的を達成する言語の機能を考慮した文法や、頻度の高い語彙、音声と意味を把握した音読を学習する。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書等を読解するリーディング力の基礎を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。			
授業計画 第1回 Orientation(class, LLC)、registration クラス概要、課題や成績評価の詳細説明。到達目標の明示。英語学習における「名桜大学1年生英語学習ハンドブック」の活用法の教授。クラス課題も含め、今後の LLC の活用方針説明。Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第2回 Unit 1 Nice to meet you! (p4 – p9) 英会話で頻出する Be 動詞の現在形を使用した表現(肯定文・否定文・疑問文)の確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第3回 Unit 1 Nice to meet you. Grammar Quiz 1 (以下 Quiz) (p4 – p9) ペア、グループワークでのアクティビティーを通して既習事項の定着を図る。Unit1 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第4回 Unit 2 What do you do? (p10 – p15) 英会話事例を示しながら Wh-からはじまる疑問詞 (what, where, who)の活用確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第5回 Unit 2 What do you do? Quiz 2 (p10 – p15) Wh-からはじまる疑問詞 (what, where, who)を用いた疑問文の音の把握。Unit2 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第6回 Unit 3 Do you like spicy food? (p16 – p21) 食に関する単語の確認。一般動詞を活用した疑問文とその答え方の確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。			

用。

第7回 Unit 3 Do you like spicy food? Quiz 3

Unit3 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第8回 Review Units 1-3 (p22 – p23)

Unit1 – unit3 までの既習事項を、演習を通して復習し定着を図る。リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第9回 Unit 4 How often do you do yoga? (p24 - 29)

スポーツに関する単語の確認。活動する頻度や回数を尋ねる表現を確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第10回 Unit 4 How often do you do yoga? Quiz 4 (p24 - 29)

Unit4 の既習事項の習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第11回 Unit 5 What are you watching? (p30 - p35)

英語での日常的な行動表現を確認。現在進行形を用いた表現・活用を確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第12回 Unit 5 What are you watching? Quiz 5 (p30 - p35)

演習を通して既習事項の定着を図る。Unit5 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。第13回 Unit 6 Where were you yesterday? (p36 – p41) 英会話で頻出する Be 動詞の過去形を使用した表現(肯定文・否定文・疑問文)の確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第14回 Unit 6 Where were you yesterday? Quiz 6 (p36 – p41)

演習を通して既習事項の定着を図る。Unit6 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第15回 Review Units 4-6 (p42 – p43)

Unit4 – unit6 までの既習事項を演習を通して復習し定着を図る。リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第16回 Unit 7 Which one is cheaper? (p44 – p49)

衣類に関する英単語を確認。比較級の表現・活用法を学習。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第17回 Unit 7 Which one is cheaper? Quiz 7(p44 – p49)

演習を通して既習事項の定着を図る。Unit7 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第18回 Unit 8 What's she like?(p50 – p55)

容姿を表現する英単語を確認。"be + like (～のような雰囲気)" "look + like(～のように見える・似ている)" の表現の違いを理解する。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第19回 Unit 8 What's she like? Quiz 8(p50 – p55)

演習を通して既習事項の定着を図る。Unit8 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第20回 Unit 9 What can you do there? (p56 – p61)

建物を表す英単語の確認。"can"を用いた肯定文・否定文・疑問文とその返答の表現を学習。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第21回 Unit 9 What can you do there? Quiz 9 (p56 – p61)

演習を通して既習事項の定着を図る。Unit9 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。Google classroom, Google meet, Google form の活用。

第22回 Review Units 7-9 (p62 – p63)

Unit7 – unit9 までの既習事項を、演習を通して復習し定着を図る。リスニング演習問題

や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 23 回 Unit 10 Is there a bank near here? (p64 – p69) 日常英会話や道案内等で頻出する店名の英語表現を確認。”There is/are ～. (～があります)” の活用法や表現を学習。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 24 回 Unit 10 Is there a bank near hear? Quiz 10 (p64 – p69) 演習を通して既習事項の定着を図る。Unit10 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 25 回 Unit 11 Did you have a good time? (p70 – p75) 過去の出来事についての表現を学習する。一般動詞を用いた過去形の肯定文・疑問文と返答の方法について理解を深める。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 26 回 Unit 11 Did you have a good time? Quiz 11 (p70 – p75) 演習を通して既習事項の定着を図る。Unit11 の既習事項の到達・習熟を計る Grammr Quiz を実施。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 27 回 Unit 12 I’m going to go by car. (p76 – p81) 日常目のあたりにする乗り物を表す英単語を確認。”be going to ～”を用いた肯定文・疑問文とその返答の方法について理解を深め、その表現を学習する。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 28 回 Unit 12 I’m going to go by car. Quiz 12 (p76 – p81) 演習を通して既習事項の定着を図る。Unit12 の既習事項の到達・習熟を計る Grammar Quiz を実施。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 29 回 Review Units 10-12 (p82 – p83) 演習を通して復習し定着を図る。リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートテイキングの方法を学習する。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 第 30 回 Review 1-12 (p4 – p83) Unit1 – unit12 までの既習事項を演習を通して復習し定着を図る。演習問題を活用して楽器待つテストへ向けて準備を進める。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。 期末テスト(p4 – p83) 講義を通して学習した事項についての到達や習熟を計るための試験を行う。 Google classroom, Google meet, Google form の活用。											
テキスト SMART CHOICE 3rd edition Student Book I (オックスフォード大学出版社)											
参考書・参考資料等 講義内で適宜配布する (担当者が独自で作成)											
学生に対する評価 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>講義内活動への参画 (worksheet 及び Google form の 提出)</td><td style="text-align: right;">20 点</td></tr> <tr> <td>Grammar Quiz (全 12 回)</td><td style="text-align: right;">25 点</td></tr> <tr> <td>教科書オンライン課題への取り組み(全 12 unit)</td><td style="text-align: right;">25 点</td></tr> <tr> <td>期末テスト</td><td style="text-align: right;">30 点</td></tr> <tr> <td></td><td style="text-align: right;">計 100 点</td></tr> </table>		講義内活動への参画 (worksheet 及び Google form の 提出)	20 点	Grammar Quiz (全 12 回)	25 点	教科書オンライン課題への取り組み(全 12 unit)	25 点	期末テスト	30 点		計 100 点
講義内活動への参画 (worksheet 及び Google form の 提出)	20 点										
Grammar Quiz (全 12 回)	25 点										
教科書オンライン課題への取り組み(全 12 unit)	25 点										
期末テスト	30 点										
	計 100 点										

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：笠村 淳子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
① 言語使用の場面で、その目的を達成する文法や頻度の高い語彙を修得する ② 意味の区切りを理解し、英語の音声の特性にあった音読ができるようにする ③ 異文化理解や理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することを通し、 自立した英語学習者になる ④ リスニングとリーディングを中心に学習する ⑤ 小さな文法ミスはあるものの、長い文章を駆使し、基本的なコミュニケーションができる ようになる (ACTFL Intermediate-Mid, CEFR A1~B1 level)			
授業の概要			
学習者のレベルに応じて、実際の使用場面に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮 した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特性にあつ た音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基 礎力と英語で専門書や説明書等を読解するリーディング力の基礎を養う。			
授業計画			
授業内容：講義の前半は英語の基礎 (Basic English) として教科書の文法とリスニングをメインに行 い、後半は具体的なリーディングスキルについて学び、活動によって応用する。 課題：教科書付属のオンラインプラクティスおよびユニットテストによって、基礎英語力を自主学習 として復習する。LLCのチュータリングの課題では、実際に読んだ英語の書物の内容について ディスカッションをすることで、「読む」ことの楽しさを味わえるようにする。多読多聴の課 題は、毎講義開始時にペアワークとして実践した多読多聴を紹介し合い、英文読書の楽しさを 互いに実感できる機会を提供することで、多読多聴の活動を促進する。 第1回：オリエンテーション1：授業概要と達成目標の提示 + LLCオリエンテーション (ハイブリッド授業) 第2回：Unit 1 “I’ve been running.” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Guidelines for Learning Vocabulary) (ハイブリッド授業) 第3回：Unit 1 “I’ve been running.” + 多読多聴シェアリング + Thinking in English skill (ハイブリッド授業)			

- 第4回:Unit 2 “I wonder what it’s about.” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Previewing) (ハイブリッド授業)
- 第5回:Unit 2 “I wonder what it’s about.” + Thinking in English skill + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業)
- 第6回:Unit 3 “It was painted by Banksy.” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Learning Words from Your Reading) (ハイブリッド授業)
- 第7回:Unit 3 “It was painted by Banksy.” + Thinking in English skill + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業)
- 第8回:Unit 1- Unit 3 復習 + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業)
- 第9回:Unit 4 “Who’s your best friend?” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Scanning) (ハイブリッド授業)
- 第10回:Unit 4 “Who’s your best friend?” + Thinking skills + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業) *Online Test 1 締め切り
- 第11回:Unit 5 “Gotta have it!” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Guessing Meaning from Context) (ハイブリッド授業) *課題シート1 提出日
- 第12回:Unit 5 “Gotta have it!” + Thinking in English skill + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業)
- 第13回:Unit 6 “He’d never been abroad.” + 多読多聴シェアリング + リーディングクイズ (Making Inferences) (ハイブリッド授業)
- 第14回:Unit 6 “He’d never been abroad.” + 多読多聴シェアリング + Thinking in English skill (ハイブリッド授業)
- 第15回:Unit 4-Unit 6 復習 + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業)
- 中間テスト (オンラインのみあるいは対面のみ授業)
- 第16回:Unit 7 “Time for a new look!” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Words Speech) (ハイブリッド授業)
- 第17回:Unit 7 “Time for a new look!” + Thinking in English skill + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業) *Online Test 2 締め切り
- 第18回:Unit 8 “My life would be great!” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (Focusing on the Topic) (ハイブリッド授業)
- 第19回:Unit 8 “My life would be great!” + Thinking in English skill + 多読多聴シェアリング (ハイブリッド授業)
- 第20回:Unit 9 “What would you have done?” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル (How Words Are Used Together) (ハイブリッド授業) *課題シート2 提出日
- 第21回:Unit 9 “What would you have done?” + Thinking in English skills + 多読多

聴シェアリング（ハイブリッド授業）

第22回：Unit 7-Unit 9 復習 + 多読多聴シェアリング（ハイブリッド授業）

第23回：Unit 10 “Anything’s possible.” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル（Understanding Paragraphs）（ハイブリッド授業）

第24回：Unit 10 “Anything’s possible.” + Thinking in English skill + 多読多聴シェアリング（ハイブリッド授業）*Online Test 3 締め切り

第25回：Unit 11 “What would have happened?” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル（How Words Work in Sentences）（ハイブリッド授業）

第26回：Unit 11 “What would have happened?” + 多読多聴シェアリング + リーディングスキル（Identifying the Pattern）（ハイブリッド授業）

第27回：Unit 12 “He said he was a movie star!” + 多読多聴シェアリング（ハイブリッド授業）

第28回：Unit 12 “He said he was a movie star!” + 多読多聴シェアリング（ハイブリッド授業）

第29回：Unit 10 to Unit 12 復習 + 多読多聴シェアリング（ハイブリッド授業）

第30回：Review unit 1 to unit 12 復習 + 多読多聴シェアリング（ハイブリッド授業）
*Online Test 4 締め切り *課題シート3提出日

期末テスト（オンラインのみ、あるいは対面のみ授業）

テキスト

Smart CHOICE 3rd ed., Student book 3, with Online Practice, Oxford University Press, 2020. ISBN: 978-0-19-406129-2, 価格 3,175円（個人のオンラインシリアル番号は各教科書についていますので要注意）

参考書・参考資料等

Reading power 2, L. Jeffries & B.S. Mikulecky, Pearson, 2009.（※必要に応じてさまざまな教材のプリント配）, Online 教材（YouTubeなど）

学生に対する評価

中間試験	20 点
期末試験	20 点
課題（LLC+多読多聴）	30 点
Online Practice (SC)	10 点
Online Test (SC)	20 点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：武村 明子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
①言語使用の場面でその目的を達成する文法や頻度の高い語彙を習得する。			
②意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った音読ができるようにする。			
③異文化理解や理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することを通し、自立した英語学習者になる。			
④リスニングとリーディングを主に学習する。			
⑤小さな文法的ミスはあるものの、長いセンテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができるようになる。(ACTFL Intermediate-Mid (CEFR B1) level)			
授業の概要			
学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特徴にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書等を読解するリーディングの基礎力を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。本科目は、ハイブリッド型授業に対応し、Classroom等を利用して講義・演習（ペア・グループワーク）を行います。本科目は、講義実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深めていきます。			
授業計画			
第1回 登録・オリエンテーション、LLCオリエンテーション（授業登録、シラバス及び課題の説明、LLCの活用法について）			
第2回 Unit 1 I've been running.（様々な趣味についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習）			
第3回 Unit 1 I've been running（リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。）			
第4回 Unit 2 Do you know what it's about?（テレビ番組やSNSについての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習） / Quiz 1（Unit 1）			

- 第5回 Unit 2 Do you know what it's about? (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第6回 Unit 3 It was painted by Banksy. (芸術についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 2 (Unit 2)
- 第7回 Unit 3 It was painted by Banksy. (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第8回 Review Units 1-3 (Unit 1・3の既習事項の復習。ペア・グループアクティビティやリスニング、音読を行う。) / Quiz 3 (Unit 3)
- 第9回 Unit 4 Who's your best friend? (友人、知人を描写、説明する内容の会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習)
- 第10回 Unit 4 Who's your best friend? (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第11回 Unit 5 Gotta have it! (日常生活で使われるハイテク機器についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 4 (Unit 4)
- 第12回 Unit 5 Gotta have it! (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第13回 Unit 6 He'd never been abroad. (日常起こる出来事や、旅先で起こる出来事についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 5 (Unit 5)
- 第14回 Unit 6 He'd never been abroad. (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第15回 Review Units 4-6 (Unit 4・6の既習事項の復習。ペア・グループアクティビティやリスニング、音読を行う。) / Quiz 6 (Unit 6)
- 第16回 Unit 7 Time for a new look! (他人の外観、容姿についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習)
- 第17回 Unit 7 Time for a new look! (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第18回 Unit 8 My life would be great! (住んでいる町や住宅周辺の様子についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 7 (Unit 7)
- 第19回 Unit 8 My life would be great! (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)
- 第20回 Unit 9 What would you have done? (すでに起こった事柄に対する後悔の気持ち、その事柄に関する解決策についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記

述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 8 (Unit 8)

第21回 Unit 9 What would you have done? (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)

第22回 Review Units 7-9 (Unit 7・9の既習事項の復習。ペア・グループアクティビティやリスニング、音読を行う。) / Quiz 9 (Unit 9)

第23回 Unit 10 Anything's possible. (神秘的なこと、不可解なことについての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習)

第24回 Unit 10 Anything's possible (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)

第25回 Unit 11 What would have happened? (発明品についての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 10 (Unit 10)

第26回 Unit 11 What would have happened? (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。) 2022/03/02 13:55 UNIVERSAL PASSPORT RX <https://mup.meio-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml> 2/2 4. テキスト・参考文献 5. 準備学習 6. 成績評価の方法 7. 履修の条件 8. その他

第27回 Unit 12 He said he was a movie star! (ニュースについての会話、記事を理解するための語彙、文法の確認。記述問題、リスニング問題を用いた演習) / Quiz 11 (Unit 11)

第28回 Unit 12 He said he was a movie star! (リーディング記事を用いた内容理解及び音読、ペア・グループワークでのアクティビティを通して既習事項の定着を図る。)

第29回 Review Units 10-12 (Unit 10・12の既習事項の復習。ペア・グループアクティビティやリスニング、音読を行う。) / Quiz 12 (Unit 12) / Film (実話に基づいて描かれた映画を鑑賞し、ワークシートを提出する)

第30回 Film (実話に基づいて描かれた映画を鑑賞し、ワークシートを提出する)

期末試験： ＊ハイブリッド型授業対応授業資料、課題はUniversal Passport (授業資料) (課題管理) に掲示するので確認すること 定期試験

テキスト

SMART CHOICE 3rd edition, Student book 3, オックスフォード大学出版社(¥3,630)

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・ 受講姿勢（傾聴力・発信力など） 30点
- ・ クイズ 30点
- ・ 課題 20点
- ・ 期末試験 20点
- 合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： ベーシック・ イングリッシュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：名城 義久 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 言語使用の場面で言語使用の目的を達成する文法や頻度の高い語彙を学習する。 2) 意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った音読ができるようにする。 3) 異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することに自立した英語学習者になる。 4) リーディングとリスニングを主に学習する。 5) ACTFL中級の下、CEFR A2-B1 のレベルを目指す。			
授業の概要			
学習者のレベルに応じて、実際の言語使用に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特徴にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモを取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書を理解するリーディング力の基礎を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した学習者になる態度を養う。「本科目は、ウイング英会話スクールで28年の勤務経験を活かし、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める」「本科目は、ハイブリッド型授業（面接授業と遠隔授業の混成型）対応となる」「本科目は、TeamsとUniversal Passportを使用して、講義・演習（グループワーク）形式で授業を行います。」			
授業計画			
第1回 Orientation、クラスの概要、課題や成績評価の詳細説明、到達目標の明示, Smart Choice Online Practiceの説明、講義（語学を学ぶ目的、コミュニケーションについて、モチベーションについて）			
第2回 Unit 1 Nice to meet you!（pp.4-9）英会話で頻出するBe動詞の現在形を使用した表現（肯定文・否定文・疑問文）の確認。記述問題やリスニング問題を用いての演習。			
第3回 Unit 1 Nice to meet you. Vocabulary quiz 1（pp.4-9）ペア、グループワークでのアクティビティー（AL）を通して既習事項の定着を図る。（ICT活用）			
第4回 Unit 2 What do you do?（pp. 10-15）英会話事例を示しながらWh-からはじまる疑問文（what, where, who）の活用確認。記述問題やリスニング問題を用			

いて演習を行う。(ICT活用)

第5回 Unit 2 What do you do? Vocabulary quiz 2 (pp.10-15) Wh-からはじまる疑問文 (what, where, who) を用いた疑問文の音の把握。ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第6回 Unit 3 Do you like spicy food? (pp.16-21) 食に関する単語の確認。一般動詞を活用した疑問文とその答え方の確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第7回 Unit 3 Do you like spicy food? Vocabulary quiz 3 (pp.16-21) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第8回 Review Units 1-3 (pp.22-23) Unit1-Unit4までの既習事項をペア、グループホームのアクティビティー (AL)を通して復習し定着を図る。リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートティキングの方法を学習する

第9回 Unit 4 How often do you do yoga? (pp.24-29) スポーツに関する単語の確認。活動する頻度や回数を尋ねる表現を確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第10回 Unit 4 How often do you do yoga? Vocabulary quiz 4 (pp.24-29) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第11回 Unit 5 What are you watching? (pp.30-35) 英語での日常的な行動表現を確認。現在進行形を用いた表現・活用を確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第12回 Unit 5 What are you watching? Vocabulary quiz 5 (pp. 30-35) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第13回 Unit 6 Where were you yesterday? (pp.36-41) 英会話で頻出するBe動詞の過去形を使用した表現(肯定文・否定文・疑問文)の確認。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第14回 Unit 6 Where were you yesterday? Vocabulary quiz 6 (pp.36-41) ペア、グループワークのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第15回 Review Units 4-6 Vocabulary quiz 7 (pp.42-43) Unit4-Unit6までの既習事項をペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して復習し定着を図る。リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートティキングの方法を学習する。

第16回 Unit 7 Which one is cheaper? (pp.44-49) 衣類に関する英単語を確認。比較級の表現・活用法を学習。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第17回 Unit 7 Which one is cheaper? Vocabulary quiz 8 (pp.44-49) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第18回 Unit 8 What's she like? (pp.50-55) 容姿を表現する英単語を確認。 "be + like

(～のような雰囲気) “ ”look+like(～のように見える・似ている)“の表現の違いを理解する。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第19回 Unit 8 What's she like? Vocabulary quiz 9 (pp..50-55) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第20回 Unit 9 What can you do there? (pp..56-61) 建物を表す英単語の確認。 “can”を用いた肯定文・否定文・疑問文とその返答の表現を学習。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第21回 Unit 9 What can you do there? Vocabulary quiz 10 (pp.56-61) ペア、グループワークでアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第22回 Review Units 7-9 (pp..62-63) Unit7-Unit9までの既習事項をペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して復習し定着を図る。スキミング、スキヤニングについて理解を深める。

第23回 Unit 10 Is there a bank near here? Vocabulary quiz 11 (pp..64-69) 日常英会話や道案内等で頻出する店名や英語表現を確認。 “There is/are ～ (～あります)”の活用法や表現を学習。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第24回 Unit 10 Is there a bank near hear? (pp..64-69) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第25回 Unit 11 Did you have a good time? Vocabulary quiz 12 (pp.70-75) 過去の出来事についての表現を学習する。一般動詞を用いた過去形の肯定文・疑問文とその返答の方法について理解を深める。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第26回 Unit 11 Did you have a good time? (pp.70-76) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL) を通して既習事項の定着を図る。(ICT活用)

第27回 Unit 12 I'm going to go by car. Vocabulary quiz 13 (pp.76-81) 日常、目のあたりにする乗り物を表す英単語を確認。“be going to ～”を用いたテキスト・参考文献 5. 準備学習 6. 成績評価の方法 7. 履修の条件 8. その他 肯定文・疑問文とその返答の方法について理解を深め、その表現を学習する。記述問題やリスニング問題を用いて演習を行う。(ICT活用)

第28回 Unit 12 I'm going to go by car. (pp.76-81) ペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して既習事項の定着を図る。

第29回 Review Units 10-12 Vocabulary quiz 14 (pp.82-83) Unit 10-Unit 12までの既習事項をペア、グループワークでのアクティビティーを通して復習し定着を図る。リスニング演習問題や視覚教材を活用して、ノートティキングの方法を学習する。

第30回 Review 1-6 (pp.4-43) Unit 1-Unit 6までの既習事項をペア、グループワークでのアクティビティー (AL)を通して復習し定着を図る。

第31回 Review 7-12 (pp.44-83) Unit 7-Unit 12までの既習事項をペア、グループワークでの

アクティビティー (AL)を通して復習し定着を図る。 期末テスト：講義を通して学習した事項についての到達や習熟を計るための試験を行う
テキスト SMART CHOICE 3rd edition Student Book I (オックスフォード大学出版社) 3,300円(税別)
参考書・参考資料等 参考資料などは必要に応じて配布します。
学生に対する評価 ・受講姿勢（発言力・協調性・傾聴力など） 20点 ・Vocabulary Quiz（全8回） 25 点 ・Smart Choice （Activities） 10点 ・LLC課題（Reading assignment） 10点 ・TED課題（ Listening assignment） 10点 ・期末テスト 25点 ・合計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： イングリッシュ・コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ウィルソン・クリストファー・アンドリュース 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業の概要 1) 学習者の CEFR レベルに応じて、教材の提示、指導方法や評価を工夫する。 2) 実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力や英作文の能力を伸長する。 3) 英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。 4) 論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業計画 シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。 1. Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero) (Pair Work & Group Discussion) 1. 授業の概要: 学習目標とストラテジー (ユニット0) (ペアワーク & グループディスカッション) 2. Meeting people/introducing yourself. (Unit 1) (Pair Work & Group Discussion) 2. 人に会う/自己紹介する (ユニット1) (ペアワーク & グループディスカッション) 3. Meeting people/asking about other people (Unit 1) Mini Test (Pair Work & Group Discussion) 3. 人に会う/他の人について質問する (ユニット1) ミニテスト (ペアワーク & グループディスカッション) 4. Describing people – physical appearance (Unit 2) (Pair Work & Group Discussion) 4. 人を描写する - 外見 (ユニット2) (ペアワーク & グループディスカッション) 5. Describing people – personality and character (Unit 2) Mini Test (Pair Work &			

Group Discussion)

5. 人を描写する - 人格と性格 (ユニット2) ミニテスト (ペアワーク & グループディスカッション)
6. Review, Units 1 & 2 + fluency expansion (Pair Work & Group Discussion)
6. 復習、ユニット1 & 2 + 流暢さの拡張 (ペアワーク & グループディスカッション)
7. Schedules and frequency - personal schedule (Unit 3) • Mini Test (Pair Work & Group Discussion)
7. スケジュールと頻度 - 個人スケジュール (ユニット3) • ミニテスト (ペアワーク & グループディスカッション)
8. Stating locations - describing differences between two places (Unit 4) (Pair Work & Group Discussion)
8. 場所を述べる - 2つの場所の違いを説明する (ユニット4) (ペアワーク & グループディスカッション)
9. Stating locations - personal space (Unit 4) Mini Test (Pair Work & Group Discussion)
9. 場所を述べる - 個人的な場所 (ユニット4) ミニテスト (ペアワーク & グループディスカッション)
10. Review, Units 4 & 5 + fluency expansion (Pair Work & Group Discussion)
10. 復習、ユニット4 & 5 + 流暢さの拡張 (ペアワーク & グループディスカッション)
11. Giving directions - following map directions (Unit 5) Mini Test (Pair Work & Group Discussion)
11. 道案内をする - 地図の道順に従う (ユニット5) ミニテスト (ペアワーク & グループディスカッション)
12. Giving directions - giving and understanding directions (Unit 5) (Pair Work & Group Discussion)
12. 道案内をする - 道順を教えて理解する (ユニット5) (ペアワーク & グループディスカッション)
13. Talking about past events Mini Test (Pair Work & Group Discussion)
13. 過去の出来事について話す ミニテスト (ペアワーク & グループディスカッション)
14. Describing personal experiences (Unit 6) (Pair Work & Group Discussion)
14. 個人的な体験を説明する (ユニット6) (ペアワーク & グループディスカッション)
15. Self-introduction presentations. Mini Test
15. 自己紹介プレゼンテーション。ミニテスト
16. Self-introduction presentations.
16. 自己紹介プレゼンテーション。

17. Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7) Mini Test
(Pair Work & Group Discussion)
17. 能力と関心事 – 仕事のスキルの情報交換 (ユニット7) ミニテスト
(ペアワーク & グループディスカッション)
18. Abilities and interests – describing jobs (Unit 7)
(Pair Work & Group Discussion)
18. 能力と関心事 – 仕事の説明 (ユニット7) (ペアワーク & グループディスカッション)
19. Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8)
Mini Test (Pair Work & Group Discussion)
19. 招待と好み – エンターテイメント情報の特定 (ユニット8) ミニテスト
(ペアワーク & グループディスカッション)
20. Plan an event and invite people (Unit 8) (Pair Work & Group Discussion)
20. イベントを計画して人を招待する (ユニット8)
(ペアワーク & グループディスカッション)
21. Review, mini-test: Units 7 & 8 + fluency expansion Mini Test
(Pair Work & Group Discussion)
21. 復習、ミニテスト: ユニット7 & 8 + 流暢さの拡張 ミニテスト
(ペアワーク & グループディスカッション)
22. Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities
(Unit 9) (Pair Work & Group Discussion)
22. 将来の計画と予測 – 休暇の計画と活動の特定 (ユニット9)
(ペアワーク & グループディスカッション)
23. Future plans and predictions – predicting future events (Unit 9) Mini Test
(Pair Work & Group Discussion)
23. 将来の計画と予測 – 将来の出来事を予測する (ユニット9) ミニテスト (ペアワーク
& グループディスカッション)
24. Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10)
(Pair Work & Group Discussion)
24. ショッピング – 価格を理解し、買い物の決断を推測する (ユニット10)
(ペアワーク & グループディスカッション)
25. Shopping – talking about shopping preferences and experiences (Unit 10)
Mini Test (Pair Work & Group Discussion)
25. ショッピング – 買い物の好みと体験を話す (ユニット10) ミニテスト
(ペアワーク & グループディスカッション)
26. Review, Units 9 & 10 + fluency expansion (Pair Work & Group Discussion)

26. 復習、ユニット9 & 10 + 流暢さの拡張 (ペアワーク & グループディスカッション)
27. Describing processes – food and cooking (Unit 11) Mini Test
27. プロセスの説明 – 食品と料理 (ユニット11) ミニテスト
28. Describing process – following instructions (Unit 11)
(Pair Work & Group Discussion)
28. プロセスの説明 – 指示に従う (ユニット11)
(ペアワーク & グループディスカッション)
29. Music – Giving opinions about music (Unit 12) Mini Test
(Pair Work & Group Discussion)
29. 音楽 – 音楽について意見を述べる (ユニット12) ミニテスト
(ペアワーク & グループディスカッション)
30. Final presentations Mini Test
30. 期末プレゼンテーションのミニテスト
31. Final presentations
31. 期末プレゼンテーション
32. Final presentations Mini Test
32. 期末プレゼンテーション ミニテスト

テキスト

English Firsthand 1(FIFTH EDITION, Helgesen, Brown & Mandeville (Pearson)
English Firsthand 1(FIFTH EDITION, Helgesen著、Brown & Mandeville (Pearson)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

・ Vocabulary tests	40%	・	語彙テスト40%	・
・ Self-introduction	20%		自己紹介20%	・
・ Listening & note-taking	10%		リスニングとメモ取り10%	
・ Presentation	20%	・	プレゼンテーション20%	・
・ Listening & note-taking	10%		リスニングとメモ取り10%	

授業科目名： イングリッシュ・ コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：名城 義久 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育教員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業の概要			
1) 学習者の CEFR レベルに応じて、教材の提示、指導方法や評価を工夫する。 2) 実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力や英作文の能力を伸長する。 3) 英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。 4) 論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業計画			
第1回 Orientation, クラスの概要、課題や成績評価の詳細説明、到達目標の明示、講義：語学を学ぶ目的、コミュニケーションについて、モチベーションについて。			
第2回 Unit 1 機内（CAとの会話、隣の席の乗客と話す）、Vocabulary Check, Dialogue, Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。ICT活用			
第3回 Unit 1 税関申告書、ニューヨークを紹介する文→Reading Comprehension			
第4回 Unit 2 到着（JFK）（到着内容を確認する、入国審査）、Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。 Useful Expressions Quiz 1 ICT活用			
第5回 Unit 2 空港ターミナルのサイン、タケシとケイトのEメール→ Reading Comprehension			
第6回 Unit 3 ケイトと再会（空港でのケイトとの再会、ケイトの家に到着）、 Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。 ペアワーク。アクティビティ（ラインズ）ICT活用			
第7回 Unit 3 新聞の天気図、華氏と摂氏についての説明文 → Reading Comprehension, Useful Expressions Quiz 2			
第8回 Unit 4 自由の女神（2階建てバスに乗る、フェリーに乗る）、Vocabulary Check,			

Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。アクティビティ
(ラインズ) ICT活用

第9回 Unit 4 フェリーターミナルのサイン、自由の女神の説明文→Reading Comprehension

第10回 Unit 6 レストラン (レストランの予約、注文)、Vocabulary Check, Dialogue、
Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。
アクティビティ (ラインズ)。Useful Expressions Quiz 3

第11回 Unit 6 レストランのレシート、メニュー →Reading Comprehension ICT活用

第12回 スピーチの構成について、ドラフト作成 (グループワーク) (アクティブラーニング)

第13回 ドラフト作成 (グループワーク) ←リサーチ (アクティブラーニング)

第14回 口頭発表準備

第15回 中間試験：口頭発表 (スピーチ) : 3分発表+1分質疑応答

第16回 中間試験：口頭発表 (スピーチ) : 3分発表+1分質疑応答

第17回 Unit 7 ミュージカル (チケット売り場で、幕間にケイトと話す)、
Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。
ペアワーク。アクティビティ (ラインズ) ICT活用

第18回 Unit 7 ミュージカルのチケット、ミュージカルのパンフレット →
Reading Comprehension

第19回 Unit 8 体調不良 (体調をケイトに伝える、ドラッグストアで店員との会話)
Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。
ペアワーク。アクティビティ (ラインズ)。Useful Expressions Quiz 4 ICT活用

第20回 Unit 8 薬に書かれている情報、健康センターを案内する文→
Reading Comprehension

第21回 Unit 9 スーパーでの買い物 (買い物リスト、お店の人に品物の売り場を尋ねる。
Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。
ペアワーク。アクティビティ (ラインズ) ICT活用

第22回 Unit 9 買い物のクーポン券、スーパーマーケットの広告→
Reading Comprehension、Useful Expressions Quiz 5

第23回 Unit 10 スポーツ観戦 (地下鉄に乗る、チームについてケイトと話す)
Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。
ペアワーク。アクティビティ (ラインズ) ICT活用

第24回 Unit 10 オンラインチケット申し込み情報、ニューヨーク・ヤンキースを紹介
する文→Reading Comprehension、

第25回 Unit 11 別れの言葉 (ケイトの家族、タクシーで駅へ) Vocabulary Check,
Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。
アクティビティ (ラインズ)。Useful Expressions Quiz 6 ICT活用

- 第26回 Unit 11 タクシーの掲示、ワシントンDCを紹介する文→Reading Comprehension、
- 第27回 Unit 12 ホテル（チェックイン、部屋のエアコンの故障） Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。
アクティビティ（ラインズ） ICT活用
- 第28回 Unit 12 ホテルのWelcome Card、ホテルの電話の案内→Reading Comprehension、Useful Expressions Quiz 7
- 第29回 Unit 13 ホワイトハウス（他の旅行者と話す、落し物） Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。
アクティビティ（ラインズ） ICT活用
- 第30回 Unit 14 大学訪問（Admission Office を訪ねる、大学生活について質問する） Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。
ペアワーク。アクティビティ（ラインズ） ICT活用
- 第31回 Unit 15 帰国（チェックインカウンター、免税店） Vocabulary Check, Dialogue、Listening Comprehension等で仕上げる。ペアワーク。
アクティビティ（ラインズ）。 Useful Expressions Quiz 8 ICT活用
- 第32回 期末試験（スキットテスト）。
「ハイブリット型授業（対面授業と遠隔授業の混成型）対応」「授業資料と課題は Universal Passport（授業資料）（課題管理）に提示するので確認すること。

テキスト

- ・『Let's Go Abroad !』：センゲージ・ラーニング株式会社、2011年、定価2,100円

参考書・参考資料等

- ・参考文献・参考資料などは必要に応じて配布します。

学生に対する評価

- ・活動内容 10点
- ・クイズ(8回) 20点
- ・LLC課題（Reading assignment） 10点
- ・TED課題（Listening assignment） 10点
- ・中間試験 25点
- ・期末試験 25点
- 合計 100点

授業科目名： イングリッシュ・コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：玉城本生 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業の概要 1) 学習者の CEFR レベルに応じて、教材の提示、指導方法や評価を工夫する。 2) 実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力や英作文の能力を伸長する。 3) 英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。 4) 論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション（シラバス・課題・LLC活用・評価項目） クラス概要、課題や成績評価の詳細説明。到達目標の明示。クラス課題も含め、今後の LLC の活用方針説明。 第2回 Unit 1 – The way we are (pages 1-5) Grammar Quiz1(以下 Q と表す) 副詞・形容詞の活用方法：人物の気持ちや性格を描写する表現 Google classroom, meet, 及び Zoom を活用 第3回 Unit 1 – The way we are (pages 6-10) 単語 “always” と動詞の進行形を活用した口頭表現。単語 “at least” を活用した肯定的な情景描写。Google classroom, meet, PPT を活用 第4回 Unit 2 – Experiences (pages 11-15)Q 現在完了形を活用した「経験」や「夢（密かな目標）」の英語表現。また、現在完了形の疑問文を用いた「経験」を問う質問方法。Google classroom, meet, PPT を活用 第5回 Unit 2 – Experience (pages 16-20) 途切れず英会話を続ける戦略 ・“Do you?” and “Have you?” を用いた肯定的な相槌の表現 第6回 Unit 3 – Wonders of the world (pages 21-25)Q 地域や自国の “the best”, “worst”, and “most beautiful things”の英語表現 ・自然の特徴を描写する方法。Google classroom, meet, PPT を活用 第7回 Unit 3 – Wonders of the world (pages 26-30) “really” and “sure” を用いて肯定的な賛同を示す英会話戦略。・形容詞の最上級を用いて自身の意見や気持ちを表現する方法。Google classroom, meet, PPT を活用 第8回 Unit 4 – Family life (pages 33-36)Q “let”, “make”や “help”, “have”, “get”, “want”, “ask”, and “tell” 用いて家族を描写する方法・身内、近親者を含む親族（拡大家族）について語る英語表現。Google classroom, meet, PPT を活用 第9回 Unit 4 – Family life (pages 36-42) ※ Individual Presentation Topic 決定 Give opinions with expressions like “It seems like . . .” や、“If you ask me, . . .”の表現を			

用いて意見を述べる方法 ・“*exactly*”, “*definitely*”, and “*absolutely*”などの副詞を用いて相手に賛同する意思を表す方法。Google classroom, meet, PPT を活用。

第 10 回 Unit 5 – Food choices (pages 43-47)Q

入れ物や単位(量)の表現を用いた食生活に関する英語表現。・調理方法による料理の名称の違いを理解。Google classroom, meet, PPT を活用

第 11 回 Unit 5 – Food choices (pages 47-52)

対話相手に判断を委ねる返答。・ “No, thanks. I’m fine.” など、丁寧に相手から提案を断る方法。Google classroom, meet, PPT を活用

第 12 回 Unit 6 – Managing life (pages 53-57)Q

“*will*”や “*be going to*”, または進行形、単純現在形で未来のことを表す表現 ・助動詞を用いて他者にアドバイスする表現。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 13 回 Unit 6 – Managing life (pages 57-64)

“*I’d better go*”, や “*I’ve got to go*”, “*I’ll call you later*”などの表現を使った電話での会話の終わらせ方 ・友人同士で使用する砕けた交互表現 (挨拶) Google classroom, meet, PPT を活用

第 14 回 Unit1~6 まとめ

Unit1 から Unit6 の既習事項の復習を通して、日常会話表現で活用できる表現として定着を目指す (Grammar, Vocabulary, Conversation Strategies etc.)。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 15 回 Unit 7 – Relationships (pages 65-69)Q

関係代名詞を用いて周りの友人について英語で表現できる。・熟語を活用して他者との交流について表現できる。Google classroom, meet, PPT を活用

第 16 回(12/1) Unit 7 – Relationship (pages 69-74)

“*I think, probably*”や, “*kind of*”, “*in a way*”などの表現を活用して柔らかい他者への提言ができる。・文末に “*though*”を挿入して反対意見を表現す。Google classroom, meet, PPT を活用
※Final Presentation 1st draft 提出

第 17 回 Unit 8 – What if? (pages 75-79)Q

“*I wish ...*” や “*if*” 節を用いて仮定の状況や希望を表現できる。・日常の「ジレンマ (歯痒さ、矛盾)」を英語で表現する。Google classroom, meet, PPT を活用

第 18 回 Unit 8 – What if? (pages 79-84)Q

Give advice using expressions like “*If I were you, ...*” や “*You might want to ...*” の表現を使って仮定の状況を表現できる。 ・ “*That would be ...*”を使って返答したり可能性を提言する方法 Google classroom, meet, PPT を活用

第 19 回 Unit 9 – Tech savvy? (pages 85-89)Q

間接疑問文を用いて技術面での問題を指摘できる。・Ask for help and describe how things work using “*how to*”, “*where to*”, “*what to*”, などの複数の語を伴う表現を駆使して、他者へ依頼したり機能を説明できる Google classroom, meet, PPT を活用

第 20 回 Unit 9 – Tech savvy? (pages 90-94)

Give different opinions using expressions like “*On the other hand ...*” や “*I know what you mean, but ...*” などを用いて異なる意見を伝える表現 ・ “*You know what I mean?*” のフレーズを活用して相手に同意を求める表現がわか。Google classroom, meet, PPT を活用
※プレゼンテーションの 1st draft 返却

第 21 回 Unit 10 – What’s up? (pages 97-101)Q

現在完了進行形を用いてニュースについて語ることができる。・ “*always*”, “*still*”, “*yet*” を伴う現在完了進行形を活用することができる。Google classroom, meet, PPT を活用

第 22 回 Unit 10 – What’s up? (pages 102-106)

“*I was wondering ...*” や “*Would it be OK with you ...*” の表現を用いた丁寧な依頼
・ “*All right*”, “*OK*”, や “*Sure*” などの表現を用いて会話の話題を変えることができる。Google classroom, meet, PPT を活用

第 23 回 Unit 11 – Impressions (pages 107-111)Q

助動詞 “*must*”, “*might*”, “*can’t*”, や “*could*”を用いて予見を表現することができる。

• Describe situations and people's feelings using adjectives that end in “-ed” や “-ing” を伴う形容詞を使用して状況や人の気持ちを描写することができる。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 24 回 Unit 11 – Impressions (pages 111-116)

理解が理解していることと他者への理解を伝える方法。• “you see” のフレーズを使って状況を説明することができる。 Google classroom, meet, PPT を活用

※Final Presentation 原稿仕上げ 提出

第 25 回 Unit 12 – In the news (pages 117-121)Q

単純過去の受動態を活用してニュースについて語ることができる。• “+ by” を含む単純過去の受動態を用いて自然災害について語ることができる。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 26 回 Unit 12 In the news (pages 122-126)

Introduce news with expressions like “Did you hear (about) . . . ?” や “Guess what?” のフレーズを活用してニュースを紹介できる。• Use “The thing is / was . . .” のフレーズを活用して話題を提供することができる。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 27 回 Unit7~12 まとめ Free Talk (pages 129-136) preparation for Final Presentation

Unit 7 から Unit 12 の既習事項の復習を通して、日常会話表現で活用できる表現として定着を目指す (Grammar, Vocabulary, Conversation Strategies etc.)。担当教員と個別に面談しプレゼンテーション発表の準備をするめる。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 28 回 Final presentation 1 (Google slide)

個別プレゼンテーション発表の実施。発表者以外の受講生は発表者のパフォーマンスを評価し、コメントする。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 29 回 Final presentation 2 (Google slide)

個別プレゼンテーション発表の実施。発表者以外の受講生は発表者のパフォーマンスを評価し、コメントする。 Google classroom, meet, PPT を活用

第 30 回 Final presentation 3 (Google slide)

個別プレゼンテーション発表の実施。発表者以外の受講生は発表者のパフォーマンスを評価し、コメントする。 Google classroom, meet, PPT を活用

※課題、クイズ、プレゼンテーションの詳細は講義の中で説明する。

※期末試験については、講義内で課すプレゼンテーション発表をその代替とする。

テキスト

McCarthy, M., McCarten, J., & Sandiford, H. (2014). Touchstone 3, Cambridge University Press. ISBN: 978-1107665835

参考書・参考資料等

講義内で適宜配布する (担当者が独自で作成)

学生に対する評価

講義内での活動 (Group or pair work への取り組み)	15 点
ワークシート (Google form) の提出	25 点
Grammar Quiz	25 点
Final Presentation	35 点
(内訳) Google slide	10 点
発表原稿作成	10 点
プレゼンテーション	15 点

合計 100 点

授業科目名： イングリッシュ・ コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：笠村 淳子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業の概要			
1) 学習者の CEFR レベルに応じて、教材の提示、指導方法や評価を工夫する。			
2) 実際の言語使用場面や機能の達成を考慮しながら、口頭コミュニケーション能力や英作文の能力を伸長する。			
3) 英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。			
4) 論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。			
授業計画			
Class 1 Class orientation + Unit 1 "Making friends (A/B) (オンライン)			
Class 2 Unit 1 "Making friends (C/D)" + スピーチとプレゼンテーションについて (オンライン)			
Class 3 Unit 2 "Interests (A/B)" + 良いプレゼンと悪いプレゼンの特徴について (オンライン)			
Class 4 Unit 2 "Interests (C/D)" + プレゼンテーション作成の流れ (オンライン)			
Class 5 Unit 3 "Health (A/B)" + プレゼンテーション題目決定 (オンライン)			
Class 6 Unit 3 "Interests (C)" + プレゼンテーションアウトライン作成 (ハイブリッド) 9/27分補講			
Class 7 Unit 3 "Interests (D)" + プレゼンテーションアウトライン作成(ハイブリッド)			
Class 8 題目およびアウトラインドラフト発表 (ハイブリッド)			
Class 9 題目およびアウトラインドラフト発表 (ハイブリッド)			
Class10 Unit 4 "Celebrations" (ハイブリッド)			
Class11 Unit 5 "Growing up" (ハイブリッド)			

- Class12 Unit 6 "Around town (A/B)" + プレゼンテーションドラフト ピア評価 (ハイブリッド)
- Class13 Unit 6 "Around town (C/D)" + プレゼンテーションドラフト ピア評価 (ハイブリッド)
- Class14 Review for Unit 4 to Unit 6 + プレゼンテーションドラフト ピア評価 (ハイブリッド)
- Class15 中間試験 (Unit 1-6 筆記試験) オンライン
- Class16 Unit 7 "Going away (A/B)" + PPT作成 1 (ハイブリッド)
- Class17 Unit 7 "Going away (C/D)" + PPT作成 2 (ハイブリッド)
- Class18 Unit 8 "At home (A/B)" + PPT作成 3 (ハイブリッド)
- Class19 Unit 8 "At home (C/D)" + PPT作成 4 (ハイブリッド)
- Class20 Unit 9 "Things happen (A/B)" + PPT作成 5 (ハイブリッド)
- Class21 Unit 9 "Things happen (C/D)" + How to write References (ハイブリッド)
- Class22 Review for Unit 7 to 9 (ハイブリッド)
- Class23 Unit 10 "Communication" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class24 Unit 10 "Communication" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class25 Quiz + Unit 11 "Appearances (A/B)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class26 Quiz + Unit 11 "Appearances (C/D)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class27 Quiz + Unit 12 "Looking ahead (A/B)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class28 Quiz + Unit 12 "Looking ahead (C/D)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class29 Review for Unit 10 to Unit 12 (ハイブリッド)
- Class30 口頭発表会1 (最終プレゼンテーション) オンライン
- Class31 口頭発表会2 (最終プレゼンテーション)

テキスト

TOUCHSTONE second edition Student's book 2 出版社 : Cambridge University Press

参考書・参考資料等

必要に応じて教員が準備したものを配布する

学生に対する評価

中間試験 15点

期末試験 15点

英語動画作成+発表 30点

プレゼンテーション 20点

英会話練習課題（LLC） 20点

合計 100点

- Class12 Unit 6 "Around town (A/B)" + プレゼンテーションドラフト ピア評価 (ハイブリッド)
- Class13 Unit 6 "Around town (C/D)" + プレゼンテーションドラフト ピア評価 (ハイブリッド)
- Class14 Review for Unit 4 to Unit 6 + プレゼンテーションドラフト ピア評価 (ハイブリッド)
- Class15 中間試験 (Unit 1-6 筆記試験) オンライン
- Class16 Unit 7 "Going away (A/B)" + PPT作成 1 (ハイブリッド)
- Class17 Unit 7 "Going away (C/D)" + PPT作成 2 (ハイブリッド)
- Class18 Unit 8 "At home (A/B)" + PPT作成 3 (ハイブリッド)
- Class19 Unit 8 "At home (C/D)" + PPT作成 4 (ハイブリッド)
- Class20 Unit 9 "Things happen (A/B)" + PPT作成 5 (ハイブリッド)
- Class21 Unit 9 "Things happen (C/D)" + How to write References (ハイブリッド)
- Class22 Review for Unit 7 to 9 (ハイブリッド)
- Class23 Unit 10 "Communication" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class24 Unit 10 "Communication" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class25 Quiz + Unit 11 "Appearances (A/B)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class26 Quiz + Unit 11 "Appearances (C/D)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class27 Quiz + Unit 12 "Looking ahead (A/B)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class28 Quiz + Unit 12 "Looking ahead (C/D)" + プレゼンテーション作成 ピア評価 (ハイブリッド)
- Class29 Review for Unit 10 to Unit 12 (ハイブリッド)
- Class30 口頭発表会1 (最終プレゼンテーション) オンライン
- Class31 口頭発表会2 (最終プレゼンテーション)

テキスト

TOUCHSTONE second edition Student's book 2 出版社 : Cambridge University Press

参考書・参考資料等

必要に応じて教員が準備したものを配布する

学生に対する評価

中間試験 15点

期末試験 15点

英語動画作成+発表 30点

プレゼンテーション 20点

英会話練習課題（LLC） 20点

合計 100点

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大城 宜実 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して、情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。			
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する			
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介（第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存（第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定）（第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線）（第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）（第2章 pp.72 - 87、実習 10, 11, 12） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入（第4章 pp.188 - 208、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など） 第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷（第4章 pp.209 - 230、実習：自己紹介プレゼン作成（下）） 第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会 第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存（第3章 pp.88 - 101、実習 13, 14） 第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列			

の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作（第3章 pp.102 - 121、実習 15, 16, 17） 第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数 （第3章 pp.122 - 134、実習 18, p.144） 第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列操作、日付計算（第3章 pp.135 - 147、実習 19, 20, 21） 第14回 表計算： グラフ作成（棒・円・複合）、図形作成 （第3章 pp.148 - 159、実習 22, 23, 24, 25） 第15回 表計算： データベースの利用（並び換え・抽出）、文章中に表の利用、操作の自動化（マクロ記録と編集）、レポート作成のコツ （第3章 pp.160 - 187、実習 26, 27, 28, 29, 30） 期末試験
テキスト 「30時間アカデミック Office 2019 Windows 10 対応」、¥1,300＋税
参考書・参考資料等 特になし。適宜、授業の中で紹介する。
学生に対する評価 課題の提出状況 60点 期末テストの成績 40点 合計 100点満点 タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]となる。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：島 康貴 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して、情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。			
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する			
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介（第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存（第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定）（第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線）（第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）（第2章 pp.72 - 87、実習 10, 11, 12） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入（第4章 pp.188 - 208、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など） 第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷（第4章 pp.209 - 230、実習：自己紹介プレゼン作成（下）） 第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会 第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存（第3章 pp.88 - 101、実習 13, 14） 第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列			

の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作（第3章 pp.102 - 121、実習 15, 16, 17） 第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数 （第3章 pp.122 - 134、実習 18, p.144） 第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列操作、日付計算（第3章 pp.135 - 147、実習 19, 20, 21） 第14回 表計算： グラフ作成（棒・円・複合）、図形作成 （第3章 pp.148 - 159、実習 22, 23, 24, 25） 第15回 表計算： データベースの利用（並び換え・抽出）、文章中に表の利用、操作の自動化（マクロ記録と編集）、レポート作成のコツ （第3章 pp.160 - 187、実習 26, 27, 28, 29, 30） 期末テスト
参考書・参考資料等 特になし。適宜、授業の中で紹介する。
学生に対する評価 課題の提出状況 60点 期末テストの成績 40点 合計 100点満点 タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]となる。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： アラスーン・ピーターM
		担当形態：クラス分け・単独		
科 目		教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して、情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。				
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する。				
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介（第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存（第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定）（第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線）（第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）（第2章 pp.72 - 87、実習 10, 11, 12） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入（第4章 pp.188 - 208、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など） 第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷（第4章 pp.209 - 230、実習：自己紹介プレゼン作成（下）） 第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会 第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存（第3章 pp.88 - 101、実習 13, 14） 第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列				

の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作（第3章 pp.102 - 121、実習 15, 16, 17） 第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数 （第3章 pp.122 - 134、実習 18, p.144） 第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列操作、日付計算（第3章 pp.135 - 147、実習 19, 20, 21） 第14回 表計算： グラフ作成（棒・円・複合）、図形作成 （第3章 pp.148 - 159、実習 22, 23, 24, 25） 第15回 表計算： データベースの利用（並び換え・抽出）、文章中に表の利用、操作の自動化（マクロ記録と編集）、レポート作成のコツ （第3章 pp.160 - 187、実習 26, 27, 28, 29, 30） 期末テスト
参考書・参考資料等 特になし。適宜、授業の中で紹介する。
学生に対する評価 課題の提出状況 60点 期末テストの成績 40点 合計 100点満点 タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]となる。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： コンピュータ・ リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中里 収 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 パソコンの実習を通して、情報を適切に活用する技術を習得するのが目的である。			
授業の概要 大学生活に必要なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、1)ワードプロセッサ、2)表計算、3)プレゼンテーションソフト、4)電子メール、5)学内SNSの使い方を習得する			
授業計画 第1回 オリエンテーション： シラバス、学内PC環境、SNS（Universal Passportなど）、メール、印刷、遠隔授業の運営説明 第2回 OSの基本操作、ファイル管理、情報検索、セキュリティー、著作権、各種ソフトの紹介（第1章） 第3回 ワードプロ： 文章作成、編集、配置、修飾、構造化（段落等）、保存（第2章 pp.18 - 35、実習 1, 2） 第4回 ワードプロ： ページ設定と印刷。表作成と編集（レイアウト変更、セル結合や分割、書式設定）（第2章 pp.36 - 49、実習 3, 4, 5, 6） 第5回 ワードプロ： 文章の編集（書式、レイアウト）、表現力向上（図や図形の挿入、罫線）（第2章 pp.50 - 71、実習 7, 8, 9） 第6回 ワードプロ： 長文作成（見出し、段落、ヘッダー・フッター、目次、置換）（第2章 pp.72 - 87、実習 10, 11, 12） 第7回 プレゼンテーション： 基本操作、スライド作成、デザイン、スライドショー実行、画像・図・テキストボックスの挿入（第4章 pp.188 - 208、実習：自己紹介プレゼン作成（上）出身地・出身高・趣味など） 第8回 プレゼンテーション： 図表・グラフ・表の挿入と編集。アニメーション設定、印刷（第4章 pp.209 - 230、実習：自己紹介プレゼン作成（下）） 第9回 自己紹介プレゼンテーション発表会 第10回 表計算： 基礎知識、データ入力・編集、ブックの保存（第3章 pp.88 - 101、実習 13, 14） 第11回 表計算： 表の作成、関数、罫線、表示形式、配置、フォント、条件付き書式、行や列			

の大きさ・挿入・削除・非表示、シート操作（第3章 pp.102 - 121、実習 15, 16, 17） 第12回 表計算： 表の印刷詳細設定、絶対参照・相対参照、基本関数 （第3章 pp.122 - 134、実習 18, p.144） 第13回 表計算： 順位を求める、条件別の集計、表の参照、端数の処理、エラー回避、文字列操作、日付計算（第3章 pp.135 - 147、実習 19, 20, 21） 第14回 表計算： グラフ作成（棒・円・複合）、図形作成 （第3章 pp.148 - 159、実習 22, 23, 24, 25） 第15回 表計算： データベースの利用（並び換え・抽出）、文章中に表の利用、操作の自動化（マクロ記録と編集）、レポート作成のコツ （第3章 pp.160 - 187、実習 26, 27, 28, 29, 30） 期末テスト
参考書・参考資料等 特になし。適宜、授業の中で紹介する。
学生に対する評価 課題の提出状況 60点 期末テストの成績 40点 合計 100点満点 タイピングのテストでは、15週までに、10分間に300文字の日本語入力ができなければ[不可]となる。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：嘉納英明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
○教育の本質及び目標を理解し、子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解することができる。			
○近代教育制度の成立と展開過程及び現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解することができる。			
○代表的な教育家の思想について理解することができる。			
授業の概要			
講義は、中学校や高校で教育を実践する上で必要になる、教育の基本的な原理・原則について内外の教育思想や教育の歴史などを手がかりに検討する。そのうえで、現代の教育が抱える課題を検討する。			
授業計画			
第1回 講義概要の説明：「教育原理」学習の目的と授業計画（教育とは何か）			
第2回 教育の意義と目的：「教育」の意味と教育の目的（人間とは何か、ヒトから人へ）			
第3回 教育と児童福祉との関連性：制度上の規定、児童福祉と教育の変遷との関連（日本国憲法、教育基本法、子どもの権利条約）			
第4回 教育の役割と子どもの社会化：人間形成と学校・家庭・地域社会との関連性（人格・人間形成の基盤、学校教育・家庭教育・社会教育）			
第5回 教育の思想と歴史的変遷①：ロック，ルソー，ペスタロッチなど			
第6回 教育の思想と歴史的変遷②：フレーベル，デューイなど			
第7回 教育の思想と歴史的変遷③：児童観と教育観の変遷（子ども期の発見，児童中心主義など）			
第8回 近代の教育制度の成立			
第9回 戦後教育改革：学校制度の成立と発展、教育法規・教育行政			
第10回 教育内容と教育課程：教育内容の構成、教育課程と計画（顕在的・潜在的カリキュラム）			
第11回 教育の実践：教育方法，評価，教育実践の多様な取り組み			
第12回 生涯学習社会における教育：生涯学習の概念と発展、生涯学習と学校教育のあり方（生涯学習社会への移行と社会教育、リカレント教育）			
第13回 第13回 現代社会と教育課題①：教育の病理（不登校、いじめ、虐待、貧困）			
第14回 第14回 現代社会と教育課題②：教師の役割（生きる力、確かな学力）			

第15回 総括

第16回 期末試験

テキスト

授業内容と関係する情報（ネット情報を含む）は、事前にお知らせします。

参考書・参考資料等

- 『教職へのいざない―名桜大学教職入門書―』東洋企画、平成31年
- 文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』
- 文部科学省『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』
- 授業の中で、適宜、文科省関連情報、新聞資料等を紹介します。
- 授業と関連する基本的な資料等は、教員養成支援センターにあります。

学生に対する評価学生に対する評価演習

期末試験70点

ふりかえりシート 30点=2点（ふりかえりシートへの評価）×15回（最終回を除く）

合計100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：嘉納 英明 担当形態： 単独
科 目	教職の意義等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
○現代の教員に求められる基礎的な資質能力や教員の職務の全体像及び研修の意義や制度上の位置付けについて理解することができる。			
○教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。			
○校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。			
授業の概要			
現代社会における教職の意義、教員の役割、職務内容、教員の服務と身分保障などについて考察するとともに、教員養成のあり方や大学の教職課程について解説し、教職に関する理解を深める。また、将来の進路選択に資するものとして、受講生が自らの資質や適性に照らしながら、教員への適性を見極めていく手がかりとなるよう、教職に関する情報を提供する。			
授業計画			
第1回：講義の概要説明（授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録）			
第2回：現代社会における教職の意義			
教職は子どもの生きる力を培い、充実した人生と社会生活をもたらすとともに、国家社会の次代の担い手を育成するという使命をもつ職業であることを解説する。＜講義・グループワーク＞			
第3回：教員の種類・役割と仕事の性格			
現行の教育制度について学校教育法第1条（1条校）をもとに解説し、教員の種類と教科指導・教科外指導等について整理し、職場環境についても解説する。＜講義・グループワーク＞			
第4回：教員生活の1年間			
4月から3月までの一年間を学級経営の視点や学年・学校行事から俯瞰し、教員生活のあり様について解説する。＜講義・グループワーク＞			
第5回：教員の仕事と専門性Ⅰ（子ども理解と学級経営）			
子ども理解と学級経営は、担任と子どもとの関係性構築の上でも重要なことである。「子どもを理解するとはどのようなことか」「望ましい学級経営とはどのようなものか」について考える。＜			

講義・グループワーク>

第6回：教員の仕事と専門性 II（教科指導）

教員の主たる仕事は、教科を指導することである。児童生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」を創るためには専門性に裏付けられた教材開発と授業展開、評価方法が求められる。授業事例を紹介しながら、「教科指導とは何か」について解説する。＜講義・グループワーク＞

第7回：教員の仕事と専門性 III（特別活動・生徒指導）

特別活動とは学校生活の中で児童・生徒による集団的な取組みを総称し、生徒指導は児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。講義では、学生の経験を報告し合いながら、特別活動と生徒指導について整理する。

＜講義・グループワーク＞

第8回：教員の仕事と専門性 IV（進路指導・教育相談）

キャリア教育の視点に立脚した進路指導や児童生徒の学校生活における学習相談、生活相談等を包括した教育相談について解説する。＜講義・グループワーク＞

第9回：教員の仕事と専門性 V（保護者・地域・関係機関との連携）

家庭教育支援が求められている昨今、保護者・地域・関係機関との協力と連携は益々重要視されている。事例を紹介しながら、成果と課題を解説する。＜講義・グループワーク＞

第10回：学校における教職員の連携・協働—チーム学校としての機能—

チーム学校とは、校長のリーダーシップのもとで、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして児童生徒に必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校のことである。事例を紹介しながら解説する。＜講義・グループワーク＞

第11回：地域に開かれた学校づくり—コミュニティスクール—

地域に開かれた学校づくりの取組みには学校や地域、児童生徒の実態に応じて様々な対応の仕方がある。そうした多様な取組みのなかで地域に開かれた教育活動の典型的な取組みが、地域運営学校（コミュニティスクール）である。事例を紹介しながら解説する。＜講義＞

第12回：教員の服務・身分保障と研修

教員の服務・身分保障と研修について、主に、地方公務員法と教育公務員特例法の関連条文を紹介し、事例を紹介しながら解説する。＜講義＞

第13回：教員に求められる資質能力

教員に求められる資質能力（教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力）を文科省の関連資料をもとに議論し、整理する。＜講義・グループワーク＞

第14回：教員養成と教職課程

現行の日本の教員養成制度と教職課程について概説し、教職大学院の設置状況、これをめぐる諸問題についても解説する。＜講義＞

第15回：教員の採用選考

全国的な教員採用選考試験の動向、選考方法等について解説する。＜講義＞ 第16回：期末試験
テキスト 授業内容と関係する情報（ネット情報を含む）は、事前にお知らせします。
参考書・参考資料等 ○『教職へのいざない—名桜大学教職入門書—』東洋企画、平成31年 ○文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』 ○文部科学省『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』 ○文部科学省『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』 ○文部科学省『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』 ○授業の中で、適宜、文科省関連情報、新聞資料等を紹介します。 ○授業と関連する基本的な資料等は、教員養成支援センターにあります。
学生に対する評価 授業への参加度、授業態度、レポート、期末試験によって総合的に評価する。 期末試験：60% レポート：30% 態度・演習・発表・参加度：10%

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 教育制度論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：嘉納英明
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎理論に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ				
○学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解し、教育政策の動向を理解することができる。				
○公教育の原理及び理念をふまえ、公教育制度を構成している教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解することができる。				
○地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解し、学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について説明することができる。				
授業の概要				
本講義は、現代日本の教育組織の歴史的経緯や体系、制度をめぐる諸問題について多角的・創造的に捉える力を養う内容である。				
授業計画				
第1回 本講義の内容・評価方法の説明／教育制度とは何か～身近な事例で考える～				
第2回 公教育の理念と義務教育制度～義務性・無償性・中立性				
第3回 日本の教育制度の歴史～明治・大正・昭和初期				
第4回 教育行政の歴史と現状①～国の教育行政の組織と活動				
第5回 教育行政の歴史と現状②～地方の教育行政の組織と活動				
第6回 教育行政の歴史と現状③～地方分権と教育行政制度改革				
第7回 学校法制と学校の組織化①～教育基本法～				
第8回 学校法制と学校の組織化②～学校教育法及び施行規則～				
第9回 教職員人事行政～教育職員免許法と教育公務員特例法～				
第10回 教育課程行政～学習指導要領と教科書検定制度～				
第11回 学校経営改革の動向と課題～リーダーシップ・学校評価・アカウンタビリティ～				
第12回 子どもと学校～在学関係、懲戒と体罰				
第13回 学校教育と生涯学習（社会）～「生涯にわたって学ぶ力」の必要性				
第14回 学校と地域の連携～地域運営学校～				
第15回 学校事故と安全管理				
第16回 期末試験				

テキスト 特になし。授業内容に応じて適宜印刷配布する。

参考書・参考資料等

- 『教育小六法』学陽書房
- 文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』
- 文部科学省『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』

学生に対する評価

期末試験70点

ふりかえりシート 30点=2点（ふりかえりシートへの評価）×15回（最終回を除く）

合計100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村堅一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
①心身の発達の概念並びに関連要因を踏まえ、教育における発達理解の意義を理解できる。 ②発達段階の各時期における運動、言語、認知及び社会性の発達の特徴を理解できる。 ③学習の概念及びその過程を説明する諸理論を理解できる。 ④主体的学習を支える動機づけ、集団づくり及び学習評価のあり方を発達の特徴と関連づけて理解できる。 ⑤心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を促す支援の基礎となる考え方を理解できる。			
授業の概要			
教育心理学(educational psychology)とは、教育過程における諸現象について心理学的に研究し、教育実践の合理化と効率化に貢献しうる心理学的知見や技術を提供しようとする心理学の一分野である。本講義では、教育心理学の基本的知見を整理し、またその背後にある心理学的なものの見方、考え方をアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。講義内容は次の4領域で構成されている。(1)認知心理学や学習心理学の基本的な理論を紹介しながら、教育実践とのかかわりに触れる(第2～5週)。(2)学校教育場面でのより実践的な問題について理解する(第6・7・9週)。(3)心身の発達を理解する(第10～12週)。(4)発達障害・カウンセリング・臨床実践の基礎知識を得る(第13～15週)。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション ①授業の目的 ②シラバス ③授業の方法 ④テキスト ⑤登録			
第2回： 記憶力がいいとはどういうことか(短期記憶、長期記憶、忘却) 教育心理学が心理学の中でどのような立ち位置を占めているのかということと、「学習」するうえで非常に重要な機能である記憶について解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習： 予習(第1章)＞			
第3回： 学ぶことと考えること(知識、問題解決) われわれの中で知識がどのように蓄えられているかを考察する。また、「よく定義された問題」に対する2種類の問題解決方略を解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習： 復習(第1章) 予習(第2章)＞			
第4回： ほめることの大切さ(古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化) ほめられるということは一種の報酬である。ほめられた人間はその原因となった行動を再び行おうとす			

る。教育において児童生徒をほめることは重要であり、その効果を解説する。＜授業形式：講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第2章）・予習（第3章）＞

第5回： 「やる気」を考える（期待－価値モデル、統制感、原因帰属、内発的動機づけ） 個人はどのような課題に対してやる気をもつのか、またどのような個人がやる気もちやすいのかについて解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第3章）・予習（第4章）＞

第6回： 学級という社会（学級集団、教師－生徒関係、学級雰囲気、生徒の人間関係、テスト） 学級は各児童生徒にとって重要な環境と言える。学級のありよう次第で各児童生徒の気持ちや学習効果が左右されることがある。この回では学級という集団が児童生徒に与える影響を解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第4章）・予習（第5章）＞

第7回： どのように教えるか（学習指導、発見学習、受容学習、グループ学習、個別学習、ATI） 学習指導形態には様々あり、ICT環境の整備とともにプログラム学習が脚光を浴びている。発見学習や仮説実験授業、グループ学習、プログラム学習と伝統的な一斉学習の長所・短所について解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第5章）・予習（第6章）＞

第8回： 前半のまとめ、中間試験 ＜授業形式： 講義・試験＞ ＜準備学習：復習（第1～6章）＞

第9回： 児童・生徒をどう評価するか（教育の成果を評価する、評価のための情報を得る方法） 教員が児童生徒を公平・適切に評価するのは難しい。この回では様々な評価方法と、評価する際に生じるバイアスについて解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：予習（第7章）＞

第10回： 人間の発達について考える（発達とは、遺伝と環境、学習の臨界期と敏感期） 人間の知能・性格などは環境と遺伝の影響を受けて段階的に発達していく。発達に及ぼす遺伝と環境の影響力の大きさや研究方法について解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第7章）・予習（第8章）＞

第11回： 知的発達のメカニズム（頭がよいということ、知能の発達） 人間の知的能力がどのように発達していくのかについて解説する。特に乳児～青年期の知的発達についてピアジェの発達理論を下に詳しく解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第8章）・予習（第9章）＞

第12回： 人格発達の基礎（フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着、自我同一性） 人間の人格や性格がどのように発達していくのかについて、フロイトやエリクソンの発達段階を下に、特に幼少期における基本的信頼の獲得、青年期の自我同一性の獲得について解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第9章）・予習（第10章）＞

第13回： 困難を抱える子どもたち（発達障害とは、主な発達障害） 発達障害（学習障害、ADHD、自閉症など）の定義や概略とその教育現場の状況を解説し、その上でどのような教育を行っていくべきかを議論する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習（第1

0章)・予習(第11章)＞

第14回： カウンセリングとは(クライアント中心療法、行動療法、認知療法) 児童生徒が罹患しやすい心の病気とそれに対する代表的な心理療法(クライアント中心療法、行動療法、認知療法)を解説する。＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習(第11章)・予習(第12章)＞

第15回： 教育心理学 最新事情、まとめ ＜授業形式： 講義・グループワーク＞ ＜準備学習：復習(第12章)・予習(配布プリント)＞

第16回： 期末試験

テキスト

鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著) やさしい教育心理学 第5版(有斐閣アルマ) (有斐閣, 2019年)

参考書・参考資料等

○板山勝樹(編著) 教職へのいざない(名桜大学教職入門書) (東洋企画, 2019年)

○文部科学省『中学校 学習指導要領(令和29年告示)』

○文部科学省『高等学校 学習指導要領(令和30年告示)』

○文部科学省『中学校 学習指導要領解説(令和29年告示) 総則編』

○文部科学省『高等学校 学習指導要領解説(令和30年告示) 総則編』

学生に対する評価

毎回の振り返り 25点(各授業の結論とその根拠となる理論・研究の記述)

中間試験 25点

期末試験 50点

合 計 100点

※1時間を45分とみなし、1回の授業時間は、90分とする。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：與那覇 広次 担当形態：単 独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
・「一人一人の教育的ニーズに応ずる」という特別支援教育の根本理念の意味を理解する。 ・発達を踏まえた特別支援教育での指導の在り方を知る。 ・“最重度”と言われる子どもであっても、その行為・行動には必ず意味・背景があることを知る。 ・“障がい”という言い方は、第三者的目線からの表現（見方）であることを認識する。 ・子どもや保護者の思いを感受できる教師としての姿勢を身につける。			
授業の概要			
「障がい児」と言われる子どもたちと直に関わっていく際の、子どもの捉え方・指導の在り方などを、“発達”をベースに事例を通して学んでいく。 概要は主に5つから成る。1つ目は支援教育に携わる者としての教師観や障がい児観、2つ目は発達からみた子どもの行動や能力（検査を含む）の意味、3つ目は障がい児の特性（主に知的障がい・自閉症・発達障がい）、4つ目は発達理論と指導の実際、5つ目は子ども・保護者の思いと現実社会のニーズ及びその支援体制である。 なお、授業では特別支援学校での実務経験を活かして、理論と実際（実践）を対比させながら、障がい児の真の姿及びその教育への理解を深めていく。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
～ちょっとした特別支援教育史と今日の特別支援教育体制及び学校現場の状況、これから学んでいくこと～			
第2回 障がい児との臨床的関わりの視座：なぜ発達心理学か～個体能力論と生活世界論～			
第3回 発達段階論（ピアジェ）① — 感覚運動期			
第4回 発達段階論（ピアジェ）② — 前操作期～形式的操作期			
第5回 発達段階論（ワロン）① — 胎児段階～投影的段階（自我の芽生え以前）			
第6回 発達段階論（ワロン）② — 自己主張段階～成人期（自我の芽生え以後）			
／ 子ども－もの－人の三項関係論			

第7回 知的障がい① — 定義と分類、知能検査の始まりと現在

第8回 知的障がい② — 心的特性、環境と遺伝

第9回 自閉症① — 自閉症研究の流れとその原因論

第10回 自閉症② — 予後及び自閉症の診断基準と周辺障がいの分類

第11回 発達障がい（学習障害・注意欠陥多動性障害・高機能自閉症など）と通常学校の教育
支援システム / 特別支援教育を必要とする健常な子どもたち（生活困窮児・異母国語児）

第12回 指導の実際① — 子どもの能力の実態把握（認知発達検査・観察・記録・聞き取り）
と教育課程の編成

第13回 指導の実際② — 授業の構成（同一単元異質学習と指導案の作成・実施）
と諸指導・支援計画

第14回 実技 — グッドイナフ人物画知能検査、腕上げ動作コントロール訓練法

第15回 介護等体験・教育実習に臨む姿勢及びグループ・ディスカッション

第16回 期末試験

テキスト

単元毎にその都度、レジュメを配布する。また、必要に応じて関連図書を紹介する。

参考書・参考資料等参考図書

與那覇広次：『知的障害児・自閉症児への発達臨床心理学アプローチ～理論と実際～』，
沖縄タイムス社，2015年（本学図書館に有り）

学生に対する評価

A：授業態度・姿勢（振り返りシートの提出・実技課題の提出など）30点、 B：期末試験（小論）
70点の合計100点で評価する。

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山 勝樹
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む)		
授業の到達目標及びテーマ 日本の学校で、子どもは何を、いつ、どのような順序で学び、教師はそれを教え、いかに評価・改善するのかという教育課程の問題についての理解を深め、学生が一定の考え方を持つことができるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 目標を達成するために、教育課程の基本問題である、以下の四点についての授業（課題把握と研究の進展等）を展開する。 (1) 教育課程の内容選定の基準や原理に関する問題 ＝「何を教育内容として選択し、編成するのか」という問題 (2) 教育課程の全体構造に関する問題 ＝「学校の教育活動を全体としてどのように編成するのか」という問題 (3) 教育過程の評価・改善に関わる問題 ＝「学校の教育課程をどのように客観的に評価し、改善に役立てるか」という問題 (4) 教育課程の編成主体の在り方、その組織や権限の所在に関する問題 ＝「誰が学校の教育課程を編成するのか」という問題			
授業計画 第1回：オリエンテーション等 授業の目的・内容・方法の説明，シラバスの確認，診断的評価，登録 等 第2回：教育課程を考える意味 1 教育課程編成の基本原理や学力問題と教育課程の関係性について学ぶ。 第3回：教育課程を考える意味 2 カリキュラム・マネジメントの意義や重要性等を学ぶ。 第4回：現代日本の教育課程の歴史 1 1948・1951 年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1948 年版と 1951 年版における変容について学ぶ。グループでの討議を行い，1948・1951 年学習指導要領の特徴等を整理する。 第5回：現代日本の教育課程の歴史 2			

1958・1968 年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1951 年版と 1958 年版・1958 年版と 1968 年版における変容について学ぶ。グループでの討議を行い，1958・1968 年学習指導要領の特徴等を整理する。

第 6 回：現代日本の教育課程の歴史 3

1977・1989 年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1968 年版と 1977 年版・1977 年版と 1989 年版における変容について学ぶ。グループでの討議を行い，1977・1989 年学習指導要領の特徴等を整理する。

第 7 回：現代日本の教育課程の歴史 4

1998・2008 年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，1989 年版と 1998 年版・1998 年版と 2008 年版における変容について学ぶ。また，教科・領域を横断した教育課程編成や子ども，学校，地域の実態を踏まえた教育課程編成について学ぶ。グループでの討議を行い，1998・2008 年学習指導要領の特徴等を整理する。

第 8 回：現代日本の教育課程の歴史 5

2018 年学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，2008 年版と 2018 年版における変容について学ぶ。各時期の学習指導要領の特徴やその社会的背景，社会において果たした役割・機能，また，教科・領域を横断した教育課程編成や子ども，学校，地域の実態を踏まえた教育課程編成について整理するとともに，中間テストを行い，確認する。

第 9 回：学力評価と新しい評価論・評価法

学力評価やカリキュラム評価の考え方やその変遷について学ぶ。

第 10 回：学校批判論と教育課程 1（P. フレイレと教育課程）

P. フレイレの「問題提起型教育」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第 11 回：学校批判論と教育課程 2（I. イリッチと教育課程）

I. イリッチの「脱学校論」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第 12 回：教育課程における平等 1（B. バーンステインと教育課程）

B. バーンステインの「言語コード理論」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第 13 回：教育課程における平等 2（P. ブルデューと教育課程）

P. ブルデューの「文化的差異生産論」の特徴やその社会的背景，教育課程論に及ぼした影響，それへの批判論について学ぶ。

第 14 回：社会階層と教育課程（学校効果論・批判的教育学の展開）

「教育課程における平等」という視点から，再び，教育課程が社会において果たしている役割・機能やあるべき教育課程編成原理について検討する。

第15回：本授業のまとめ

全授業のまとめを行い，習得内容を整理する。

第16回：期末テスト

テキスト

特には指定せず，自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』，『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』，『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』，『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・ 中間テスト 20 点
- ・ 授業時の態度・活動 30 点…上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして，随時，グループでの議論を行う予定にしている。その際の，協議の方法，発表内容等も評価する。
- ・ 期末テスト 50 点…2／3以上の出席がない場合，受験資格を失う。
- ・ 合 計 100 点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊波 和子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 これから教職をめざす皆さんにとっては、道徳教育に対する知見は今後ますます重要な資質・能力となります。本講座は、道徳教育が形成すべき「道徳性」の本性についての理解を深めるとともに、道徳授業を要とした学校教育活動全体での道徳教育の指導の在り方、さらに道徳科の特性を生かした授業の在り方、指導方法、授業設計、教材活用、評価等についての具体的実践について学び、学校現場での実践的指導力を身に付ける機会とする。			
授業の概要 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う教育活動である。 その目標達成のために、道徳性の本性についての理論研究を通して、学校教育活動全体で行われる道徳教育の全体構想や指導体制、及び、その要となる「道徳科」の授業の在り方等を具体的に理解するとともに模擬授業の実践を通して「考え、議論する道徳」の授業を試行する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 班編制等 第2回：シラバス、課題発表・レポートについて 第3回：日本社会の変遷と道徳教育 第4回：道徳教育の意義（個人主義の光と影等） 第5回：教育基本法等の改正と道徳教育 第6回：「道徳授業」を要の時間とした道徳教育 第7回：課題発表第1章「現代社会と道徳」の総括 外 第8回：従来の「道徳の時間」の授業事例とその指導目標 第9回：学校教育活動全体での道徳指導体制の在り方 第10回：課題発表第2章「道徳教育の本質と目標」の総括 外 第11回：道徳の教科化の背景（社会的・制度的等） 第12回：「道徳の時間」と「道徳科」の授業の指導理念の違い 第13回：新学習指導要領の趣旨を生かした道徳授業 第14回：課題発表のまとめ1			

第15回：課題発表のまとめ2 講義の総括

第16回：期末試験

テキスト（推薦図書）） 小・中・高学習指導要領―道徳編―（文部科学省）各 151 円＋（税）
道徳教育（井ノ口淳三編：学文社） 1900＋（税）

参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

- (1) 活動状況等 20% ※積極性・主体性等(20%)
- (2) レポート 20% ※レポートは毎時終了時提出（内容稚拙は1点減点）
- (3) 課題発表 20% ※毎時各班20分を分担（最終評価は各班の評価を参考に講師が行う。）
- (4) 期末試験 40% ※欠席6回以上は、総括試験の受験資格は失格

履修の条件：明確な目標と教育実践の即戦力を培うという意欲を持ち前向きに取り組む。

履修の心得：本時のねらいの確認及び授業後の振り返り（評価）を行う。班活動に協力する。

その他：毎時の講義資料の適切な管理と情報の確実な蓄積 等

※たて綴じの A4 判のファイルを準備

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新城 敦 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間に関して、①その意義を理解しカリキュラム作成の考え方を理解すること。②指導計画作成と作成能力を育成すること。③指導評価に関する留意点を理解すること。以上の3点を目標とする。			
授業の概要【授業の形態:対面授業＋オンラインによる遠隔授業のハイブリット】 講義を通して「総合的な学習の時間」に関する指導方法の理解を深めると共に演習を通して互いの意見を交流し、主体的・対話的で深い学びについての指導方法を学ぶ。さらに、様々な実践事例を紹介し、指導計画の作成や指導方法についての基礎的な知識や能力・技能を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講師の紹介、講義の目的、講義内容、試験・レポート、評価、登録などについて ・総合的な学習の時間の変遷、総合的な学習の時間の特質 第2回：「総合的な学習の時間」とは 総合的な学習の時間の創設の経緯と改定の意味を捉えることで、その意義や役割について知る。その上で、今後必要とされる資質・能力の育成と深い関わりについて理解する。 ※実践事例の紹介①・・・今帰仁村内小・中学校の総合的な学習の時間 第3回：「総合的な学習の時間」の目標 総合的な学習の時間の目標を確認し、各学校における目標及び内容の検討の際に留意すべきことについて議論し、理解を深める。 ※実践事例の紹介②・・・新潟県柳都中学校と沖縄県今帰仁中学校の事例紹介 第4回：「総合的な学習の時間」の内容と探求課題 総合的な学習の時間の内容と目標を具現化するための探求課題について、その特徴を分析する。 ※実践事例の紹介③・・・国頭地区内中学校の総合的な学習の時間の内容 第5回：「総合的な学習の時間」と地域の教育力の活用 実務経験がある学外講師を招聘し、理論と実践の部分から理解を深める。今帰仁村教育委			

員会の地域コーディネーターの実践発表を本人から聴き、質疑応答を行う。

※実践事例の紹介④・・・今帰仁村地域コーディネーター上間哲朗氏講話

第6回：「総合的な学習の時間」とカリキュラムマネジメント

カリキュラムマネジメントが必要とされる背景やその構成要素、視点を踏まえ教科横断的な視点を持った教育活動や地域人材の活用、教育課程編成について理解する。

※実践事例の紹介⑤・・・大分県の全体計画例、京都堀川高校の実践事例を紹介する。

第7回：「総合的な学習の時間」と地域課題解決学習

隠岐島前高校の PBL の実践事例を紹介し、地域課題解決学習や魅力化プロジェクトについて学ぶ。主体的対話的で深い学びを生み出す授業改善の視点を理解し、単元をデザインすることや個の気づきや疑問を共有し、探求のプロセスを重視することを理解する。

※実践事例の紹介⑥・・・島根県隠岐島前高校の実践例(前編)

第8回：「総合的な学習の時間」と校内研修

独立行政法人教職員支援機構の校内研修シリーズの動画を視聴し、総合的な学習の時間を通しての教職員の学びと研修の必要性を認識し、教員としての資質向上について理解する。

※実践事例の紹介⑦・・・教職員支援機構校内研修シリーズ(隠岐島前高校の実践:後編)

第9回：「総合的な学習の時間」の評価

評価の基本的な考え方や評価方法について理解し、授業改善や生徒の関心・意欲を高めるための評価と留意点について学ぶ。学習評価の進め方、評価規準の作成の方法、多様な評価方法、各学校の指導計画の評価、生徒の指導要録について等

※実践事例の紹介⑧・・・総合的な探求の時間(高等学校の事例)

第10回：「総合的な学習の時間」の全体計画について

総合的な学習の時間の全体計画の作成方法を学び、その留意点や各学校の実態に応じた目標の立て方等を理解する。

※実践事例の紹介⑨・・・単元配列表の例、総合的な学習を指導する学年教師集団の在り方

第11回：「総合的な学習の時間」の単元計画について

総合的な学習の時間の単元計画の作成方法を学び、その基本的な考え方、留意点等を理解し、学生自身が自己のやってみたい単元をイメージし、作成する。

※実践事例の紹介⑩・・・様々な学校、校種の実践事例

第12回：「総合的な学習の時間」の授業づくり

総合的な学習の時間の授業づくりの視点やポイントを踏まえ、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの方法を理解する。

※実践事例の紹介⑪・・・学生の立てた単元計画の事例を基に演習を行う。

第13回：「総合的な学習の時間」の指導案の作成①

総合的な学習の時間の指導案の作成を行う。単元目標の設定、単元設定の理由、評価規準、本時案の作成方法を理解する。

第14回：「総合的な学習の時間」の指導案の作成②

指導案を作成する意義や留意点を理解し、指導案作成のポイントを学ぶ。

※実践事例の紹介⑫…補助教材の利活用、グループ学習の目的

第15回：「総合的な学習の時間」まとめ

前時で作成した指導案をグループで検討し、その中から良い事例を発表する。

これまでの講義内容を振り返り、まとめを行う。

第16回：学期末テスト：到達目標を達成するような定期テスト(講義内容を基にした記述問題)

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編」、「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編」、「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総合的な探求の時間編」等を活用し自作資料を適宜配布

参考書・参考資料等

「今、求められる総合的な学習の時間の展開(小学校編)・(中学校編)」

「新学習指導要領の展開 総合的な学習(明治図書)」、「解説 総合的な学習の時間指導法(開隆堂)」、「総合的な学習の時間の指導法(日本文教出版)」、「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間(国立教育政策研究所)」

学生に対する評価

- 授業点 45 点「出席カードのコメント内容を A3 点・B2 点・C1 点の三段階で評価
- 発表・レポート 30 点
- 学期末テスト点 25 点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山 勝樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 自己の被教育経験を相対化しながら，学習指導要領特別活動の目標におけるキーワードである「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三点についての課題とその克服に向けた取り組みを検討する。			
授業の概要 特別活動の意義や目標，内容・方法を学ぶことによって，これからの特別活動のありようを構想できるようにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の目的・内容・方法の説明，シラバスの確認，診断的評価，登録 等 第2回：特別活動とは何か 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容ならびに，児童会・生徒会活動，クラブ活動，学校行事の特質等を学ぶ。 第3回：学校・学級集団に関する理論 1 組織論・人間関係論の観点から，学校・学級集団や学級活動・ホームルーム活動の特質について学ぶ。 第4回：学校・学級集団に関する理論 2 リーダーシップ論・準拠集団論の観点から，学校・学級集団や学級活動・ホームルーム活動の特質について学ぶ。 第5回：子どもの状況と教育病理について議論し，共有する 1 「集団」や「人間関係」に関わる子どもの課題をグループにて議論し，その課題克服をめざした教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を検討する。 第6回：子どもの状況と教育病理について議論し，共有する 2 「集団」や「人間関係」に関わる子どもの課題をグループにて議論し，その課題克服をめざした教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を検討する。 第7回：戦後日本の仲間づくり史 1			

日本独自の集団指導である「生活綴方的教育方法」を検討することを通して、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方等を学ぶ。

第8回：戦後日本の仲間づくり史2

日本独自の集団指導である「班・核・討議づくり」を検討することを通して、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方等を学ぶ。

第9回：本授業の中間まとめとグループ協議

「集団」や「人間関係」に関わる子どもの課題とその課題克服策（特別活動や家庭・地域住民・関係諸機関との連携の在り方も含む）をレポートにまとめた上で、グループで協議し、学びを深める。

第10回：Q-U活用の在り方1（Q-Uとは何かを考える）

Q-Uを活用した「望ましい集団活動」・「よりよい生活や人間関係」・「自主的、実践的な態度」・「生き方についての自覚」の形成を実践する前提として、Q-Uそのものやその理論的根拠等について学ぶ。

第11回：Q-U活用の在り方2（Q-Uを活用した教育実践づくりの検討）

Q-Uを活用した教育実践づくり等の検討を通して、特別活動における取り組みの評価・改善活動等について学ぶ。

第12回：特別活動・学習指導案づくり・交流1

グループのメンバーが協働し、特別活動（特に学級活動）学習指導案を作成・発表・協議することを通して、人間関係づくりや集団指導等に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第13回：特別活動・学習指導案づくり・交流2

グループのメンバーが協働し、特別活動（特に学級活動）学習指導案を作成・発表・協議することを通して、人間関係づくりや集団指導等に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第14回：特別活動・学習指導案づくり・交流3

グループのメンバーが協働し、特別活動（特に学級活動）学習指導案を作成・発表・協議することを通して、人間関係づくりや集団指導等に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第15回：本授業のまとめ

全授業のまとめを行い、習得内容を整理する。

第16回：期末テスト

テキスト

特には指定せず、自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校（平成 29 年告示）学習指導要領』，『高等学校 学習指導要領（平成 30 年告示）』，『中学校 学習指導要領解説（平成 29 年告示 特別活動編）』，『高等学校 学習指導要領解説（平成 30 年告示）特別活動編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・ レポート内容 30 点…レポートと学習指導プラン各 1 回の提出を求める。
- ・ 授業時の態度・活動 30 点…上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして，随時，グループでの議論を行う予定にしている。その際の，協議の方法，発表内容等も評価する。
- ・ 期末テスト 40 点…2／3 以上の出席がない場合，受験資格を失う。
- ・ 合 計 100 点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 教育方法 (ICTの活用を含む。)		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：嘉納英明 森本雅人 担当形態：オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ○教育方法の基礎的理論をふまえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解することができる。 ○授業を構成する基礎的な要件を理解し、学習評価について理解することができる。 ○基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成方法について理解することができる。 ○子どもの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器及びI C Tを活用して効果的に教材等を作成・提示する方法を理解することができる。				
授業の概要 教育の方法や技術、情報機器・教材の活用及び情報通信機器の活用に関する基礎的な知識や様々なメディアを活用した遠隔授業の方法・技術を身に付ける。				
授業計画 第1回 オリエンテーション：「教育方法」という科目、授業計画の説明、評価（担当：嘉納英明） 第2回 学校と教育課程（担当：嘉納英明） 第3回 求められる資質・能力（主体的・対話的で深い学び）と協働的な学びの実現（担当：嘉納英明） 第4回 教師の指導技術とは何か～発問と質問、指示、板書計画、机の配置～（担当：嘉納英明） 第5回 教職の専門性とは何か～授業の構造～（担当：嘉納英明） 第6回 教職の専門性とは何か～学習指導案の構成～（担当：嘉納英明） 第7回 教職の専門性とは何か～学習指導案の検討～（担当：嘉納英明） 第8回 授業の省察と教師の成長（担当：嘉納英明） 第9回 情報通信技術（遠隔・オンライン教育）の活用の意義と理論（担当：森本雅人）				

- 第10回 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進（担当：森本雅人）
- 第11回 各教科等における横断的な情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法（担当：森本雅人）
- 第12回 学習履歴の活用と教育情報セキュリティ（担当：森本雅人）
- 第13回 情報通信技術を効果的に活用した授業事例1～特別の支援を必要としている生徒～（担当：森本雅人）
- 第14回 情報通信技術を効果的に活用した授業事例2（担当：森本雅人）
- 第15回 ICT支援員との連携と授業支援（担当：森本雅人）
- 第16回 遠隔・オンライン教育の意義やシステムの活用法（担当：森本雅人）
定期試験（担当：森本雅人）

テキスト

授業で活用する資料は、適宜、印刷・配布します。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』，『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』，『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示 総則編）』，『高等学校 学習指導要領解説（平成30年告示）総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・活動状況 :20点（模擬授業、討論等）
- ・定期試験 :50点
- ・毎回の[ふりかえりカード]提出:30点
- ・合計 100点満点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 生徒指導の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山 勝樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 生徒指導の意義と学校病理等の生徒指導上の課題を踏まえ、課題解決をめざした具体的な方策を検討することによって、生徒指導上の実践的指導力の基礎を培うことを目標とする。			
授業の概要 生徒指導における課題の実態や背景、生徒指導を進める上で必要となる理念、内容・方法、組織運営等を学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の目的・内容・方法の説明，シラバスの確認，診断的評価，登録 等 第2回：生徒指導とは何か 教育課程における生徒指導の位置付けならびに，生徒指導と各教科・道徳教育・特別活動との関係性について学ぶ。 第3回：生徒指導と生活指導 日本独自の生活指導論を検討することを通して，集団指導の方法原理について学ぶ。 第4回：「不登校」問題について議論し，共有する1（発生要因について議論する） 不登校（暴力行為，いじめ）問題の発生原因とその予防策についてグループで議論する。その後に，不登校の定義及び対応の視点等を学ぶ。 第5回：「不登校」問題について議論し，共有する2（発生要因について議論する） 不登校（暴力行為，いじめ）問題の発生原因とその予防策についてグループで議論する。その後に，不登校の定義及び対応の視点等を学ぶ。 第6回：生徒指導と教師・学校1 校務分掌上の立場や役割，組織的・計画的な日常的な生徒指導のあり方について検討し，生徒指導における教師の役割等について学ぶ。 第7回：生徒指導と教師・学校2（学校組織としての生徒指導のあり方） 学校組織としての生徒指導のあり方（自己決定の場の設定，自己存在感・他者との共感的理解が形成される指導のあり方）について学ぶ。			

第8回：生徒指導における法規

校則、懲戒、体罰、高等学校においては停学及び退学等の生徒指導に関する主な法令の概要について学ぶ。また、生徒指導体制について学ぶ。

第9回：「体罰」問題について議論し、共有する

体罰問題の発生原因とその予防策についてグループで議論する。その後、体罰に関する主な法令の内容について学ぶ。

第10回：懲戒・体罰について

懲戒・体罰に焦点化し、生徒指導に関する主な法令の内容について学ぶ。また、第9週における議論結果を踏まえ、懲戒のあり方について、さらに深く検討する。

第11回：レポート交流会（出席停止制度について）

出席停止制度について検討したレポートをもとに、グループでその賛否について協議した後に、全体でのディベートを行い、考えを深める

第12回：教育相談1

教育相談の行う体制を取り上げることを通して、教育相談を行う組織運営のあり方やその課題を学ぶ

第13回：教育相談2

教育相談の内容・方法を取り上げることを通して、生徒指導と教育相談それぞれの基礎的な考え方と違いならびに、個別指導の方法原理について学ぶ

第14回：生徒指導における保護者・地域等との連携・協働

基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題やそうした課題克服をめざした生徒指導における保護者・地域、専門家や関係機関との連携の在り方について学ぶ。

第15回：本授業のまとめ

全授業のまとめを行い、習得内容を整理する。

定期試験

テキスト

特には指定せず、自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』、『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』、『高等学校 学習指導要領解説（平成30年告示） 総則編』、『生徒指導提要』を参照すること。

学生に対する評価

- | | |
|-------------|--|
| ・ レポート内容 | 20 点… 1 回のレポートを求める。 |
| ・ 授業時の態度・活動 | 30 点… 上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして、随時、グループでの議論を行う予定にしている。その際の、協議の方法、発表内容等も評価する。 |
| ・ 期末テスト | 50 点… 2 / 3 以上の出席がない場合、受験資格を失う。 |
| ・ 合 計 | 100 点 |

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸本 琴恵
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育相談の理論（子どもの発達やカウンセリング理論）を理解し、教育現場で課題解決できる実践力の基礎を身につける。			
授業の概要 本講義では、学校現場が抱える問題について事例を交えながら紹介する。教育相談の基礎理論を理解・活用しながら、子どもや教師が抱える様々な問題について対応策を議論し、問題解決のための資質・能力を身につけてもらいたい。			
授業計画 第1回：教育相談の役割とその意義 第2回：子ども理解（各発達段階における精神・認知の発達と危機） 第3回：思春期の混乱の理解と対応（彼らはなぜ助けを拒むのか） 第4回：子どもの精神医学（不登校と深く関連する症状：HSC・小児うつ・起立性調節障害など） 第5回：発達障害（自閉症スペクトラム・ADHD・限局性学習障害など） 第6回：発達障害の対応（インクルーシブ教育の推進における教育相談の役割） 第7回：事例研究 第8回：不登校の理解と対応 第9回：いじめの発生要因と予防（隠れた教室の競争原理を理解する） 第10回：問題行動と学級崩壊はどのように改善したか（授業の中で子どもをケアする新たな視点） 第11回：事例研究 第12回：教育相談の実践（カウンセリング理論：精神分析） 第13回：カウンセリング理論：パーソンセンタードアプローチ） 第14回：カウンセリング理論：行動療法とソーシャルスキルトレーニング 第15回：事例研究 第16回：期末試験			

テキスト

- ・「教師のたまごのための教育相談」（改訂版）2017 会沢信彦（著） 北樹出版

参考書・参考資料等

- 「教師・保育者のためのカウンセリングの理論と方法」2021 会沢信彦 編著 北樹出版
- 「教育相談」2019 高柳真人・前田基成・服部環 ミネルヴァ書房
- 文部科学省『中学校 学習指導要領（令和29年告示）』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領（令和30年告示）』
- 文部科学省『中学校 学習指導要領解説（令和29年告示） 総則編』
- 文部科学省『高等学校 学習指導要領解説（令和30年告示） 総則編』

学生に対する評価

- | | | |
|-----------------------|-----|---------|
| ・活動状況（授業後のリフレクションシート） | 20点 | |
| ・レポート | 30点 | |
| ・期末試験 | 50点 | 合計：100点 |

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：板山 勝樹
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 進路指導の意義，歴史・理論について学んだ後に，1999 年以降，日本においても推進されているキャリア教育の成果と課題について検討する。			
授業の概要 進路指導やキャリア教育の意義や歴史・理論，実践について学び，課題解決をめざした具体的方策を検討することによって，キャリア教育の実践的指導力の基礎を培う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の目的・内容・方法の説明，シラバスの確認，診断的評価，登録 等 第2回：進路指導とは何か 進路指導の意味や教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け等を学ぶ。 第3回：生徒理解と進路相談 生徒理解に基づいた進路相談，キャリア・カウンセリングについて学ぶ。 第4回：進路指導の歴史と理論 進路指導が生み出されてきた歴史と進路指導に活かすことができるであろう理論を学ぶ。 第5回：「非正規雇用」問題を議論する 1 進路指導上の課題の一つとして，「若年非正規雇用者の創出」を取り上げ，その要因についてグループ・全体で議論する。 第6回：「非正規雇用」問題を議論する 2 進路指導上の課題の一つとして，「若年非正規雇用者の創出」を取り上げ，その打開策についてグループ・全体で議論する。 第7回：キャリア教育の必要性和その推進の経緯 キャリア教育が推進される社会的背景やその経緯，その過程で提示された重点目標等を学ぶことを通して，キャリア教育の視点と指導のあり方の概略を学ぶ。 第8回：「制度化」されたキャリア教育の目標			

「制度化」されたキャリア教育の目標論に焦点化し、その変遷を学ぶ。

第9回：「制度化」されたキャリア教育の限界

推進されてきたキャリア教育を批判的に検討し、その課題について学ぶ。

第10回：キャリア教育の方法等について1

P D C Aサイクルを位置づけた組織的なキャリア教育実践を行う前提条件（学校内組織体制、家庭・地域社会・関係諸機関との連携）について学ぶ。

第11回：キャリア教育の方法等について2

キャリア教育実践を六つの側面（①自己理解に関わる活動・②進路情報に関わる活動・③進路相談・④啓発的経験・⑤進路選択・決定への支援・⑥追指導）から整理し、その六側面について具体的な実践事例を交えて学ぶ。

第12回：進路指導 学習指導プランづくり・交流1

グループのメンバーが協働し（あるいは個人で），進路指導・キャリア教育学習指導案を作成・発表・協議することを通して，進路指導・キャリア教育に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第13回：進路指導 学習指導プランづくり・交流2

グループのメンバーが協働し（あるいは個人で），進路指導・キャリア教育学習指導案を作成・発表・協議することを通して，進路指導・キャリア教育に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第14回：進路指導 学習指導プランづくり・交流3

グループのメンバーが協働し（あるいは個人で），進路指導・キャリア教育学習指導案を作成・発表・協議することを通して，進路指導・キャリア教育に関する指導・評価とその改善のあり方について学ぶ。

第15回：本授業のまとめ

全授業のまとめを行い，習得内容を整理する。

第16回：定期試験

テキスト

特には指定せず，自作のテキスト・資料等を用いる。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』，『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』，『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』，『高等学校 学習指導要領解説（平成30年告示）総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- | | |
|-------------|---|
| ・ レポート内容 | 30 点…レポートと学習指導プラン各 1 回の提出を求める。 |
| ・ 授業時の態度・活動 | 30 点…上のレポートをグループでの議論・発表することをはじめとして、随時、グループでの議論を行う予定にしている。その際の、協議の方法、発表内容等も評価する。 |
| ・ 期末テスト | 40 点…2 / 3 以上の出席がない場合、受験資格を失う。 |
| ・ 合 計 | 100 点 |

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2 単位	教職担当教員：板山勝樹 教科担当教員：渡慶次正則（英語） 與那嶺剛（地理歴史） 林優子（商業） 田邊勝義（情報）		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 25 人 (4クラスで実施)					
教員の連携・協力体制 第1～6回、第10、第16回は、「教育の基礎的理解に関する科目等」の担当者が連携・協働して取り組む。 第7～9回、第11～15回は、「各教科の指導法又は各教科の実践研究」の担当者が連携・協働して取り組む。					
授業のテーマ及び到達目標 教師となる上での課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目標とする。					
授業の概要 実務経験のある教員が担当し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として、「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」・「社会性や対人能力に関する事項」・「幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」・「教科・保育内容等の指導力に関する事項」の定着を図る。					
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の目的・内容・方法の説明，シラバスの確認，教職履修カルテと学びの振り返り，登録等。『人権論の教科書』序章（2-17頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第2回：指導事例を考える 様々な問題を抱えた生徒の事例に対して，どのように取り組むのかをグループ・ディスカッションを行い，その方策を検討する。『人権論の教科書』第2章（38-54頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第3回：人権教育について考える 人権教育とは何を課題として，どのように取り組まれる教育なのかについての理解を深める。『人権論の教科書』第5章（93-109頁）、第11章（207-224頁）、第12章（225-245頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第4回：子どもの貧困とその克服策を考える 社会問題化している子どもの貧困を巡る課題とその課題の克服策についてのグループ・ディスカッションを行い，整理してゆく。『人権論の教科書』第10章（187-204頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。 第5回：LGBTQについての理解を深める					

LGBTQ当事者を講師として招き、問題の概要とその克服に向けた方向性についての理解を深める。『人権論の教科書』第7章（129-145頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。

第6回：教師のストレスマネジメントについて考える

若年教師が早期退職に追い込まれる原因の一つであるストレスをマネジメントすることができるとをめざし、その方法等を理解する。『人権論の教科書』第9章（167-186頁）を事前に読んだうえで、授業に参加すること。

第7回：各教科等に分かれた模擬授業等 1

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第8回：各教科等に分かれた模擬授業等 2

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第9回：各教科等に分かれた模擬授業等 3

各教科等（（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第10回：教育・養護実習報告

教育・養護実習報告書に記述した内容に基づき、実習を通して学んだこと、明らかになったこと等をPPTに整理し、報告する。

第11回：各教科等に分かれた模擬授業等 4

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第12回：各教科等に分かれた模擬授業等 5

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第13回：各教科等に分かれた模擬授業等 6

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第14回：各教科等に分かれた模擬授業等 7

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第15回：各教科等に分かれた模擬授業等 8

各教科等（英語・地理歴史・商業・情報）に分かれ、模擬授業とその振り返り（グループ・ディスカッションを含む）、学校現場実践者を招いた講話等を中心として行う。

第16回：大学での教職課程及び教職実践演習を振り返り、最終レポートを記述し、提出する。

テキスト

テキストとして、古橋エツ子監修・和田幸司編『人権論の教科書』ミネルヴァ書房を用いる。

参考書・参考資料等

自作のテキスト・資料等を用いる。なお、文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』、『中学校 学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』、『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』を参照すること。

学生に対する評価

- ・教職関係の評価 50点・授業時の態度・活動、発表内容、最終レポート等評価する。
- ・各教科等の評価 50点・授業時の態度・活動、発表内容、最終レポート等評価する。
- ・合 計 100点

※1 時間を 45 分とみなし、1 回の授業時間は、90 分とする。

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。